

はりつけ原遺跡II

1998年3月

長野県飯田市教育委員会

は り つ け ^{ばら}原 ^い遺 ^{せき}跡 II

1998年3月

長野県飯田市教育委員会



はりつけ原遺跡調査区遠景

序

飯田市は、「人も自然も美しく、輝くまち飯田—環境文化都市」として基本計画に示すとおり、山紫水明の自然環境に恵まれ、原始・古代より連綿と多くの人々が生活を営んできた地域であります。近年全国的に進められている開発工事は、この飯田市においても例外ではなく、現在まで保存されてきた埋蔵文化財が破壊されつつあります。しかし、地域社会の発展を考える上では、発掘調査を行い記録保存によって埋蔵文化財を後世に残す事はやむを得ない事と考えております。

発掘調査によって先人たちの生活の様子を示す事実が最近次々と確認されています。これらの事実一つ一つの積み重ねにより、地域の歴史の再構築が行われ、ひいてはその成果が現在の我々の生活に還元されるものであります。

今回発掘調査を実施したはりつけ原遺跡は、飯田市伊賀良地区に所在し、弥生時代を中心とした遺跡です。本遺跡内に株式会社ナガイによる物流センターの建設計画が立案され、仲介の飯田市工業課・事業主体者及び教育委員会とで協議を行った結果、緊急発掘調査を行い、記録保存を行う事となりました。発掘調査では弥生時代の竪穴住居址や方形周溝墓が数多く発見され当市の弥生時代研究に新知見を得る事となりました。

最後になりましたが調査実施にあたり文化財保護の本旨に厚い御理解・御協力を賜った株式会社ナガイ様、地元の皆様、現地・整理作業に従事された作業員の方々に深甚なる謝意を申し述べる次第であります。

平成10年3月

長野県飯田市教育委員会

教育長 小林 恭之助

例 言

1. 本報告書は民間の物流センター建設に伴い実施された、飯田市伊賀良大瀬木所在の埋蔵文化財包蔵地はりつけ原遺跡の緊急発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は株式会社ナガイからの委託を受け、飯田市教育委員会が実施した。
3. 調査は、平成8年度に現地調査を、9年度に整理作業及び報告書作成を行った。
4. 発掘調査及び整理作業は、一貫して遺跡名に略号HTB189-1を用い、遺構には以下の略号を用いた。竪穴住居址・SB 方形周溝墓・SM 溝址・SD
5. 発掘調査位置は国土基本図の区画、LC-84に位置し（社団法人日本測量協会 1969 「国土基本図式 同適用規定」参照）、グリッド設定は株式会社ジャステックに委託した。
6. 本遺跡は昭和63年度に市道熊野殿岡線改良工事に伴う発掘調査において1次調査が行われており、今次調査は2次調査として扱う。よって遺構番号は1次調査の連番とした。
7. 本書の記載については、住居址・墓・溝址・ピットの順とした。遺構図は本文と併せ挿図とし、遺物図版・写真図版は本文末に一括した。
8. 土層観察については小山正忠・竹原秀雄 1996 『新版標準土色帖』による。
9. 本書は調査担当者で協議の上、吉川金利が執筆・編集を行い、小林正春が総括した。
10. 現地での遺構測量及び図面整理は新井幸子・伊東裕子・竹本常子・樋本宣子・吉沢佐紀子が、遺物実測は鳴海紀彦・吉川悦子が、トレースは宮内真理子・吉川悦子がそれぞれ行い、吉川金利・福澤好晃が補佐した。
11. 本書に掲載した遺構図の中に記した数字は、それぞれの深さ（単位cm）を表している。
12. 本書に関連する出土品及び諸記録は飯田市教育委員会が管理し、飯田市考古資料館で保管している。

目 次

本 文 目 次

序	
例 言	
I 調査の経過	
1. 調査に至るまでの経過	1
2. 調査の経過	2
3. 調査組織	2
II 遺跡の環境	
1. 自然環境	3
2. 歴史環境	3
III 調査結果	
1. 竪穴住居址 (S B)	
S B 01	9
S B 02	10
S B 03	11
S B 04	11
S B 05	13
S B 06	14
S B 07	15
S B 08	16
S B 09	17
S B 10	18
S B 11	19
S B 12	20
S B 13	21
S B 14	22
2. 方形周溝墓 (S M)	
S M 02	23
S M 03	23
S M 04	26
S M 05	26

S M 06	29
S M 07	29
S M 08	33
S M 09	33
3. 溝址 (S D)	
S D 01	35
S D 02	35
S D 03	35
S D 04	35
S D 05	35
4. ピット	35
土層観察表	41
IV まとめ	
1. 集落について	47
2. 出土遺物について	48
3. 出土遺構について	49
図版	51
写真図版	61
報告書抄録	92

挿 図 目 次

挿図1 基準メッシュ図区画調査位置図	4
挿図2 調査遺跡及び周辺遺跡位置図	5
挿図3 調査位置図及び周辺地図	8
挿図4 S B 01	9
挿図5 S B 02	10
挿図6 S B 03	12
挿図7 S B 04	13
挿図8 S B 05	14
挿図9 S B 06	15
挿図10 S B 07	16
挿図11 S B 08	17

挿図12 S B 09	18	図版 4 SB02 同炉址 同遺物出土状況	66
挿図13 S B 10・11	19	図版 5 SB03改築前 同炉址 改築後	67
挿図14 S B 12	20	図版 6 SB03改築後炉址 SB04 同炉址	68
挿図15 S B 13	21	図版 7 SB05 同旧炉址 同新炉址	69
挿図16 S B 14	22	図版 8 SB06 同旧炉址 同新炉址	70
挿図17 S M02	24	図版 9 SB07 同炉址 同遺物出土状況	71
挿図18 S M03	25	図版10SB08 同炉址 SB09	72
挿図19 S M04	27	図版11SB09炉址 SB10 同炉址	73
挿図20 S M05	28	図版12SB11 SB12 SB13	74
挿図21 S M06	30	図版13SB13炉址 SB14 同炉址	75
挿図22 S M07・09	31・32	図版14SM02 同主体部 SM03	76
挿図23 S M08	34	図版15SM03主体部	
挿図24 S D01・02・03・04	36	SM03周溝土層セクション SM04	77
挿図25 S D05	37・38	図版16SM04主体部 SM05 同主体部	78
挿図26 ピット(1)	39	図版17SM06 同主体部 SM07	79
挿図27 ピット(2)	40	図版18SM04主体部	
挿図28遺構分布図	45・46	SM06・07切り合いセクション SM08	80
挿図29居住域変遷図	48	図版19SM08主体部 SM09 SD01～04	81

図 版 目 次

第 1 図出土遺物SB01・02	53	図版21基準点測量委託スナップ	
第 2 図出土遺物SB03～07	54	空中写真委託スナップ 調査スナップ	83
第 3 図出土遺物SB07・09・12～14	55	図版22調査スナップ	84
第 4 図出土遺物SM03・06・07・09 SD05	56	図版23SB01・02出土土器	85
第 5 図出土遺物SB01～03・05～07	57	図版24SB02・03・06・07出土土器	86
第 6 図出土遺物SB08～10・12・13	58	図版25SB07・09出土土器	87
第 7 図出土遺物SM03・06・09 SD05	59	図版26SB13・14 SM03・06出土土器	88
第 8 図出土遺物遺構外	60	図版27SD05 SB01～03・05・06	
		出土土器・石器	89
		図版28SB07～10・12・13出土石器	90
		図版29SM03・06・09 SD05 遺構外出土石器	91

写真図版目次

図版 1 調査区全景	63
図版 2 調査区全景	64
図版 3 調査区全景 SB01 同炉址	65

Ⅰ 調査の経過

1. 調査に至るまでの経過

平成8年8月12日付で、株式会社ナガイ代表取締役社長 永井嗣展より、飯田市大瀬木はりつけ原遺跡内に、物流センター及び事務所建設に関する埋蔵文化財発掘の届が提出された。開発予定地は当該遺跡のほぼ中央に位置し、隣接地では市道改良工事に先立つ発掘調査において縄文時代以降の遺構・遺物が確認されている。そこで当該地においても遺構・遺物の存在が予想されたため、埋蔵文化財保護協議を行いその結果、試掘調査を行い遺構・遺物が確認された場合改めて協議を行う事となった。

保護協議の結果を受けて同年10月21～25日に幅3mのトレンチを当該地に設定し、調査を行った結果、竪穴住居址5軒、方形周溝墓の周溝と思われる溝址3条、それらに伴う弥生時代の遺物が多数確認されたため、同年10月31日に開発主体者・長野県教育委員会・飯田市教育委員会の三者に於いて再度保護協議を行い、地下に影響が及ぶ建物建設予定地を中心とした発掘調査を行う事となった。

2. 調査の経過

以上の経過を経て、同年11月15日に開発主体者と飯田市の間において、発掘調査に関する委受託契約を締結し、同日現地調査に着手した。

調査は、工期や調査費用削減の関係から造成工事の耕作土を除去する作業と並行して行い、その段階で遺構が確認された箇所を調査していく方法を採用した。この調査方法は遺構検出が容易であった事もあるが、結果的には予定より調査が早く進み、また廃土の処理も容易で最善の方法であった。これらの方法で遺構検出・掘削・写真撮影・遺構測量等行い、同年12月17日現地での調査を終了した。現地での調査の終了後、基本的な図面・写真整理を行い平成8年度の調査は平成9年1月31日に終了した。

平成9年度に於いては出土遺物の水洗・注記・復元・実測、各種図面類の整理・第2原図作成、遺構・遺物の実測図トレース等行い、報告書刊行となった。

3. 調査組織

(1) 調査団

調査主体者	飯田市教育委員会 教育長 小林恭之助				
調査担当者	吉川 金利	福澤 好晃			
調査員	佐々木嘉和	吉川 豊	山下 誠一	馬場 保之	下平 博行
	伊藤 尚志	上沼 由彦(～9. 3)		鳴海 紀彦(9. 7～)	
作業員	新井 幸子	伊藤 孝人	伊東 裕子	井上 恵資	奥村 栄子
	金井 照子	熊崎三代吉	金子 裕子	唐沢古千代	木下由紀子
	小平不二子	小林 定雄	榊原 政夫	坂下やすゑ	佐々木文茂
	佐々木美千枝	清水 三郎	下田美美子	代田 和登	菅沼和加子
	高橋セキ子	竹本 常子	田中 薫	仲田 昭平	服部 光男

樋本 宣子	平栗 陽子	福沢 育子	福沢 幸子	藤原 健太
古根 素子	細田 七郎	松井 明治	松下 成司	松下 光利
松本 恭子	三浦 厚子	三浦 照夫	南井 規子	宮内真理子
森藤美知子	森山 律子	山田 康夫	吉川 悦子	吉川 和夫
吉沢佐紀子				

(2) 事務局

飯田市教育委員会博物館課

矢沢 与平 (博物館課長～9. 3)	小畑伊之助 (博物館課長9. 4～)
小林 正春 (博物館課 埋蔵文化財係長)	
吉川 豊 (博物館課 埋蔵文化財係)	山下 誠一 (博物館課 埋蔵文化財係)
馬場 保之 (同 上)	吉川 金利 (同 上)
福澤 好晃 (同 上)	伊藤 尚志 (同 上)
下平 博行 (同 上)	牧内 功 (博物館課 庶務係)
上沼 由彦 (財長野県埋蔵文化財センターより出向 ～9. 3)	

II 遺跡の環境

1. 自然環境（挿図2・3）

飯田市は赤石山脈（南アルプス）と木曾山脈（中央アルプス）に挟まれた伊那谷の南端にあたり、両山脈の間を天竜川が南流する。天竜川に平行する河岸段丘地形を特徴とするが、これは両山脈の形成にかかわる断層地塊運動に伴い盆地や大きな段丘崖が形成された結果であり、天竜川支流の開析等による段丘・扇状地とあいまって複雑な地形を呈している。

はりつけ原遺跡が所在する伊賀良地区は、西側と東側で大きく地形が変化している。西半は木曾山脈の前山である笠松山（1271m）・高鳥屋山（1397m）東山麓にあたり、飯田松川・茂都計川をはじめ、笠松山・高鳥屋山を源流とする入野沢川・南沢川・滝沢川・新川などの河川によって形成された広大な扇状地が広がる。扇端はおおむね北方地籍では新井付近、大瀬木で伊賀良小学校付近、中村は長清寺付近であり、これより西側は傾斜の比較的急な斜面となっている。扇端の一部は前述の線を大きく越えて東側に伸びており、下殿岡地籍まで達するものもある。扇端付近では通例の如く湧水が豊かであるが、この扇状地は小河川により幾重にも複合して形成されているため、比較的湧水に恵まれ、今日でも横井戸を利用している住宅も見られる。扇状地の形成に大きな役割を果たした小河川は、現在では堆積作用により下谷作用に転じているが、浸蝕力は弱く、開析谷の規模は比較的小さい。

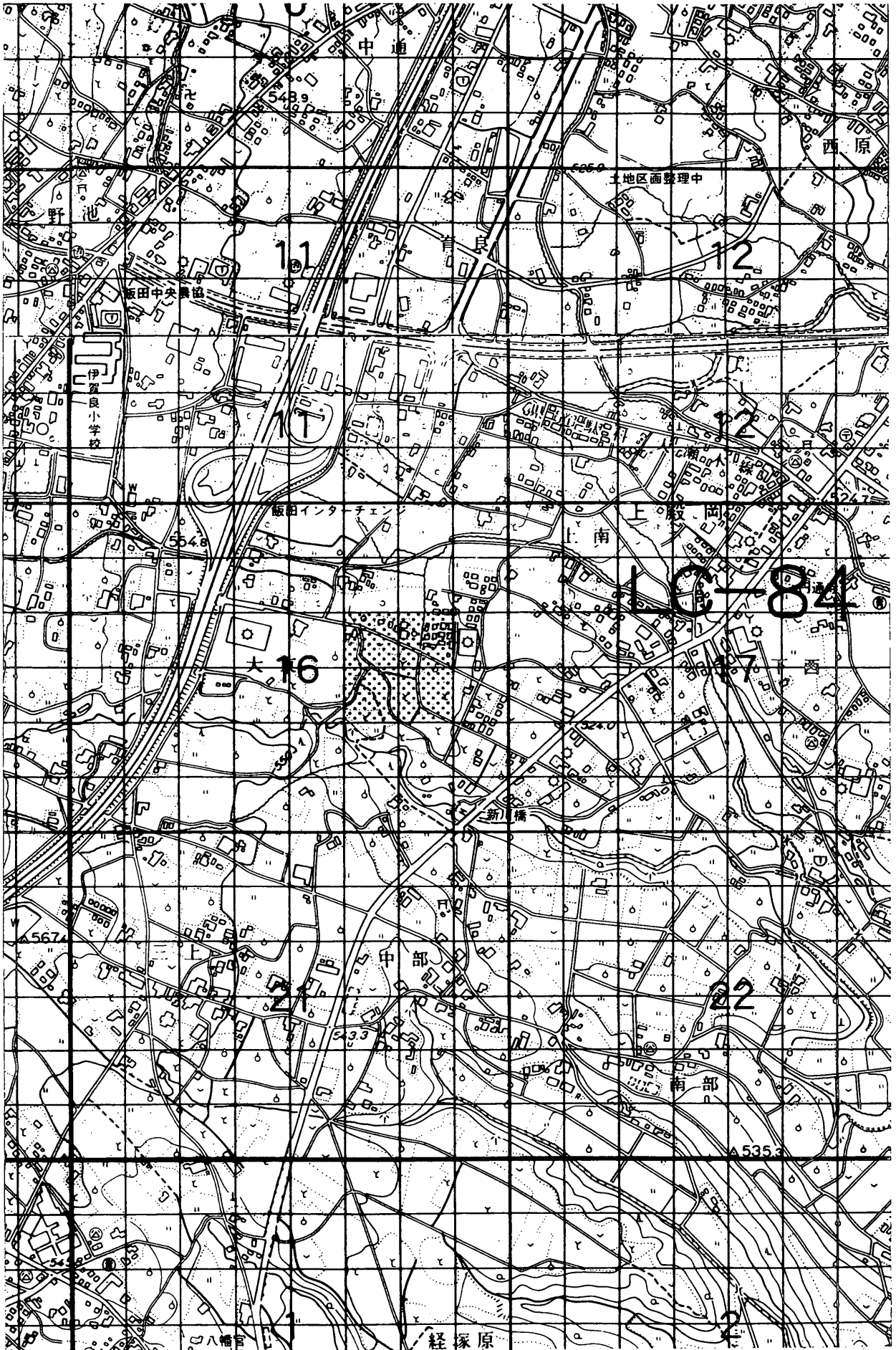
これに対し、地区の東側は基本的には高位の段丘面が多くを占めており、扇端から離れるほど地下水位が低くなる。古代末以来、この高燥な地帯への井水の開削が繰り返し行われ、大井をはじめ多くの井水が付設されているほか、地区内の大小河川は大規模な河川改修が行われてきた。

本遺跡は伊賀良地区のほぼ中央部に位置し、北東・南西側が、新川によって浸蝕された小規模な田切地形の台地上に展開されている。今次調査地点は遺跡のほぼ中央部に位置し、南東側は新川によって浸蝕された谷となっており、比高差は約10mを計る。基本層序は、上層に黒色の耕作土があり、そのすぐ下層にロームが堆積しており、土層堆積状況からみれば上層が削平されているが、砂礫等がなく、安定した地形環境にあり、集落を営むには適した所と言える。

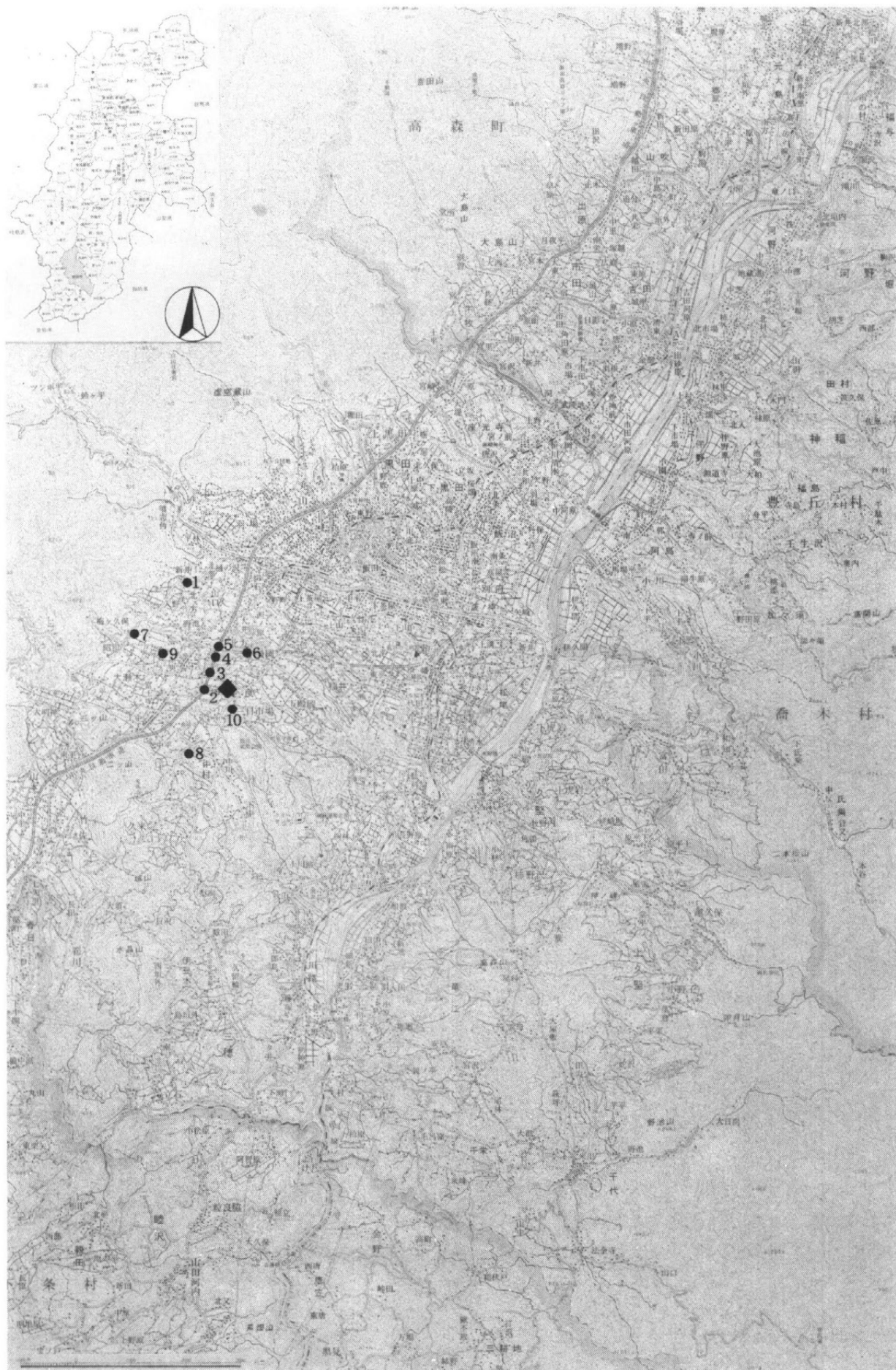
2. 歴史環境（挿図2）

伊賀良地区は埋蔵文化財包蔵地が濃密に分布しており、これまで発掘調査がなされた遺跡は、学術調査による立野(1)・山口・西の原各遺跡、中央自動車道建設にかかる与志原・上の平東部・寺山・六反田・大東(2)・酒屋前(3)・滝沢井尻(4)・小垣外（辻垣外）(5)・三壺淵・上の金谷各遺跡、一般国道153号飯田バイパス建設にかかる殿原(6)・八幡面・小垣外各遺跡、広域農道西部山麓線建設にかかる飯田垣外・火振原・梅ヶ久保・細田北(7)・北方大原・直刀原・河原林・入野・北方北の原各遺跡、諸開発に伴う中島平・宮ノ先・鳥屋平・下原・高野・公文所前・中村中平(8)・増泉寺付近・三尋石(9)・富の平・富士塚・中川・経塚原・柵口(10)各遺跡等、枚挙に遑がない。

こうした文化財に表れた先人たちの足跡は縄文時代早期まで溯る。立野遺跡・山口遺跡といった縄文時代早・前期の遺跡は主に笠松山麓の比較的標高の高い所に立地している。前期終末では辻垣外・殿原



挿図1 基準メッシュ図区画調査位置図



挿図2 調査遺跡及び周辺遺跡位置図

遺跡等扇状地の扇端付近の遺跡で竪穴住居址が調査されている。中期の遺跡は伊賀良地区の広範に分布しており、中央自動車道・西部山麓線路線にかかる扇状地上の諸遺跡や下原・公文所前といった段丘上の遺跡がある。殊に北方大原・下原・三尋石遺跡では、該期中葉から後葉の大集落の一面が調査されている。後期中葉から晩期にかけては、茂都計川に面した中村中平遺跡で、配石址・竪穴住居址・配石墓等の遺構や土偶・土製耳飾り・石棒・石剣を含む多量の遺物が調査され、不明な点が多かった該期の様相が解明されると期待されている。また、酒屋前・辻垣外・殿原遺跡で断片的な資料ではあるが遺構・遺物が確認されている。

弥生時代においても集落立地は基本的には縄文時代と変わらないと考えられるが、前期・中期についてはなお不明である。後期になると遺跡数が増加すると共に調査例も増す。これまで調査された遺跡としては、大東・上の金谷・酒屋前・滝沢井尻・宮ノ先・中島平・中村中平・三尋石・柵口遺跡等がある。該期の集落展開としては、扇状地末端の湧水線及び西方前山から東流する大小河川を利用した水田経営と高位段丘上での陸耕を基盤とするものが考えられる。殿原遺跡ではこれまで90軒にのぼる竪穴住居址が調査される等、大規模な集落が営まれていたことが判明している。また、細田北遺跡では標高700 mを超える高所から2軒の竪穴住居址が発見されており、人口の爆発的な増加とこうした高所にまで生産基盤を拡大するまでに至る生産力の向上を看取できる。

古墳は伊賀良地区では52基が確認されているが、現存するものは9基にすぎない。隣接する竜丘・松尾地区に比べ数も少なく、いずれも規模の小さい円墳である。また、該期の集落址の調査例は少なく、前期後半の上の金谷遺跡・後期の三壺淵・中島平・中村中平遺跡が調査されているのみである。遺跡数も前時代に比べると著しく減少しており、湧水・湿地を控えた集落の展開が考えられる。中村中平遺跡では、遺跡北側の台地の縁に大名塚古墳が現存し、ほかに消滅したものとして中村狐塚古墳・寺畑古墳・宮原2号古墳があり、これらの築造を担った集落であろう。また、地区内北方地籍には条里が敷かれたとも指摘されており、水田経営の定着した姿を想定する事ができよう。

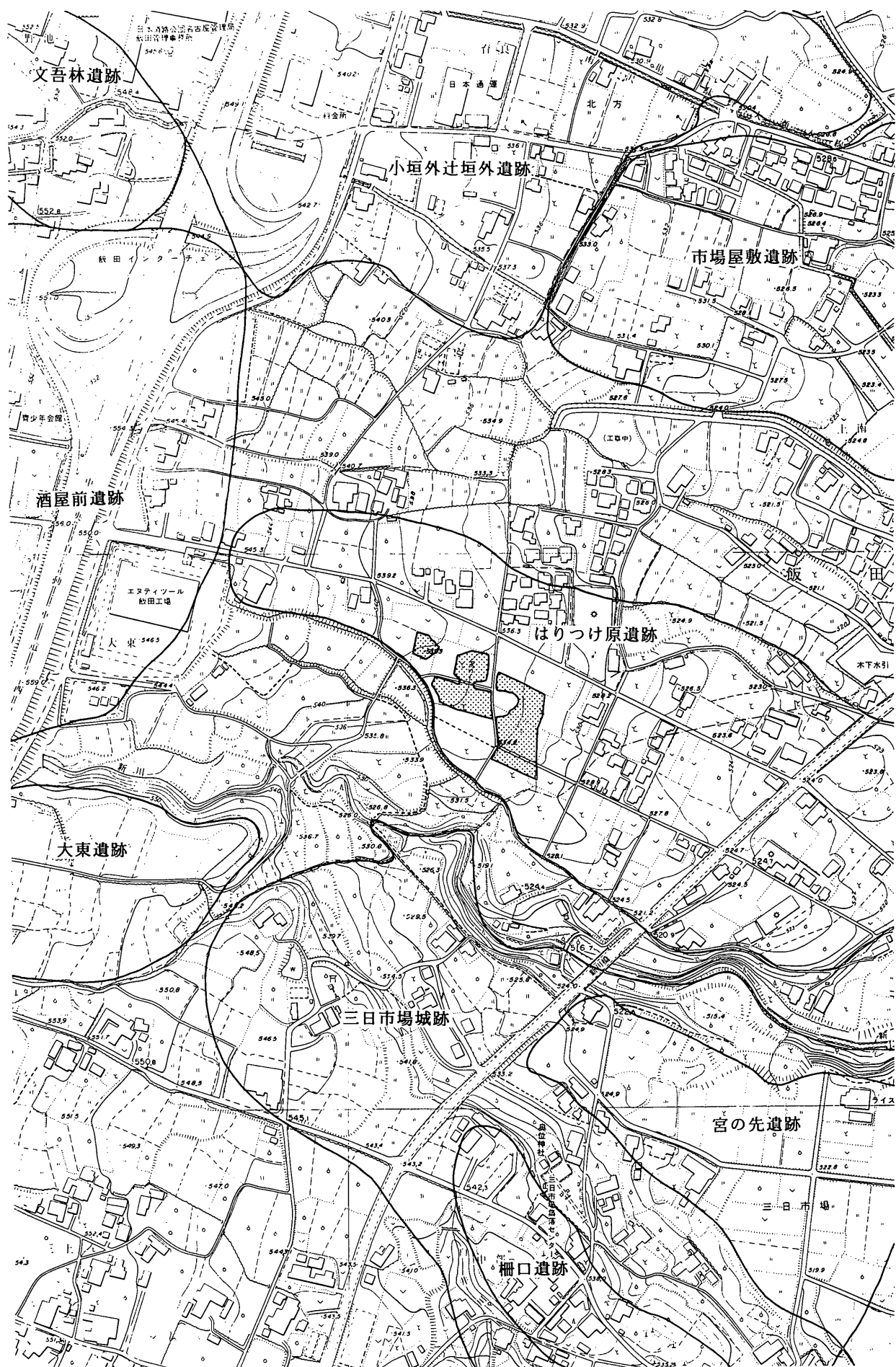
奈良時代については、具体的な遺構・遺物の調査例は中村中平遺跡のみであり、掘立柱建物址が単独で調査されたのみで、詳細は不明である。地区内には、古代東山道の経路及び「育良駅」の推定地や、荘園を構成する村落の起源等に関連すると思われる箇所があり、重要な役割を果たした地区という事ができる。

平安時代については、その末期に伊賀良庄の名が文書に登場する。その中には中村・久米・川路・殿岡が含まれる事が文献等により明らかにされており、当地区がその中心的な位置を占めていた事が考えられる。当地方における大規模な井水開発の歴史は、この時代に始まるともいわれている。殿原遺跡の調査結果はこうした説をある程度裏付けるものといえる。一方、これまで実施された発掘調査の結果、六反田・滝沢井尻・小垣外・三壺淵・上の金谷・宮の先・公文所前遺跡等地区内のほぼ全域にわたり、集落址の一部が調査されている。伊賀良庄の成立がどこまで溯るかは不明であるが、この時代の集落が前時代よりも増加する事はこの地区の開発が一段と進んだ証左であろう。隣接する山本久米地区には真言宗の古刹光明寺がある。胎内に「保延六(1140)年」の銘をもつ薬師如来坐像がある事から、寺の創建はこれより遡ると考えられ、伊那谷の中ではいち早く中央の文化を取り入れた先進地域の一つであったと思われる。さらにこの時代には三日市場地籍に須恵器を生産した土器(かわらけ)洞窯跡があり、ここで生産された須恵器が下伊那全域に分布するなど、手工業生産の発達が見られる。

中世においては鎌倉時代には北条時政が伊賀良庄地頭であり、以後一族の江馬氏がこれを継いだ。その地頭代が地区内に居を構えたことは疑いなく、鎌倉末期には荘園を自領化していたことが三浦和田文書に窺える。この時代の文化財としては、藤原様式の流れを汲む鎌倉初期の光明寺の阿弥陀如来坐像（国指定重要文化財）がある。

北条氏の滅亡後、信濃守護職小笠原氏は伊賀良庄を与えられ、その下で伊賀良地区の開発は急速に進んだとされる。地区内の井水の大半はこの時代の開発と考えられ、小笠原氏の勢力伸長の基盤として当地区が大きな役割を果たしたといえる。室町時代中期以降、小笠原氏内訌に伴い松尾城・鈴岡城の支城が各地に築かれ、地区内には下の城跡・桜山城跡・三日市場城跡などがある。

以上、各時代について概観したが、こうした歴史の脈絡の中で、今次調査の成果がどのように位置付けられるかは、本書の内容により明らかにされるといえる。



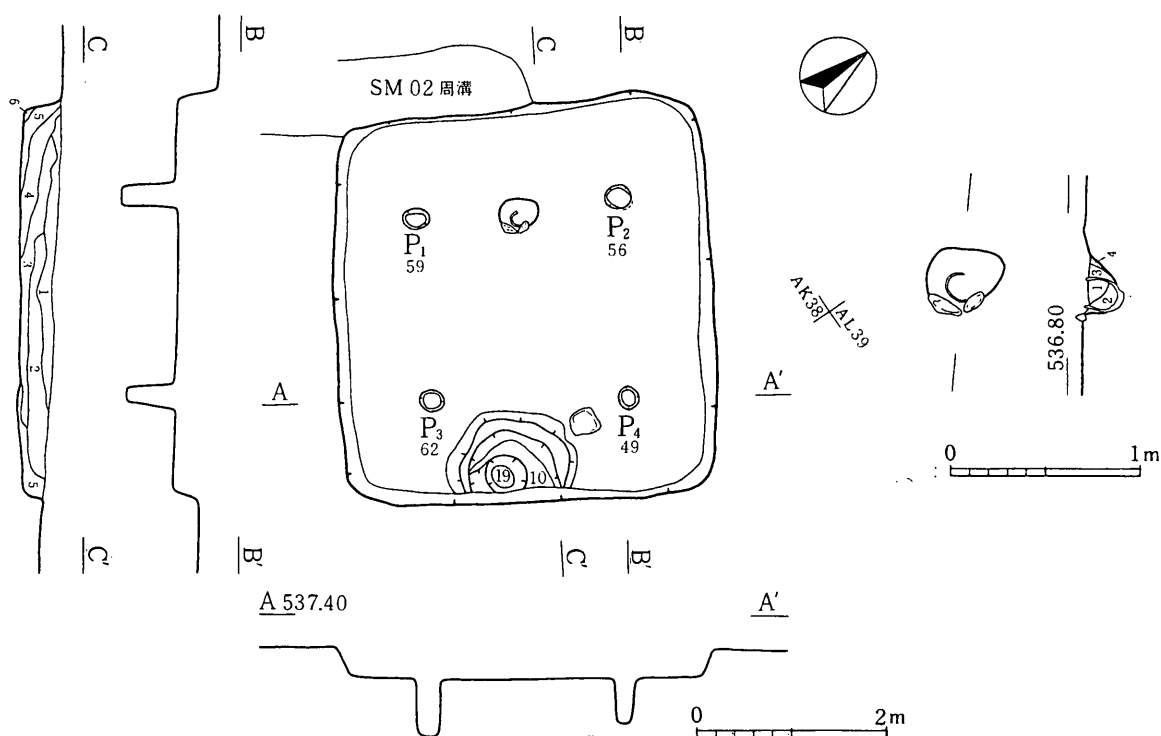
挿図3 調査位置図及び周辺地図

Ⅲ 調査結果

1. 竪穴住居址 (S B)

S B01 (挿図4)

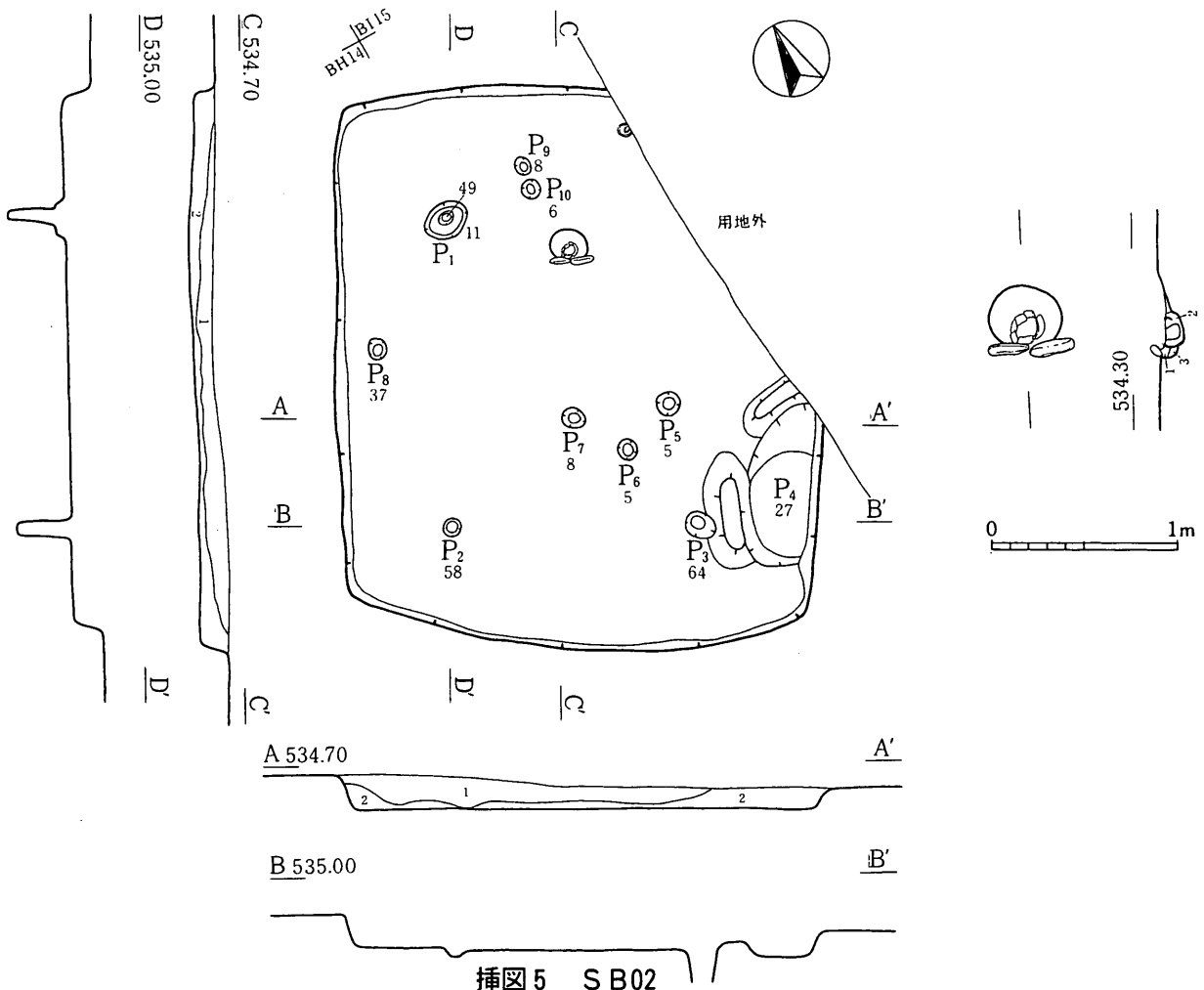
検出位置	A I - 38	覆土	自然埋没	
切合	切る	床面	たたき状	
	切られる	SM02		
規模・形状	プラン	隅丸方形	住居内施設	
	規模m	4.2×4.0		主柱穴
	主軸	N58° W	貯蔵穴	
	壁高cm	40	入口	P 5 土手状縁部を有する
	状態	ほぼ垂直	炉・竈	形状
		規模cm		40×35
		特記事項	埋設炉使用土器 1 - 4	
出土遺物 (図版 1・5)				
壺 甕 有肩扇状形石器				
特記事項				
時期	弥生時代後期後半	根拠	出土遺物・住居址形態	



挿図4 SB01

S B02 (挿図5)

検出位置	BG-15	覆土			
切合	切る	床面	中央部を除きたたき状で良好		
	切られる	主柱穴	P1~P3		
規模・形状	プラン	隅丸長方形	住居内施設		
	規模m	6.0×5.1		貯蔵穴	
	主軸	N30°W	入口	P4 土手状縁部を有する	
	壁高cm	33	炉・竈	形状	炉縁石を有する土器埋設炉
	状態	ほぼ垂直		規模cm	80×70
		特記事項	埋設炉使用土器1-12		
出土遺物 (図版1・5)					
壺 甕					
打製石斧					
特記事項					
時期	弥生時代後期後半	根拠	出土遺物・住居址形態		



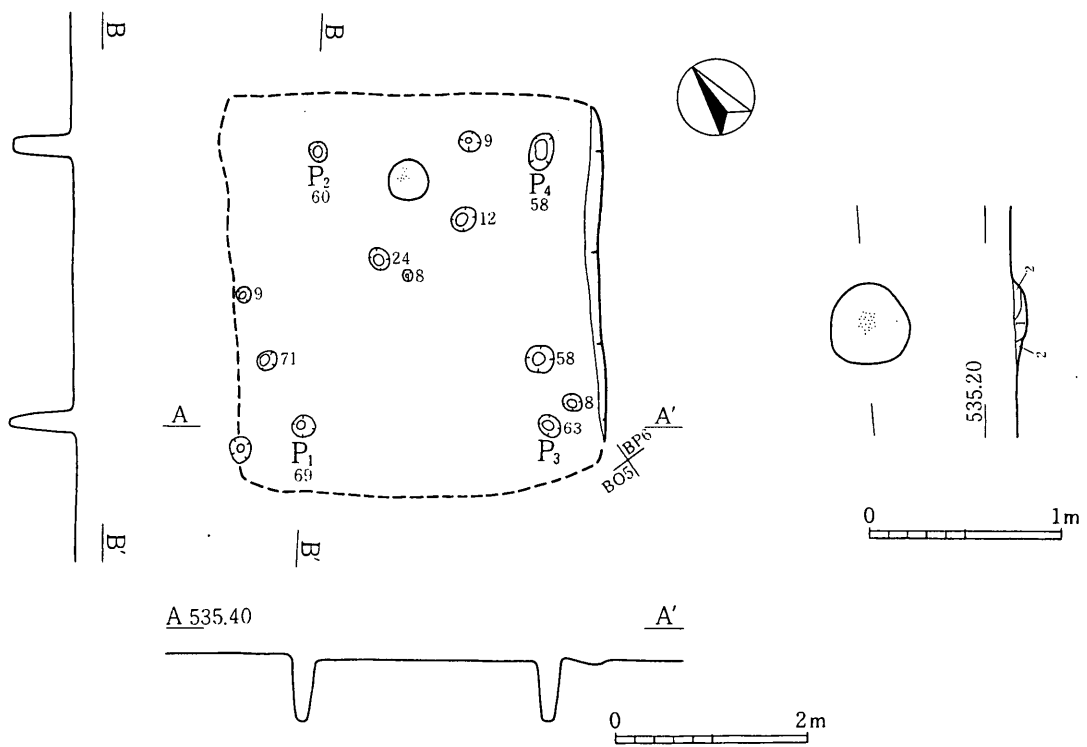
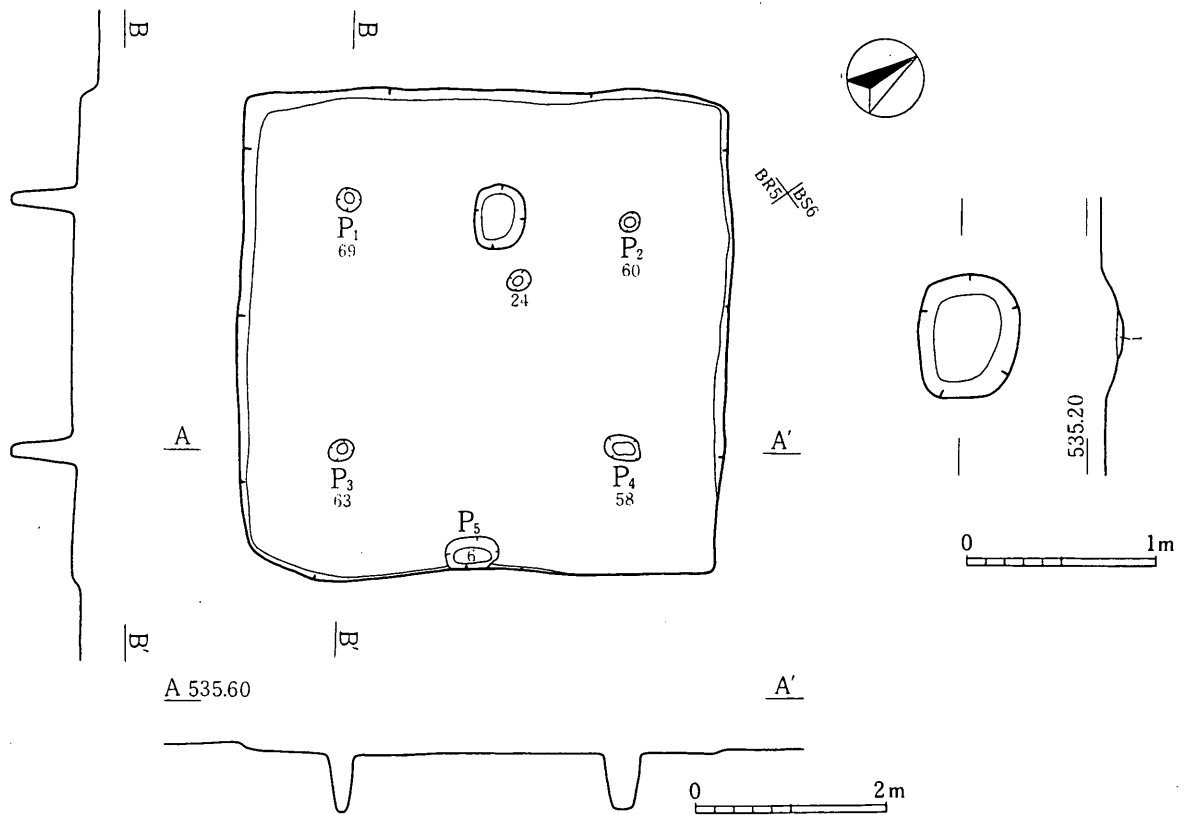
挿図5 SB02

S B03 (挿図6)

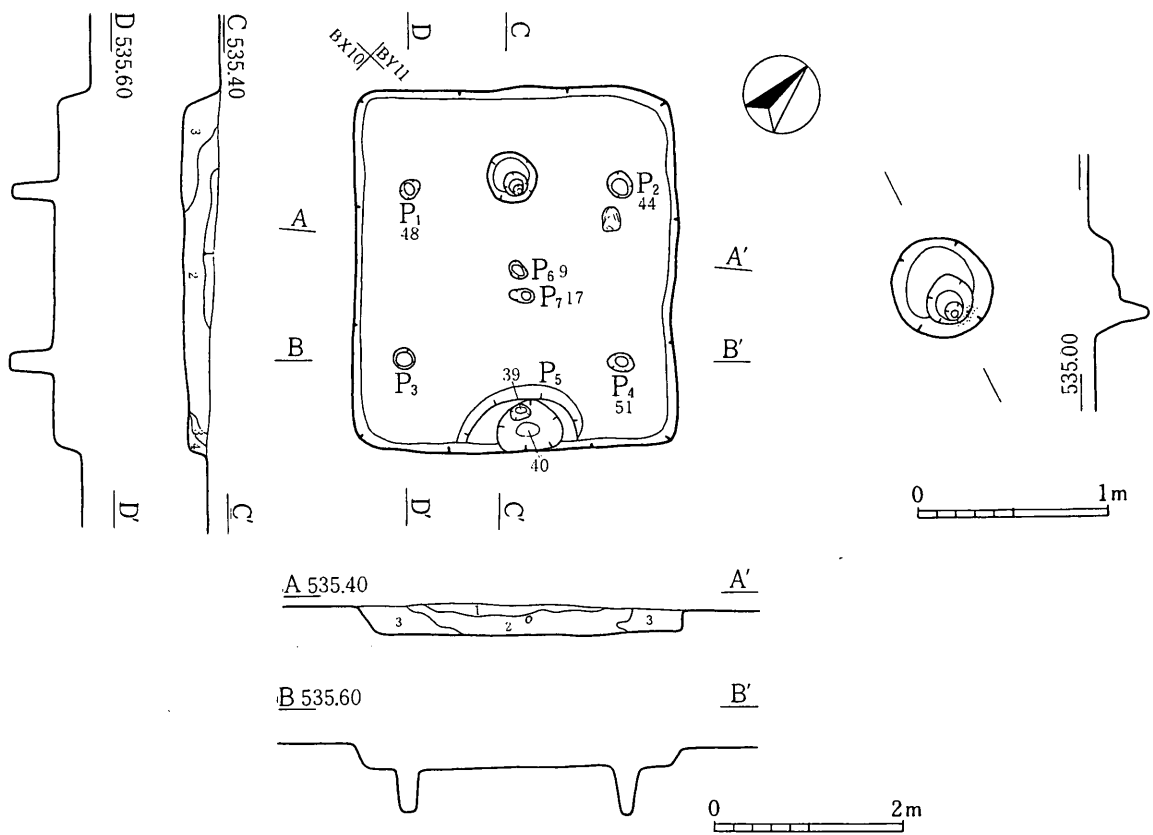
検出位置	BQ-6	覆土	自然埋没		
切合	切る	床面	部分的に軟弱で全般に不良		
	切られる				
規模・形状	プラン	住居内施設	主柱穴	P1~P4 (新旧共通)	
	規模m		貯蔵穴		
	主軸		入口	P5 (新)	
	壁高cm		炉・竈	形状	新旧共に地床炉
	状態			やや緩やか	規模cm
		特記事項			
<p>出土遺物 (図版2・5)</p> <p>高坏</p> <p>打製石斧 有肩扇状形石器</p>					
<p>特記事項</p> <p>増改築が見られる。主軸はほぼ90° 変更している。</p>					
時期	弥生時代後期	根拠	出土遺物・住居址形態		

S B04 (挿図7)

検出位置	BY-12	覆土			
切合	切る	床面	たたき状で良好		
	切られる				
規模・形状	プラン	住居内施設	主柱穴	P1~P4	
	規模m		貯蔵穴		
	主軸		入口	P5	
	壁高cm		炉・竈	形状	地床炉
	状態			ほぼ垂直	規模cm
		特記事項			
<p>出土遺物 (図版2)</p> <p>甕 縄文中期平出ⅢA式土器</p> <p>(平出ⅢA式土器は流れ込みであり、本址とは関係しない)</p>					
<p>特記事項</p> <p>P6・P7は間仕切りピットと思われる</p>					
時期	弥生時代後期	根拠	出土遺物・住居址形態		



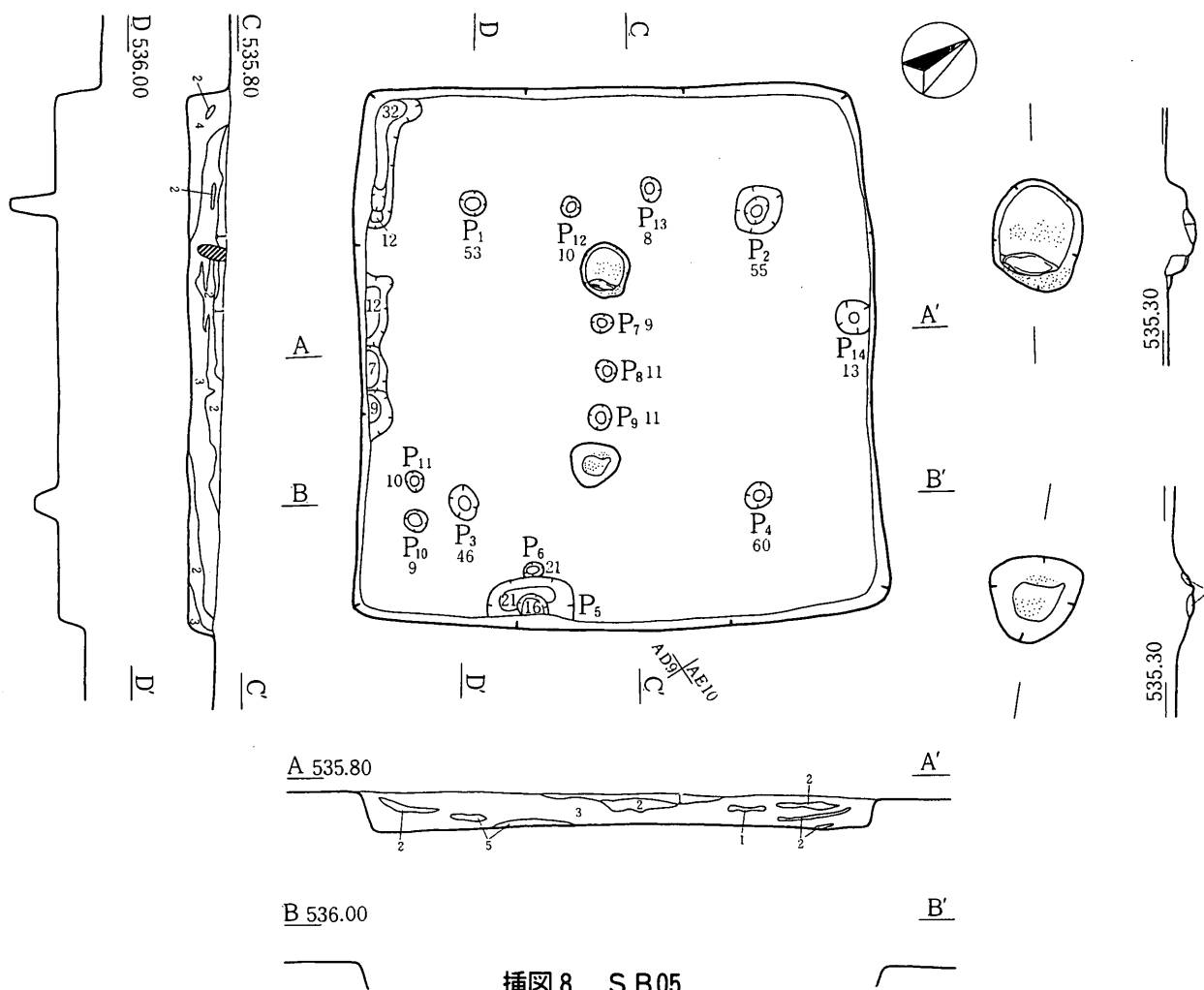
挿図6 SB03 (上新住・下旧住)



挿図7 SB04

SB05 (挿図8)

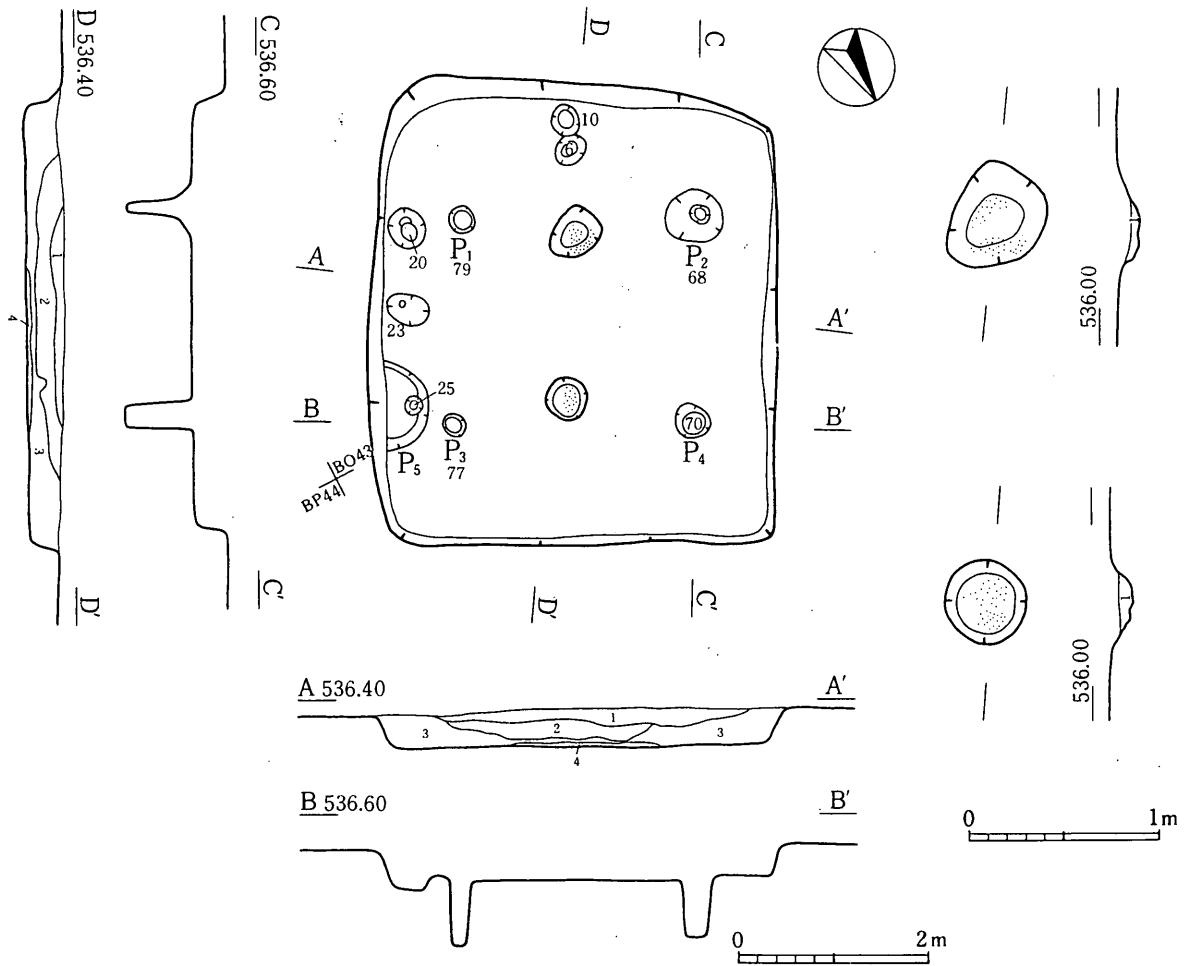
検出位置	AE-8		覆土		
切合	切る		床面	たたき状で良好	
	切られる		主柱穴	P1~P4	
規模・形状	プラン	隅丸方形	住居内施設	貯蔵穴	
	規模m	5.8×5.6	入口	P5・P6	
	主軸	N58°W	炉・竈	形状	新炉縁石を有する地床炉 旧地床炉
	壁高cm	50		規模cm	新58×48 旧50×48
	状態	ほぼ垂直		特記事項	炉の改築が見られる
出土遺物 (図版2・5)					
壺					
打製石斧					
特記事項					
P7~P9は間仕切りピットと思われる					
時期	弥生時代後期		根拠	出土遺物・住居址形態	



挿図 8 SB05

SB06 (挿図9)

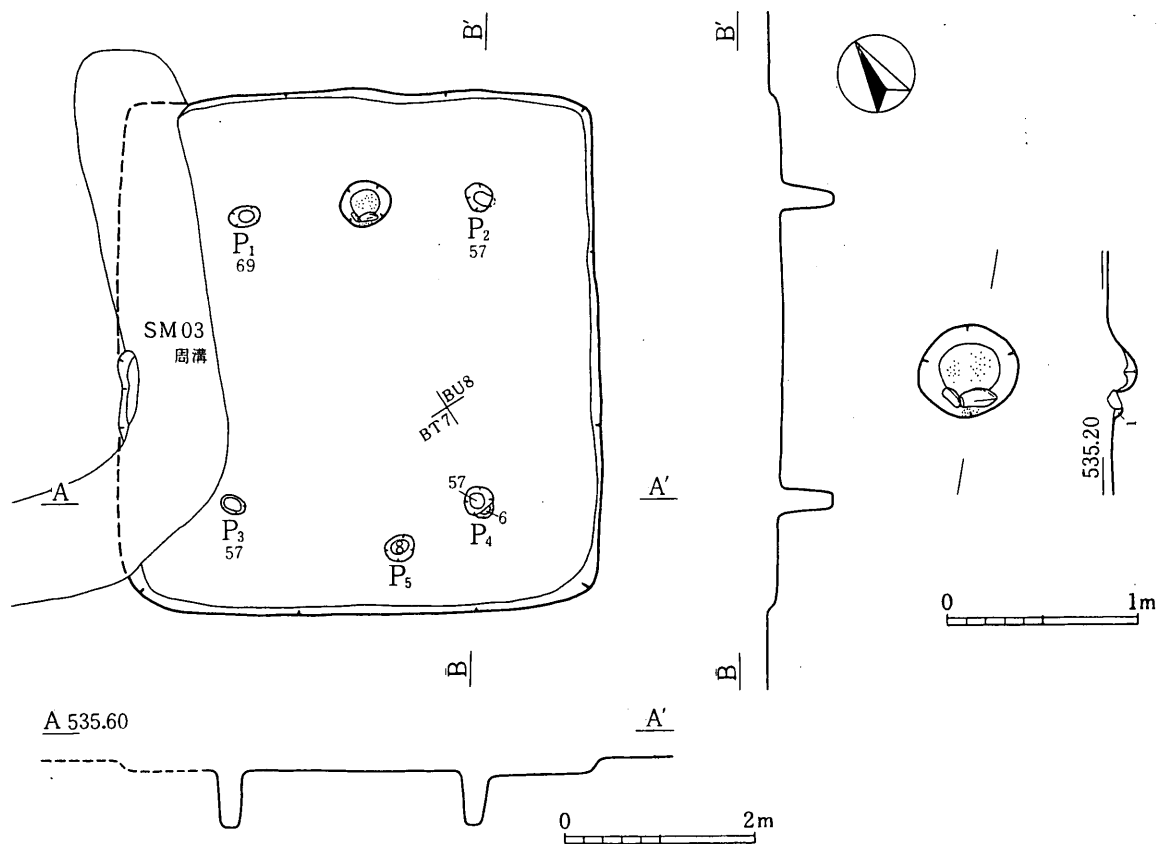
検出位置	BP-42		覆	土		
切	切	る	床	面	中央部を除きたたき状で良好	
	切	られる				
規模・形状	プラン	隅丸方形	住居内施設	主柱穴	P1~P4	
	規模m	4.8×4.2		貯蔵穴		
	主軸	N148°W		入口	P5	
	壁高cm	42		炉	形状	新地床炉 旧地床炉
					規模cm	新56×46 旧43×43
状態	ほぼ垂直	竈	特記事項	新旧あり		
出土遺物 (図版2・5) 甕 縄文中期終末結節縄文系土器 抉入打製石庖丁 紡錘車 (縄文中期終末結節縄文系土器は流れ込みで、本址とは関係しない)						
特記事項						
時期	弥生時代後期		根拠	出土遺物・住居址形態		



挿図9 SB06

SB07 (挿図10)

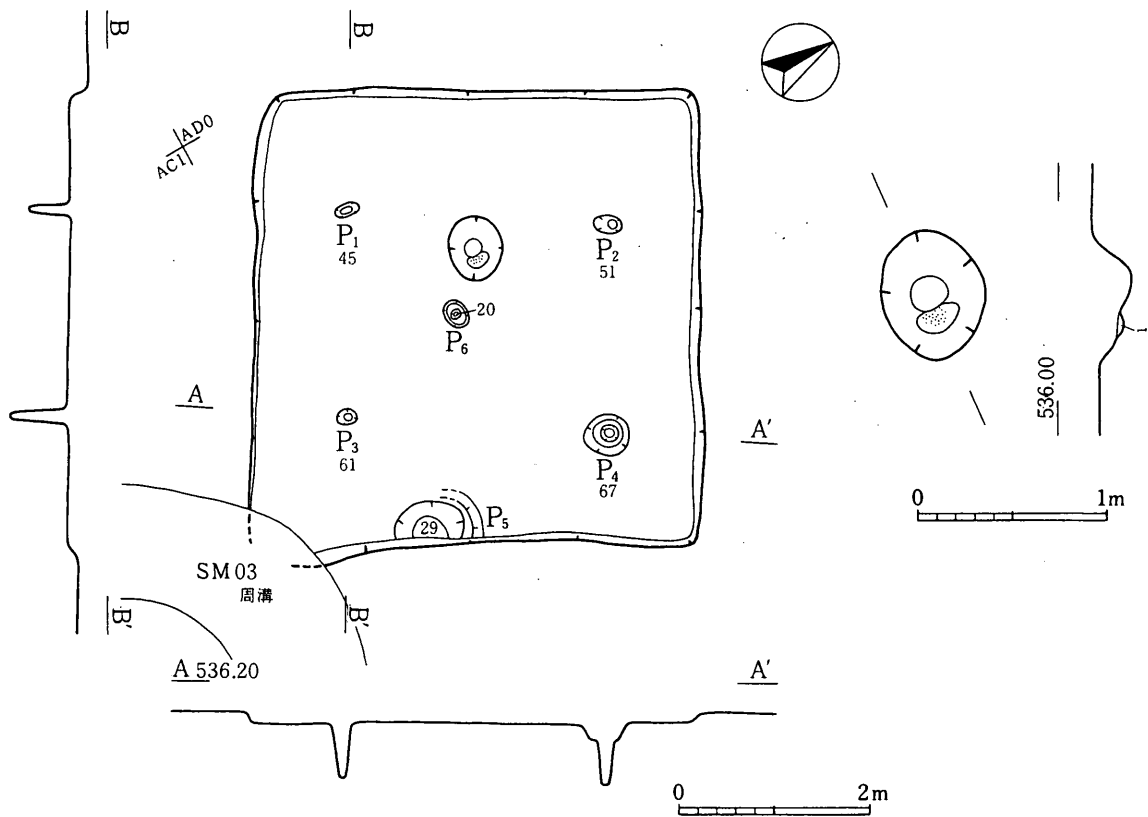
検出位置	BU-7	覆土			
切	切る	床面	中央部を除きたたき状で良好		
合	切られる	主柱穴	P1~P4		
規模・形状	プラン	隅丸方形	貯蔵穴		
	規模m	5.4×5.0	入口		
	主軸	N34°E	炉	形状	炉縁石を有する地床炉
	壁高cm	30		規模cm	130×90
	状態	やや緩やか	竈	特記事項	
出土遺物 (図版2・3・5) 壺 台付甕 有肩扇状形石器 凹石					
特記事項 床面に炭化物が多く、焼失家屋と思われる。					
時期	弥生時代後期後半	根拠	出土遺物・住居址形態		



挿図10 SB07

SB08 (挿図11)

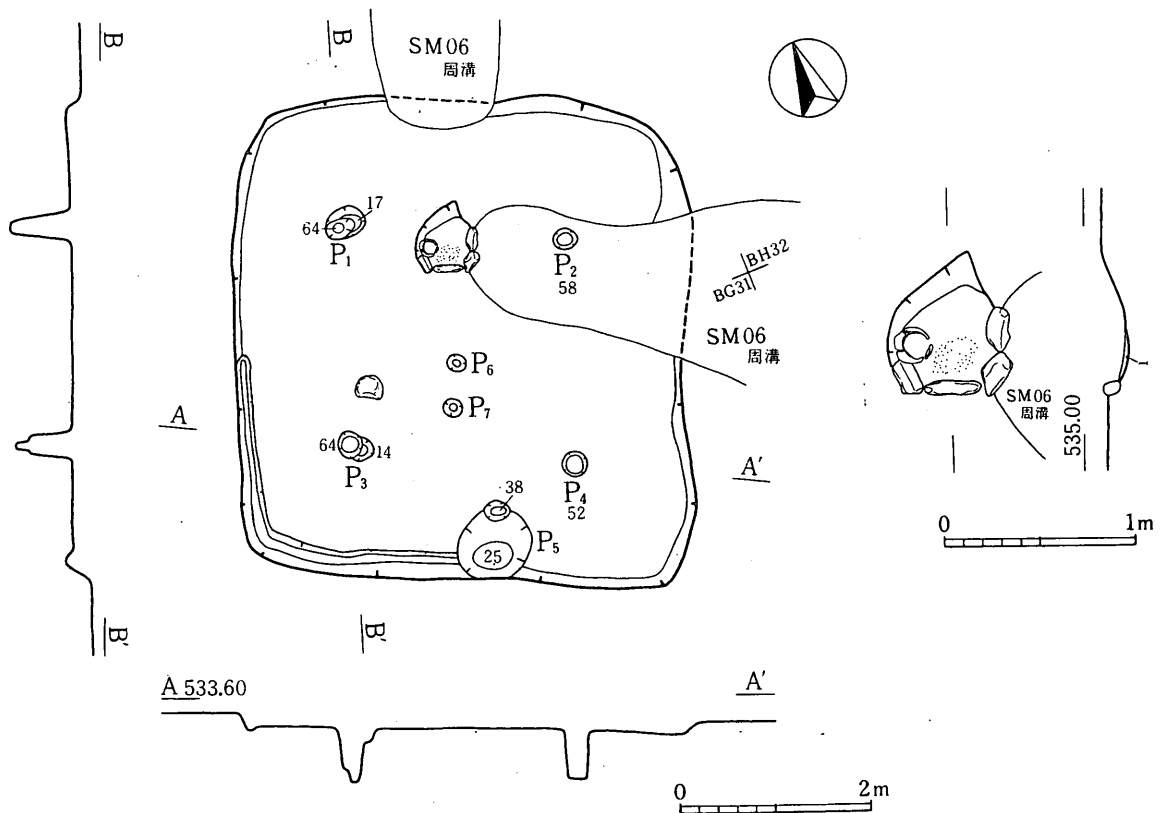
検出位置	AE-2	覆土	
切	切る	床面	たたき状で良好
合	切られる	SM03	
規模・形状	プラン	隅丸方形	住居内施設
	規模m	4.7×4.6	主柱穴
	主軸	N58°W	貯蔵穴
	壁高cm	20	入口
	状態	やや緩やか	P5 土手状縁部を有する
			炉形状
		規模cm	57×55
		特記事項	
出土遺物 (図版6)			
打製石斧 有肩扇状形石器 磨石			
特記事項			
P6は間仕切りピットと思われる			
時期	弥生時代後期	根拠	出土遺物・住居址形態



挿図11 S B08

S B09 (挿図12)

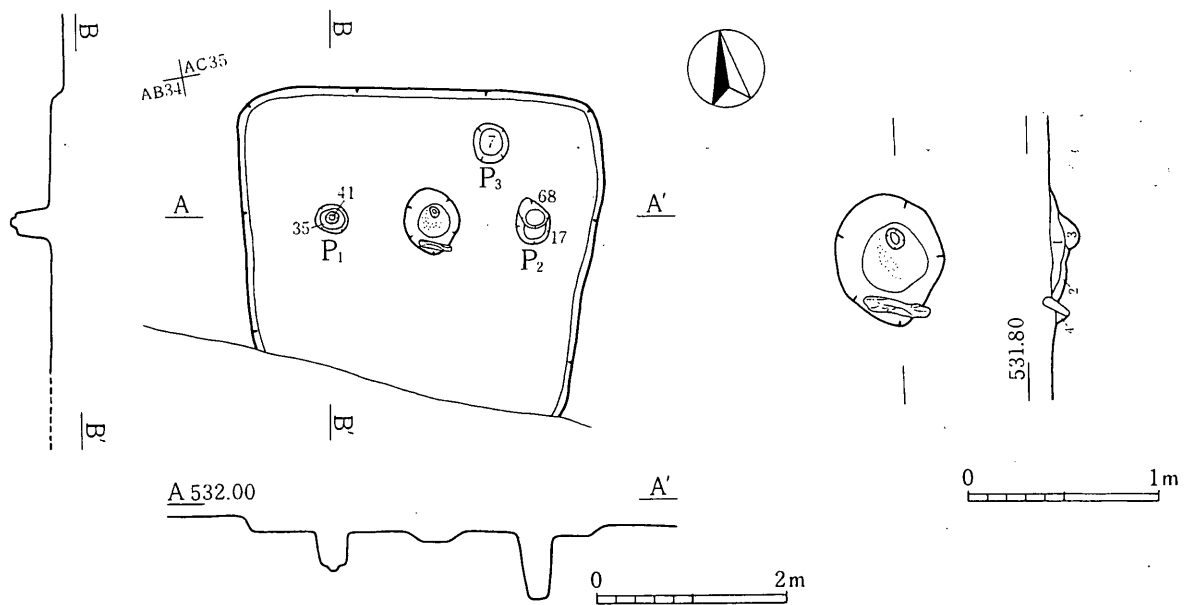
検出位置	BH-30	覆土	
切合	切る	床面	たたき状で良好
	切られる	SM06	
規模・形状	プラン	隅丸方形	住居内施設
	規模m	5.0×4.65	
	主軸	N23°E	
	壁高cm	15	
	状態	やや緩やか	
		主柱穴	P1~P4
		貯蔵穴	
		入口	P5
		炉形状	石囲炉(三方)
		規模cm	75×(65)
		特記事項	
出土遺物(図版3・6) 壺 甕 台付甕 高坏 打製石斧 有肩扇状形石器			
特記事項 P6・P7は間仕切りピットと思われる			
時期	弥生時代後期後半	根拠	出土遺物・住居址形態



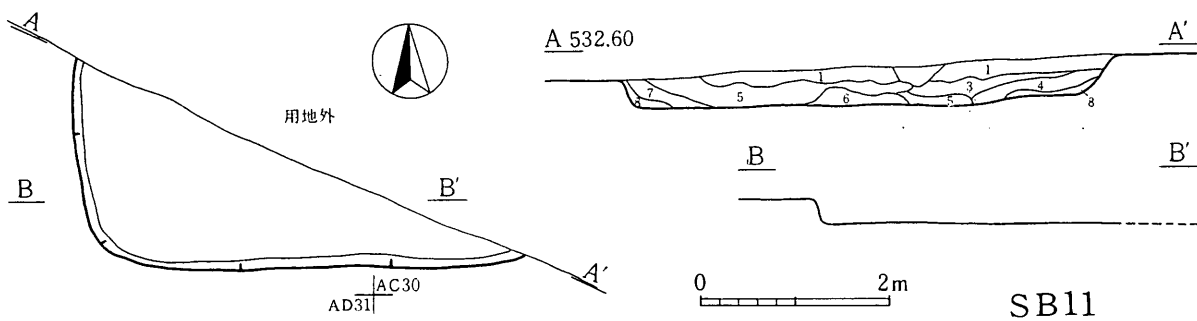
挿図12 S B09

S B10 (挿図13)

検出位置	A A - 35		覆土			
切合	切る		床面	たたき状で良好		
	切られる		主柱穴	P 1 ・ P 2		
規模・形状	プラン	(隅丸方形)	住居内施設	貯蔵穴		
	規模m	(3.3) × 3.7		入口		
	主軸	N 8 ° E		炉・竈	炉形状	炉縁石を有する地床炉
	壁高cm	18			規模cm	70 × 56
	状態	やや緩やか			特記事項	
出土遺物 (図版 6)						
打製石斧						
特記事項						
時期	弥生時代後期		根拠	住居址形態		



SB10



SB11

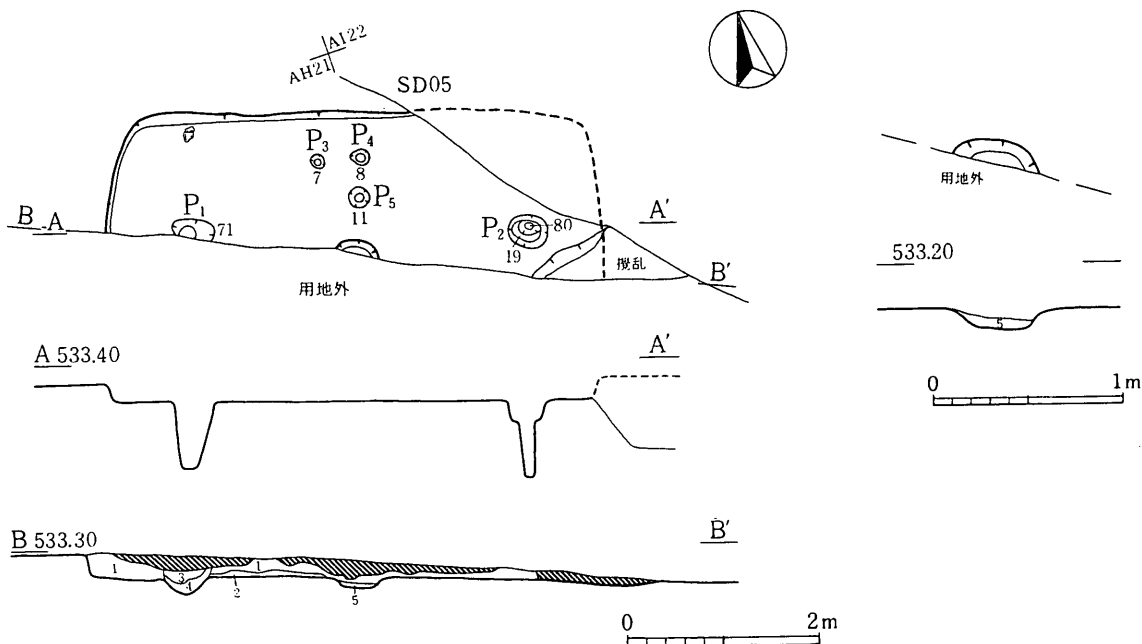
挿図13 SB10・11

SB11 (挿図13)

検出位置	AC-31	覆土	
切	切る	床面	たたき状で良好
合	切られる	主柱穴	
規模・形状	プラン (隅丸方形)	貯蔵穴	
	規模m	入口	
	主軸	炉・竈	形状
	壁高cm		規模cm
	状態	特記事項	
出土遺物 なし			
特記事項 住居址のごく一部を調査したのみで詳細不明			
時期	弥生時代後期	根拠	住居址形態

SB12 (挿図14)

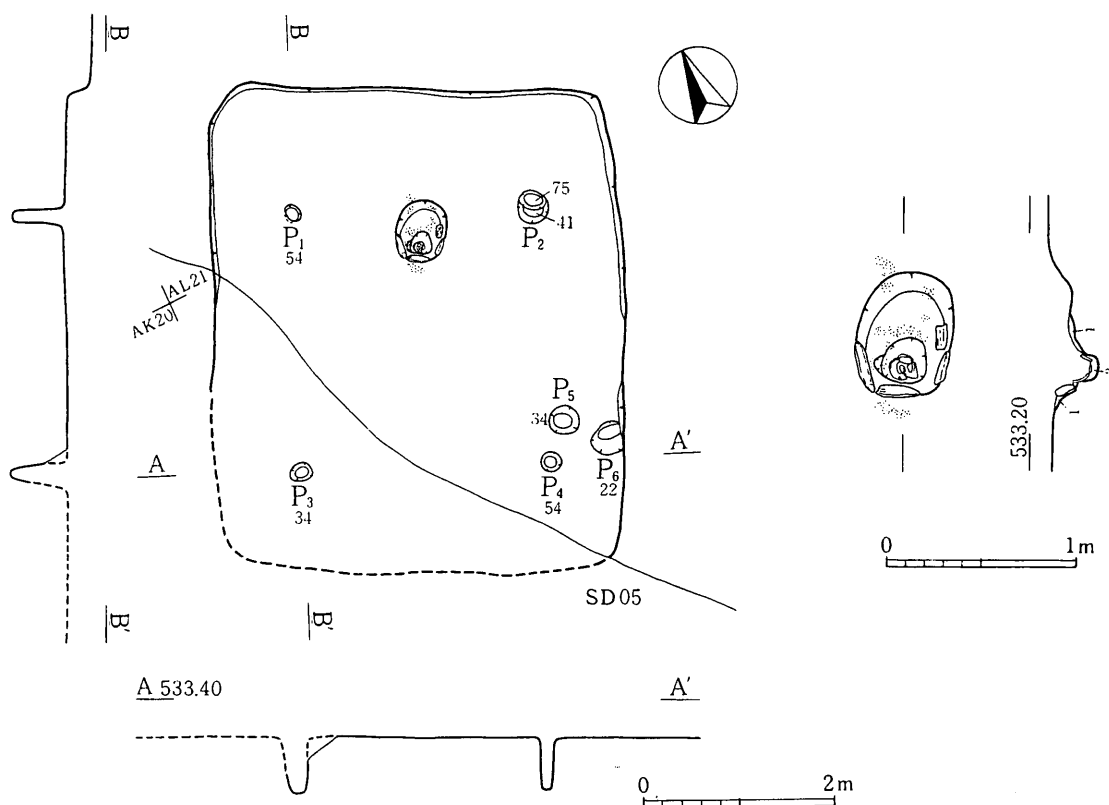
検出位置	AH-21	覆土		
切る		床面	たたき状で良好	
合	切られる	主柱穴	P1・P2	
規模・形状	プラン	(隅丸方形)	住居内施設	
	規模m	(1.5)×(5.2)		
	主軸	N17°E	貯蔵穴	
	壁高cm	20	入口	
	状態	ほぼ垂直	炉・竈	形状 (地床炉)
			規模cm	
			特記事項	一部を調査
出土遺物 (図版6)				
有肩扇状形石器				
特記事項				
時期	弥生時代後期	根拠	住居址形態	



挿図14 SB12

SB13 (挿図15)

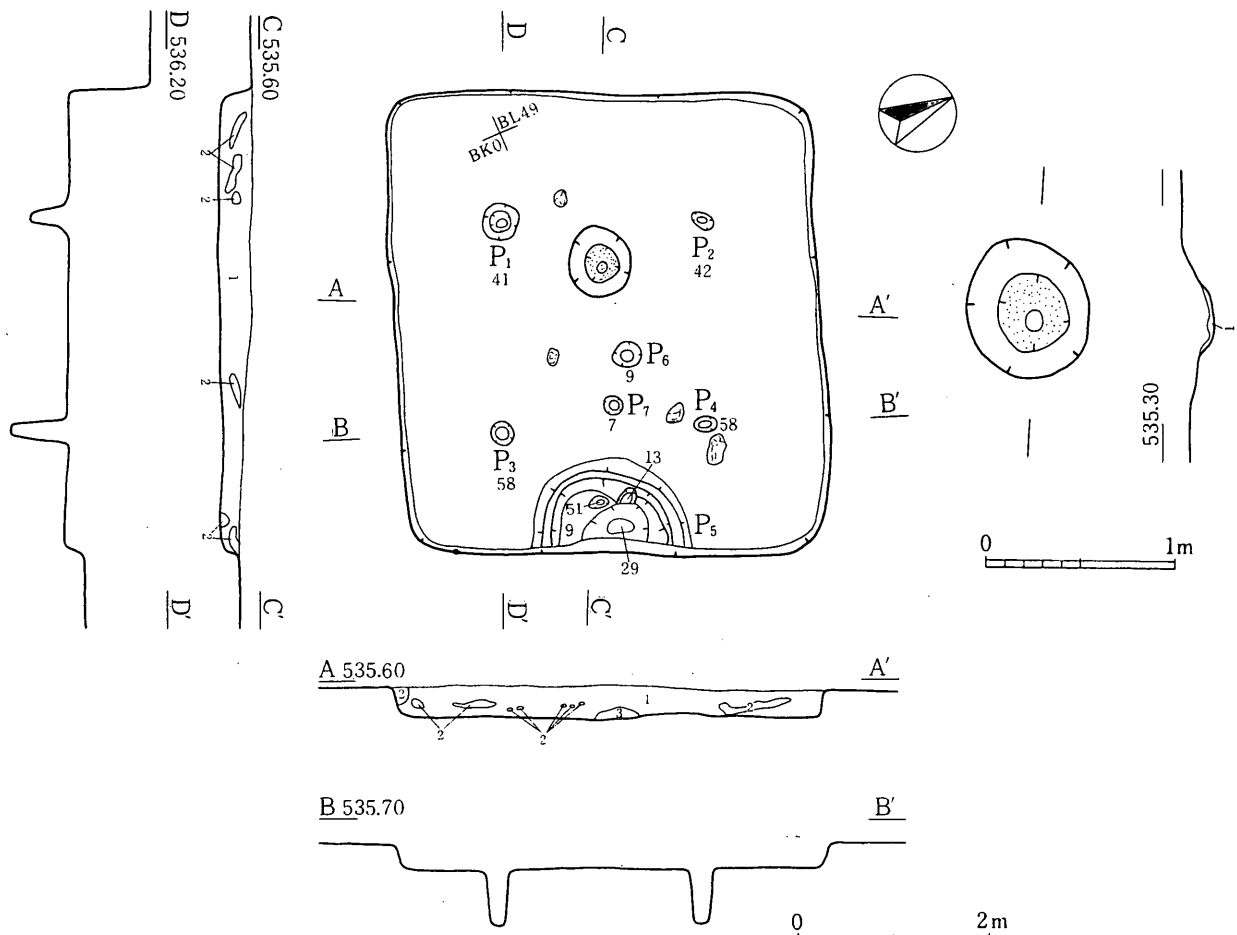
検出位置	AK-22覆土	覆土			
切合合	切る	床面	たたき状で良好		
	切られる	SD05			
規模・形状	プラン	(隅丸長方形)	住居内施設		
	規模m	(5.1)×4.3		主柱穴	P1~P4
	主軸	N24°E		貯蔵穴	
	壁高cm	24	入口		
	状態	ほぼ垂直	炉	形状	石囲土器埋設炉
		竈	規模cm	63×50	
			特記事項	北側の石は抜かれた可能性がある	
出土遺物 (図版6)					
砥石 凹石					
特記事項					
P2より石囲炉のものと思われる礫が出土しており、炉址は石囲土器埋設炉と判断した					
時期	弥生時代後期	根拠	住居址形態		



挿図15 SB13

S B 14 (挿図16)

検出位置	BL-1	覆土			
切合	切る	床面	たたき状で良好		
	切られる	主柱穴	P1~P4		
規模・形状	プラン	隅丸方形	住居内施設		
	規模m	4.8 × 4.4		貯蔵穴	
	主軸	N25° E	入口	P5 土手状縁部を有する	
	壁高cm	35	炉・竈	形状	地床炉
	状態	ほぼ垂直		規模cm	
特記事項					
出土遺物 (図版3) 壺					
特記事項					
時期	弥生時代後期	根拠	出土遺物・住居址形態		



挿図16 S B 14

2. 方形周溝墓 (SM)

SM02 (挿図17)

検出位置	AL-35	主	規模 m	1.36×0.82×0.21	
重切る	SB01		主軸	N63°W	
複切られる	なし	体	形態	隅丸長方形	
周溝規模・形状	規模 m		8.75×8.75	覆土	
	主軸	N63°W	施設	木棺の小口痕と思われるピット	
	形態	方形	その他	土橋	東・西周溝コーナーに2箇所
	覆土	自然埋没		墳丘	不明
	幅 cm	49~120			
	深 cm	18~32			
	断面形	逆台形及びU字形			
出土遺物 (図版)		特記事項			
なし					
時期	弥生時代後期	根拠	周囲の遺構の状況		

SM03 (挿図18)

検出位置	BX-04	主	規模 m	2.33×1.3	
重切る	SB07・08		主軸	N74°W	
複切られる	なし	体	形態	隅丸長方形	
周溝規模・形状	規模 m		13.85×12.6	覆土	
	主軸	N72°W	施設	ピット	
	形態	方形	その他	土橋	東側周溝
	覆土	自然埋没		墳丘	不明
	幅 cm	45~82			
	深 cm	15~94			
	断面形	逆台形及びV字			
出土遺物 (図版 3・4・7)		特記事項			
壺 甕 台付甕 高坏 打製石斧 磨製石斧		周溝内側のピットは本址とは関係なし			
時期	弥生時代後期後半	根拠	出土遺物		

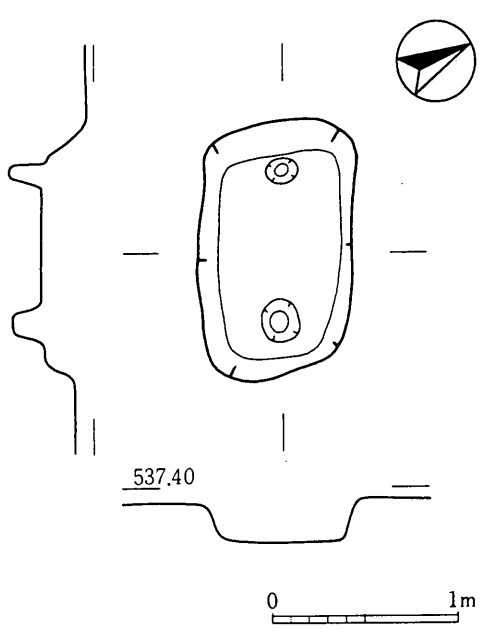
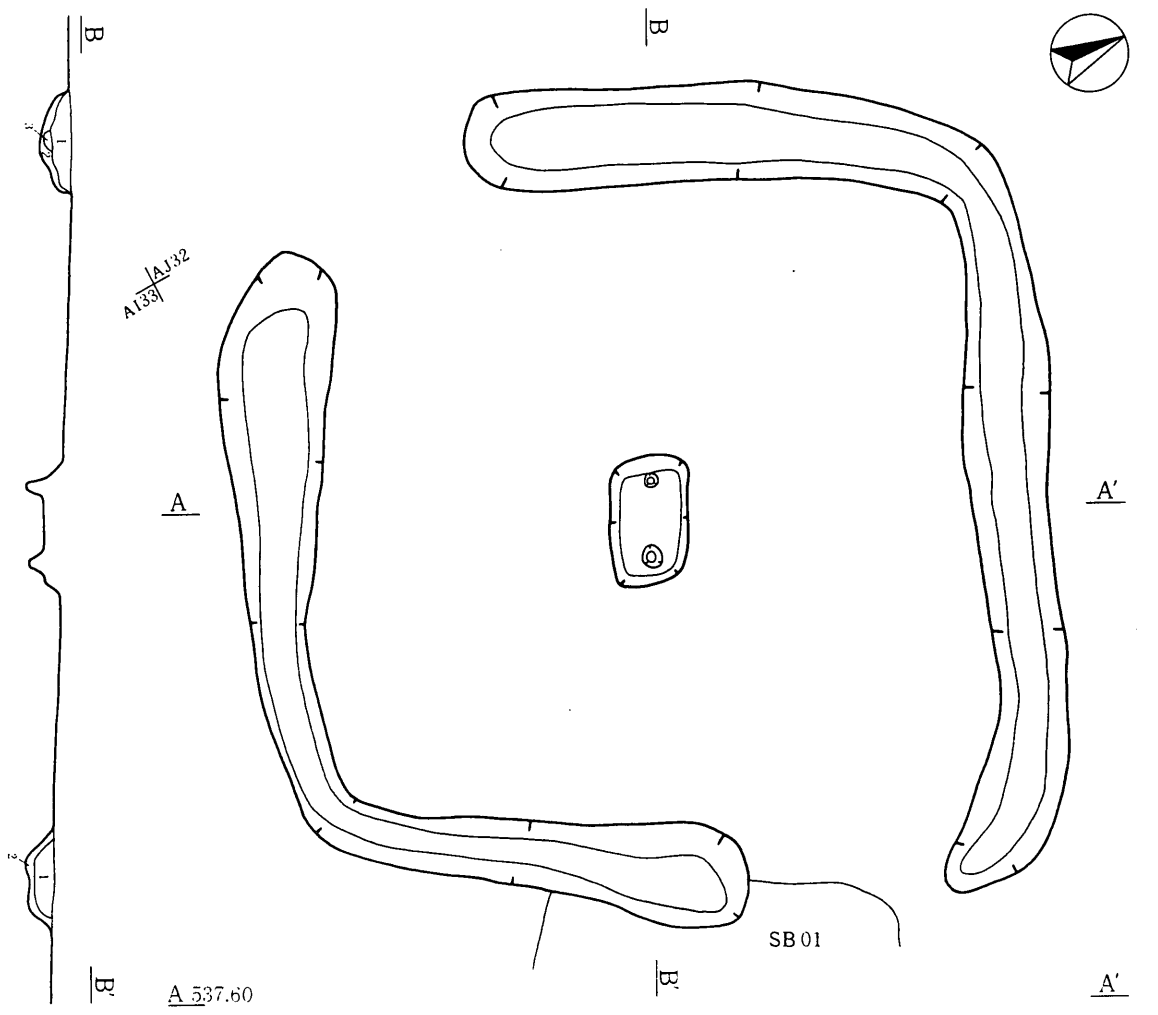
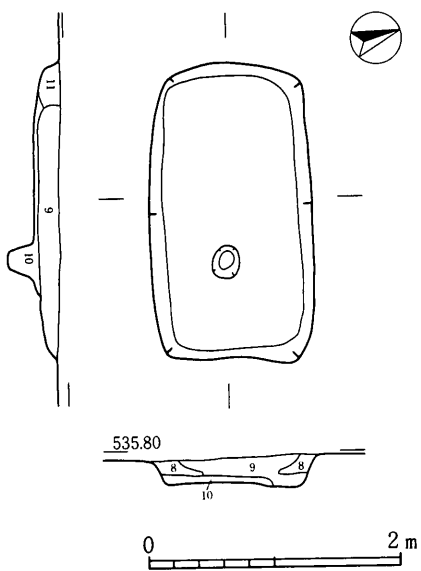
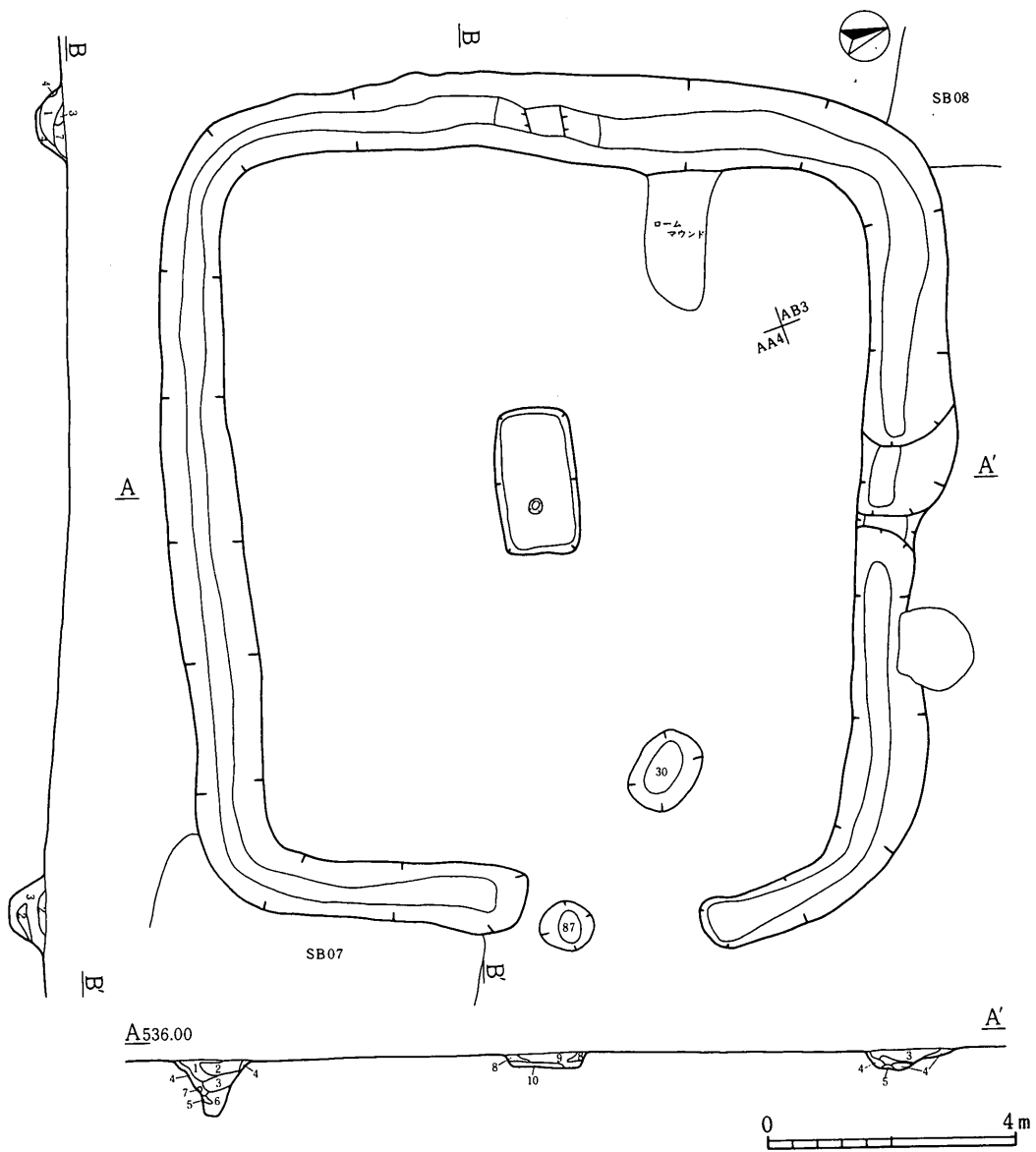


插图17 SM02



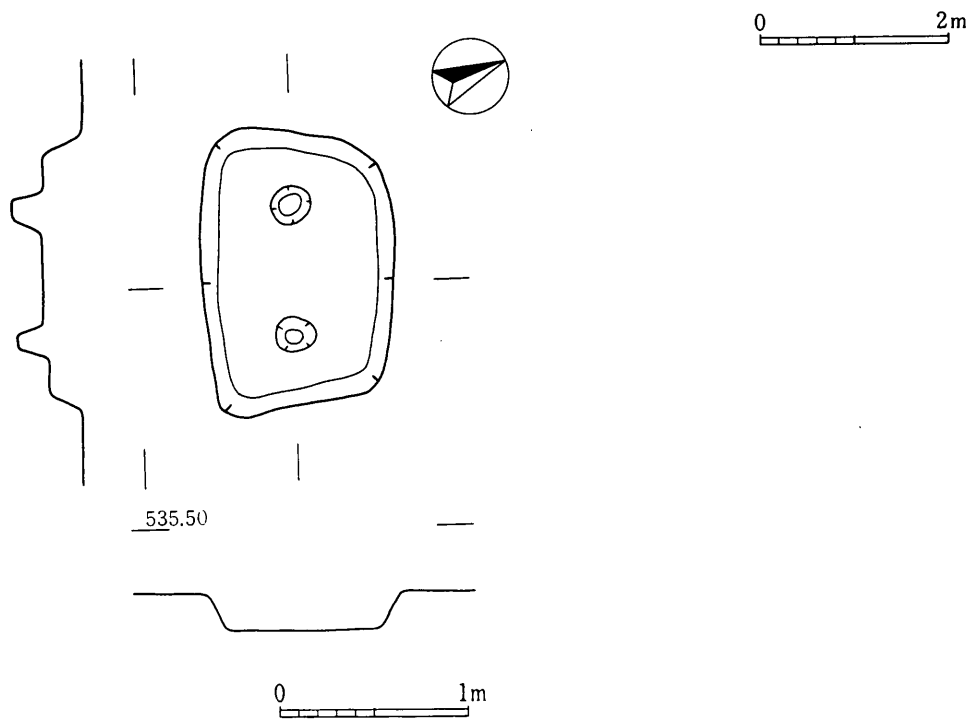
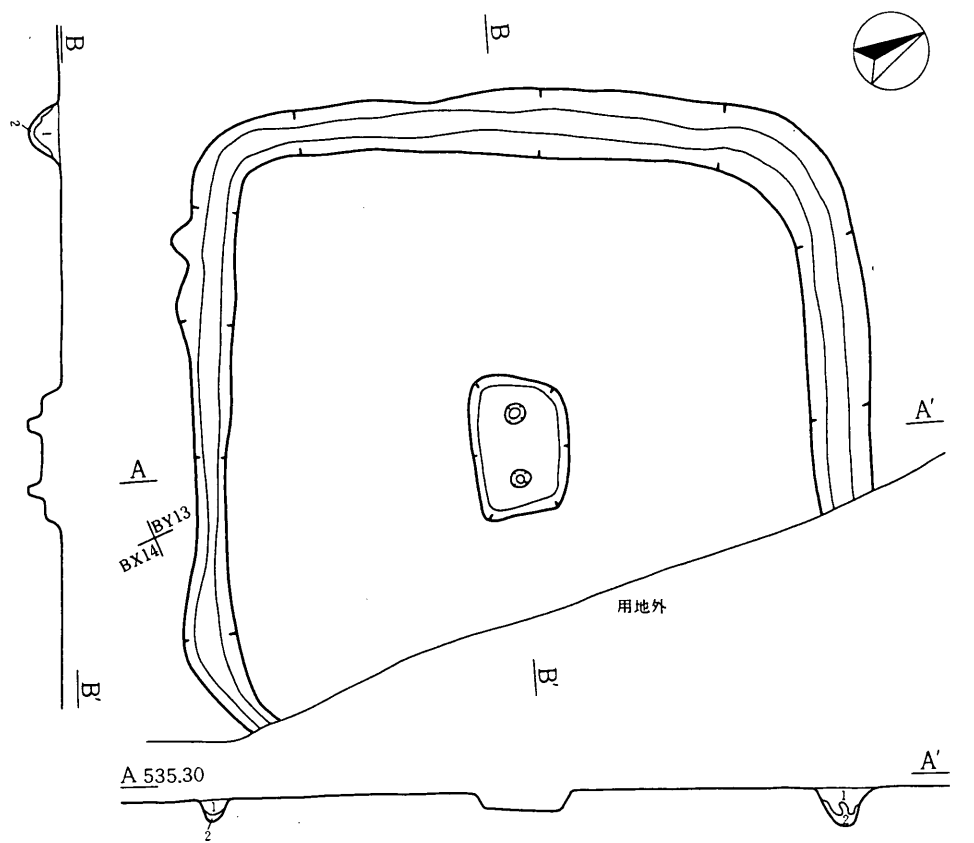
挿図18 SM03

SM04 (挿図19)

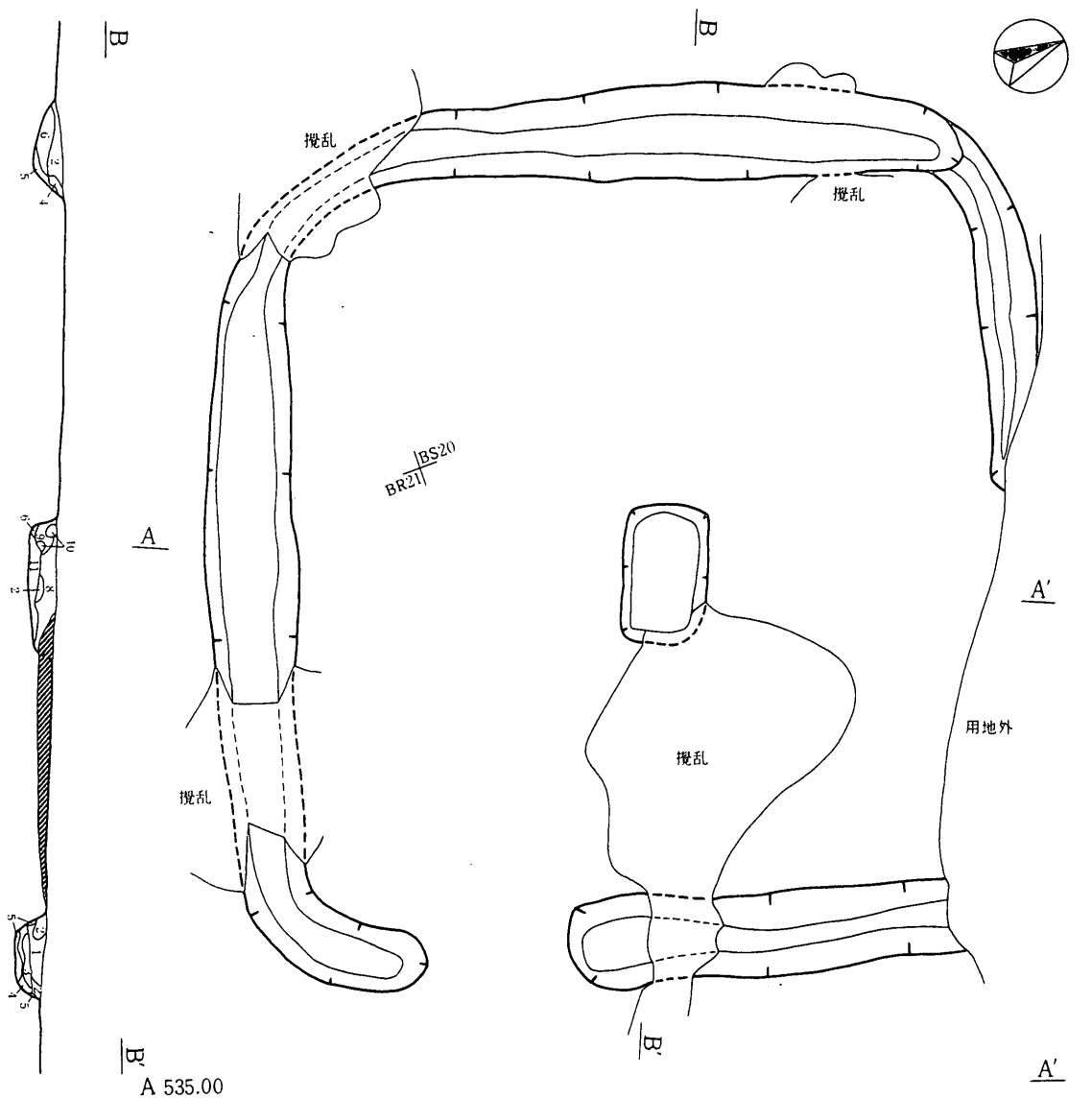
検出位置	AB-14	主	規模 m	1.45×1.0	
重切る	なし		主軸	N70°W	
複切られる	なし	体	形態	隅丸長方形	
周溝規模・形状	規模 m		覆土		
	主軸	N70°W	施設	木棺の小口痕と思われるピット	
	形態	(方形)	その他	土橋	不明
	覆土	自然埋没		墳丘	不明
	幅 cm	25~75			
	深 cm	8~41			
	断面形	逆台形			
出土遺物 (図版) なし		特記事項			
時期	弥生時代後期	根拠	周囲の遺構の状況		

SM05 (挿図20)

検出位置	BT-21	主	規模 m	1.48×0.90	
重切る	なし		主軸	N67°W	
複切られる	なし	体	形態	隅丸長方形	
周溝規模・形状	規模 m		覆土		
	主軸	N67°W	施設		
	形態	方形	その他	土橋	東側周溝
	覆土	自然埋没		墳丘	不明
	幅 cm	51~101			
	深 cm	16~50			
	断面形	逆台形			
出土遺物 (図版) なし		特記事項			
時期	弥生時代後期	根拠	周囲の遺構の状況		



挿図19 SM04



A 535.00

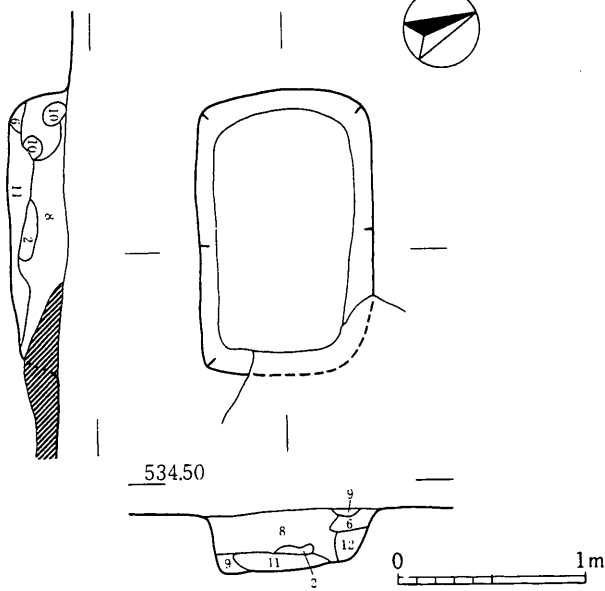
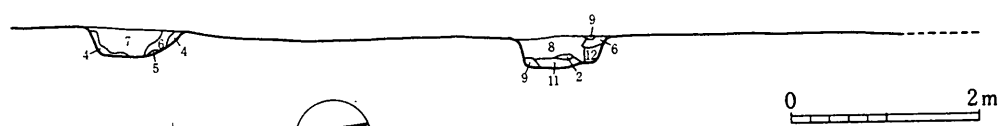


插图20 SM05

S M06 (挿図21)

検出位置	B I - 34		主	規模 m	2.58×1.17
重複	切る	S B09		体	主 軸
	切られる	S M07	部		形 態
周溝規模・形状	規模 m	13.7×13.4		そ	覆 土
	主 軸	N58°W	施 設		なし
	形 態	方形	の	土 橋	東側周溝に2箇所
	覆 土	自然埋没		墳 丘	不明
	幅 cm	110~215	他		
	深 cm	30×71			
断面形	逆台形				
出土遺物 (図版4・7) 壺甕 打製石斧			特記事項		
時 期	弥生時代後期		根 拠	出土遺物及び周囲の遺構の状況	

S M07 (挿図22)

検出位置	B C - 33		主	規模 m	2.45×1.2
重複	切る	S M06		体	主 軸
	切られる	S M09	部		形 態
周溝規模・形状	規模 m	13.6×11.6		そ	覆 土
	主 軸	N56°W	施 設		なし
	形 態	長方形	の	土 橋	東側周溝
	覆 土	自然埋没		墳 丘	不明
	幅 cm	60~150	他		
	深 cm	18~94			
断面形	逆台形				
出土遺物 (図版4) 近世播鉢 (近世播鉢は後世の混入品)			特記事項		
時 期	弥生時代後期		根 拠	周囲の遺構の状況	

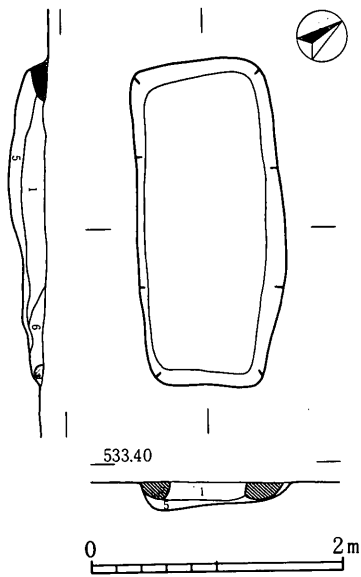
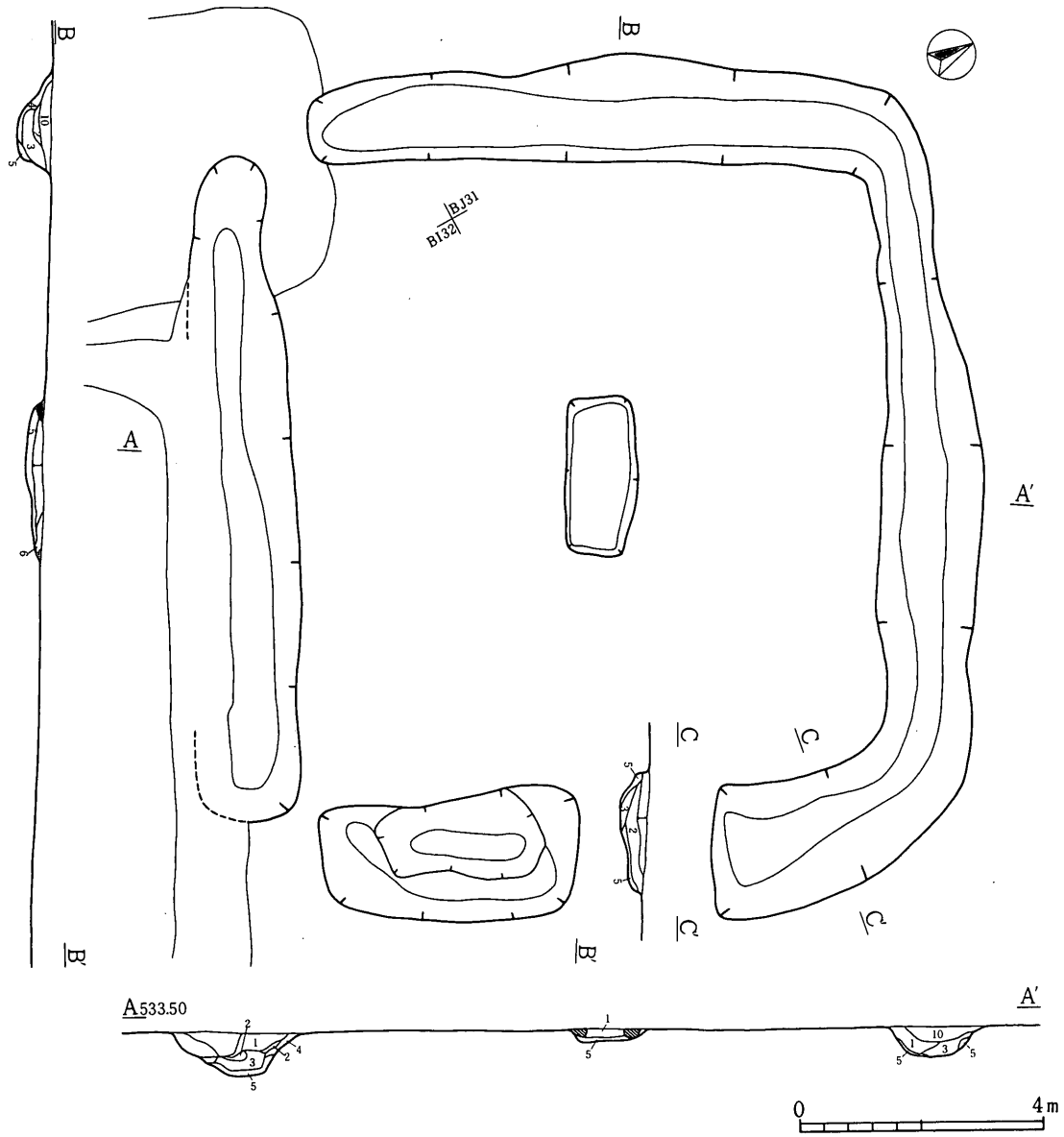


插图21 SM06

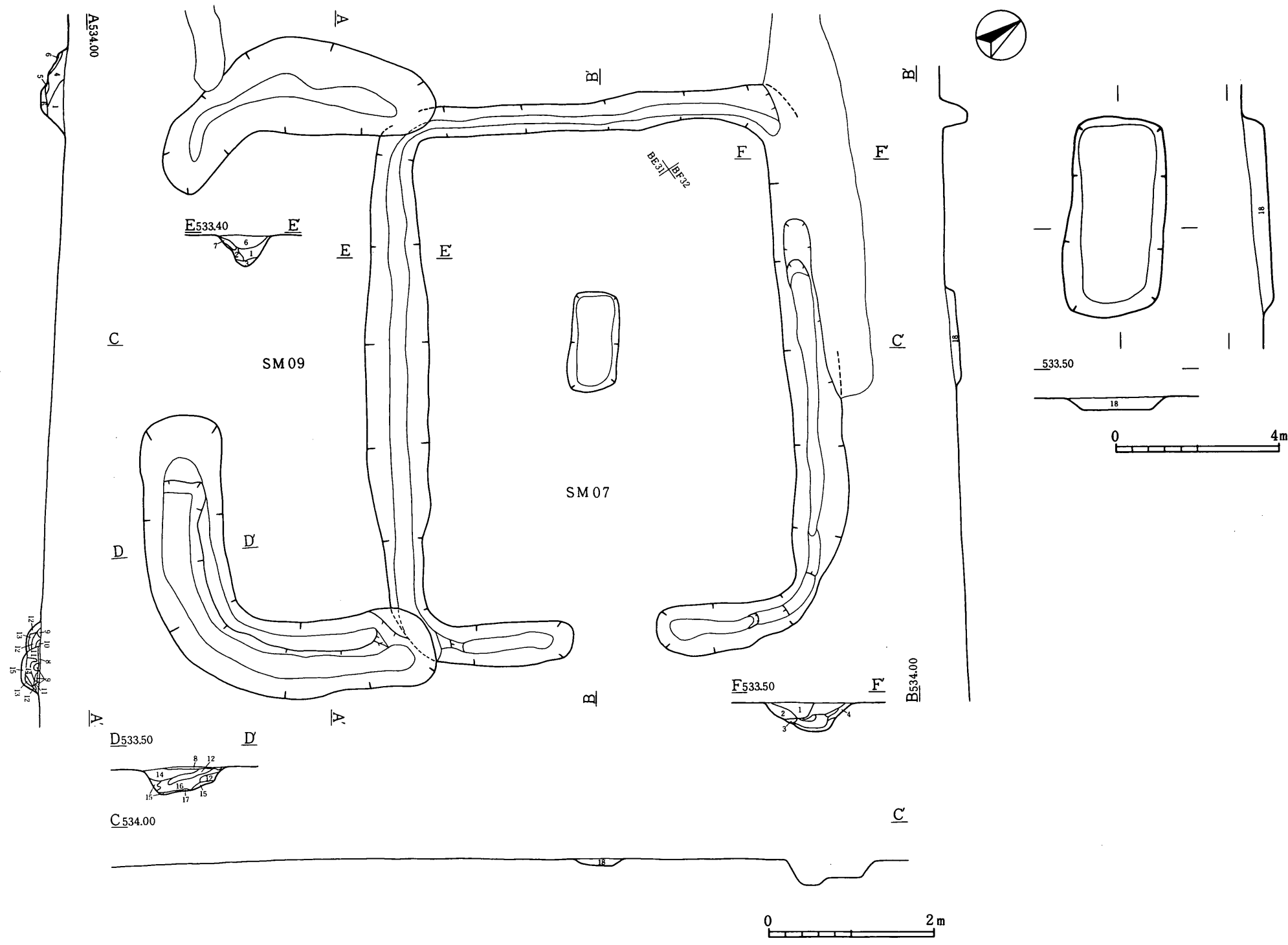


插图22 SM07·09

S M08 (挿図23)

検出位置	AY-24	主	規模 m	2.4×1.23×0.15	
重切る	SM09		主軸	N68°W	
複切られる	なし	体	形態	隅丸長方形	
周溝規模・形状	規模 m		10.78×9.35	覆土	
	主軸	N64°W	施設	なし	
	形態	方形	その他	土橋	西・東・南側周溝コーナーと思われる
	覆土	自然埋没		墳丘	不明
	幅 cm	50~108			
	深 cm	5~32			
	断面形	逆台形			
出土遺物 (図版)		特記事項			
なし		上層削平のため、南東側不明			
時期	弥生時代後期	根拠	周囲の遺構の状況		

S M09 (挿図22)

検出位置	BA-31	主	規模 m	不明	
重切る	SM07		主軸	不明	
複切られる	SM08	体	形態	不明	
周溝規模・形状	規模 m		16.3×	覆土	不明
	主軸	N56°W	施設	不明	
	形態		その他	土橋	南側周溝
	覆土	自然埋没		墳丘	不明
	幅 cm	115.5 ~195			
	深 cm	38~72			
	断面形	逆台形			
出土遺物 (図版 5・7)		特記事項			
甕 砥石 打製石斧		北東側の周溝はSM07の周溝と兼用していると思われるが、明確な根拠等なく不明。また、主体部も検出できなかった。			
時期	弥生時代後期	根拠	出土遺物及び周囲の遺構の状況		

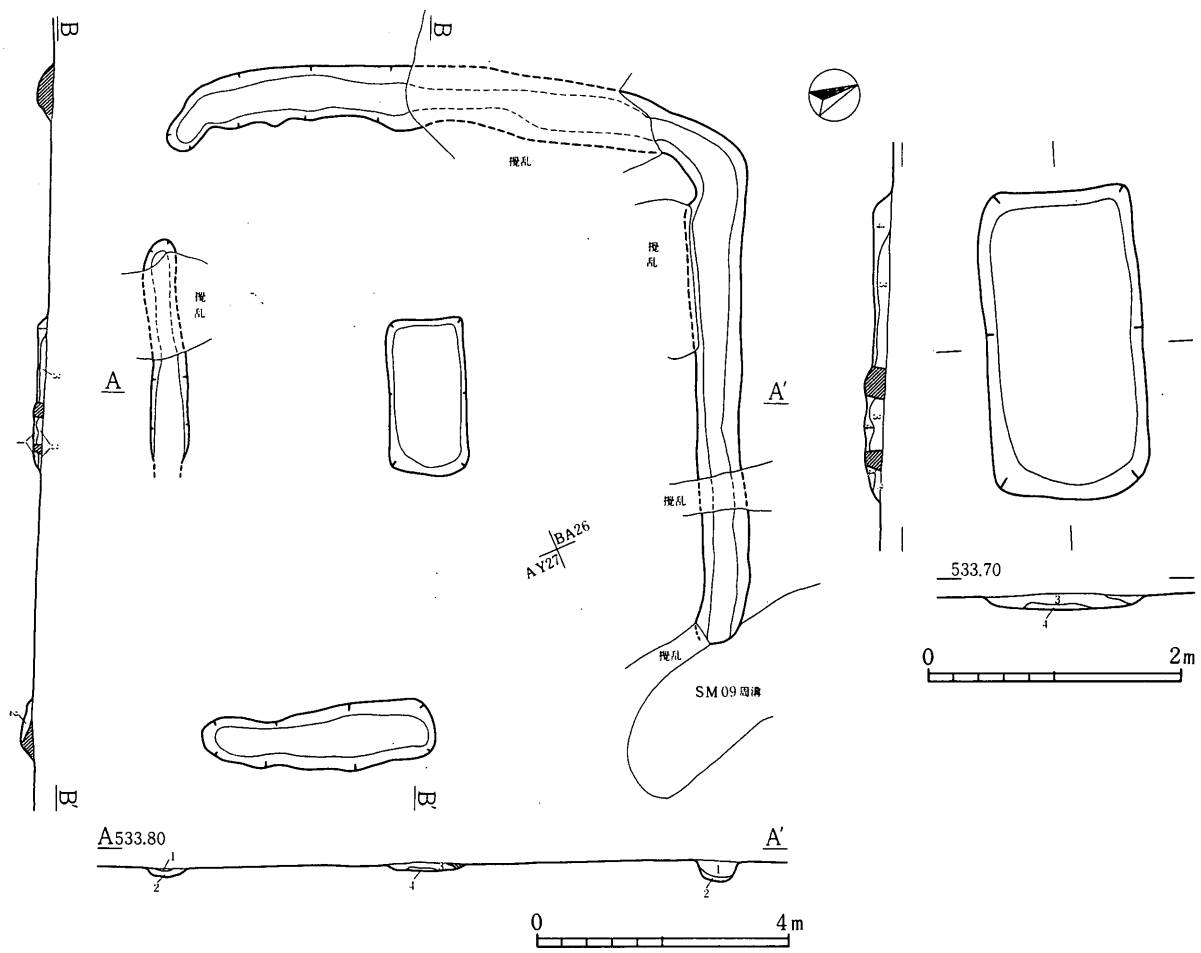


插图23 SM08

3. 溝址 (SD)

No.	図 No.	検出位置	規模長×幅大×深大 m 幅小 深小	主 軸	時代・時期	出土遺物	備 考
1	24	BM-8	3.5 × 0.6 × 0.2 0.3 0.1	N86° W N8° W	不 明	な し	
2	24	BK-8	3.7 × 0.6 × 0.3 0.3 0.1	N51° E N49° W N56° W	不 明	な し	
3	24	BL-10	4.5 × 0.5 × 0.3 0.2 0.2	N79° W N17° E	不 明	な し	
4	24	BM-10	2.9 × 0.5 × 0.2 0.1 0.1	N80° E	不 明	な し	
5	25	AK-20	23.5 × 3.2 × 1.0 1.8 0.4	N36° W	中世以降	弥生壺・甕 中世山茶碗 打製石斧 敲打器	

4. ピット

個々の説明は省略する。いずれも性格不明である。

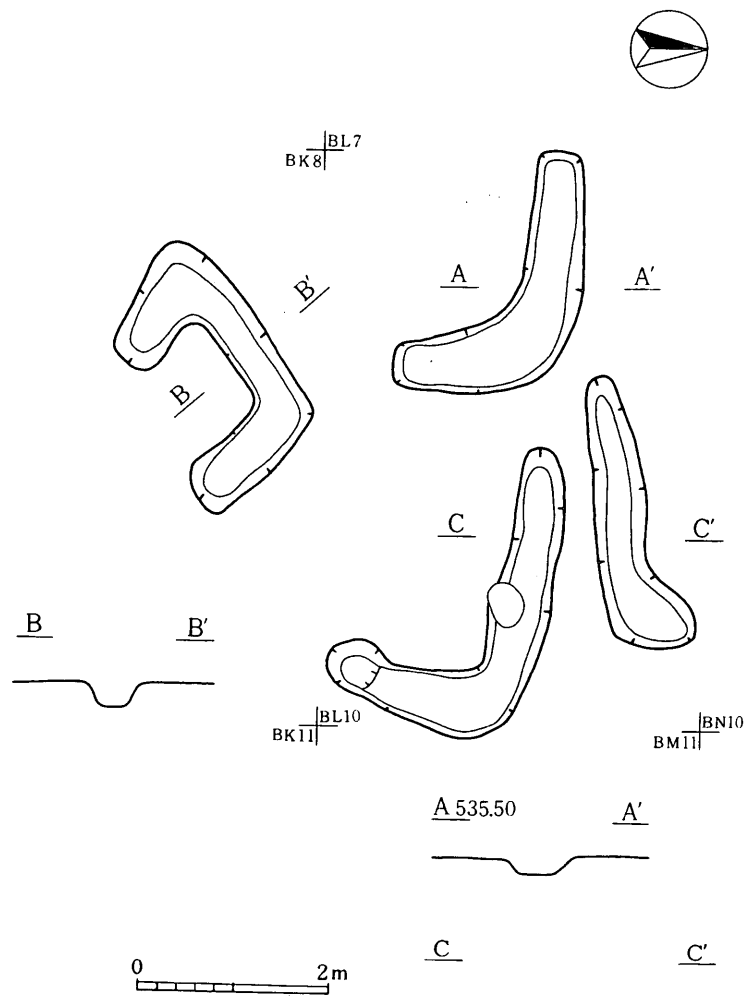


插图24 S D01·02·03·04

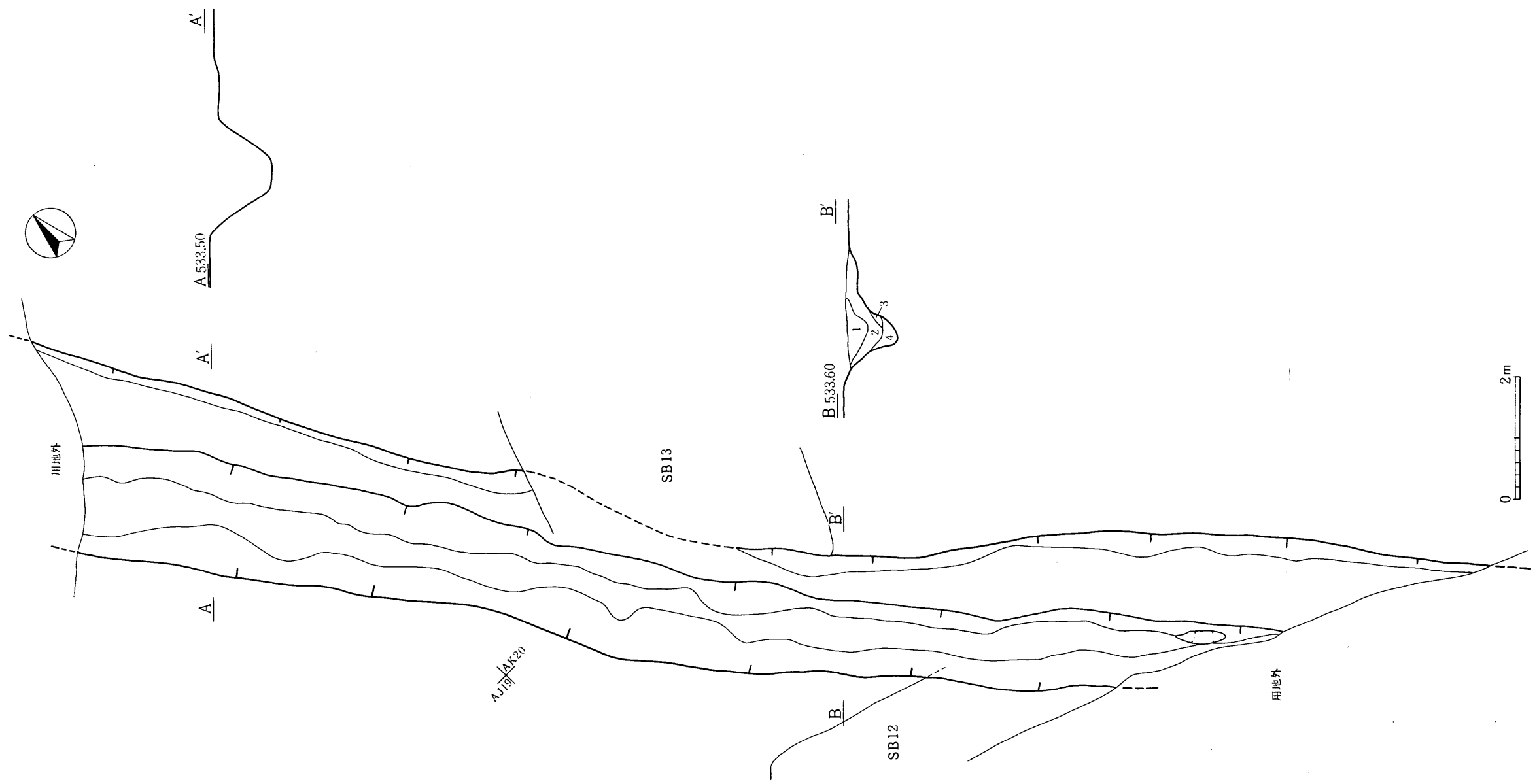
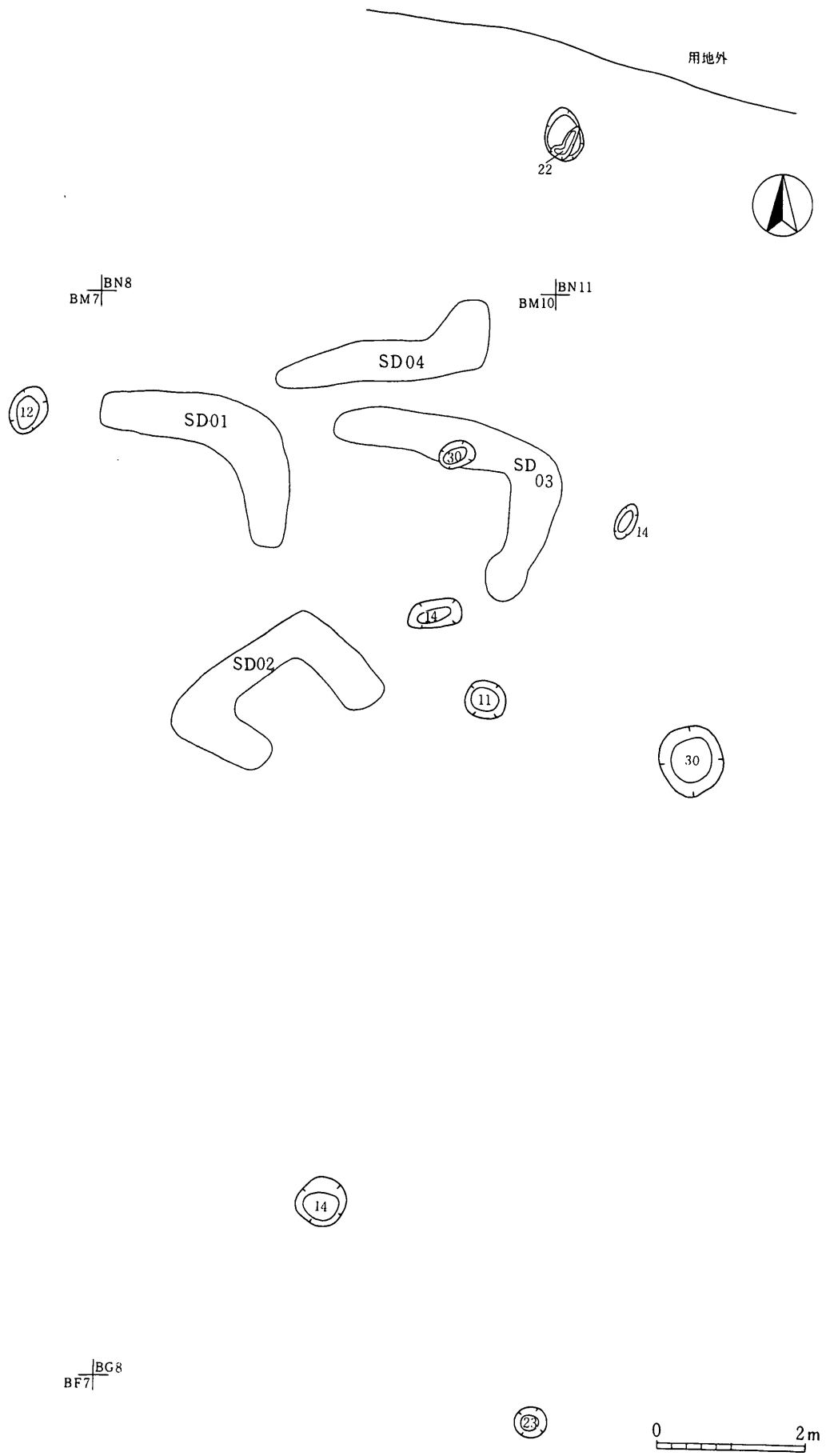
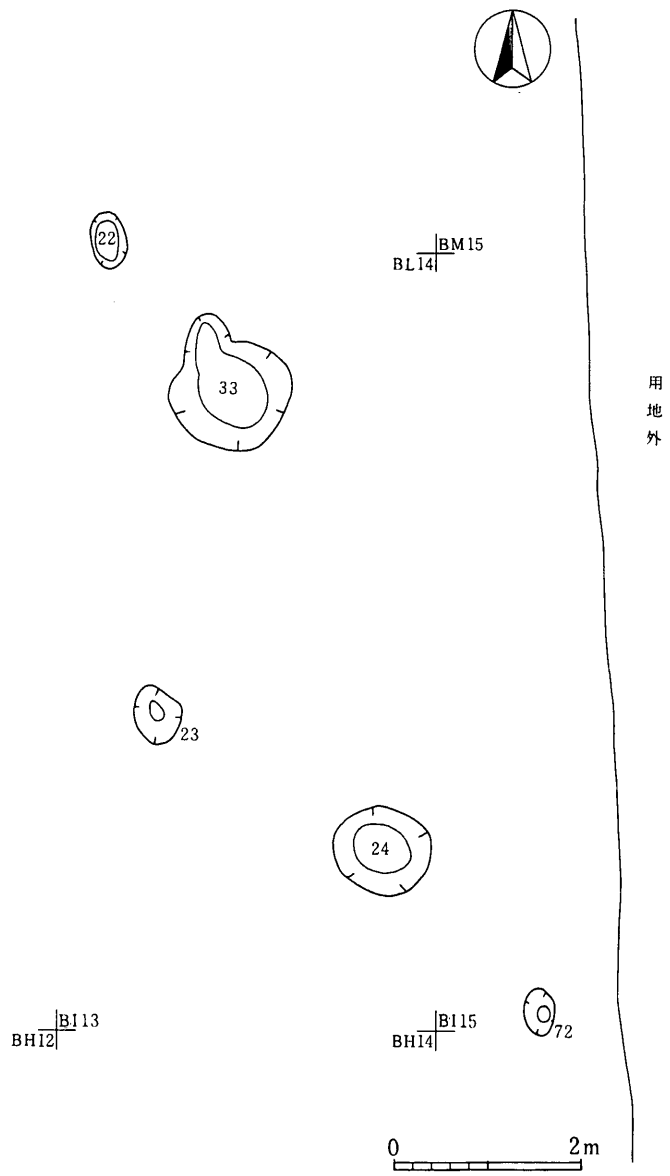


插图25 S D05



挿図26 ピット(1)



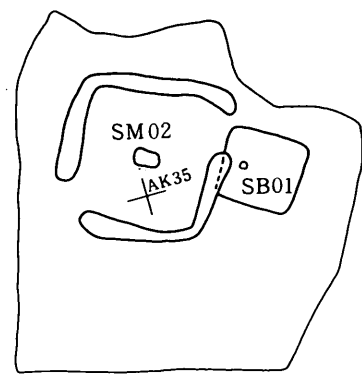
挿図27 ピット(2)

土層観察表

遺構名	層	JIS 標準色票	土 壌 色	土 性	しまり	粘 性	備 考	
S B01	1	10YR3/1	黒褐色土	SiCL		なし		
	2	10YR4/6	褐色土	SiCL		なし		
	3	10YR3/4	暗褐色土	SiCL		なし		
	4	10YR4/3	鈍い黄褐色土	SiCL		なし		
	5	10YR2/2	黒褐色土	SiCL		なし		
	6	10YR4/4	褐色土	SiCL		ややあり		
	炉	1	10YR4/4	褐色土				
		2	10YR2/3	黒褐色土				
		3		焼土				
		4	10YR4/6	褐色土				
S B02	1	10YR1.7/1	黒色土	HC	なし	かなりあり		
	2	10YR2/2	黒褐色土				10YR6/8(明黄褐色土)2%粒子状に混入	
	炉	1		焼土				
		2	7.5YR3/3	暗褐色土	HC	なし	かなりあり	
		3	7.5YR3/3	暗褐色土	HC	なし	かなりあり	焼土粒が5%混入
S B03新炉 旧炉	1	焼土・10YR4/2	灰黄褐色土	HC	なし	かなりあり		
	1		焼土					
	2	10YR4/2	灰黄褐色土	HC	なし	かなりあり		
S B04	1	10YR2/1	黒色土	HC	なし	かなりあり		
	2	10YR3/2	黒褐色土	HC	なし	かなりあり	10YR5/6(黄褐色土)が粒子状に2%混入	
	3	10YR3/1	黒褐色土	HC	なし	かなりあり	10YR5/6(黄褐色土)が粒子状に2%混入	
	4	10YR4/3	鈍い黄褐色土	HC	なし	かなりあり	10YR5/6(黄褐色土)が粒子状に3%混入	
S B05	1	10YR3/1	黒褐色土	HC	なし	かなりあり	10YR5/6(黄褐色土)が粒子状に1%混入	
	2	10YR2/1	黒色土	HC	なし	かなりあり	10YR5/6(黄褐色土)が粒子状に1%混入	
	3	10YR3/2	黒褐色土	HC	なし	かなりあり	10YR5/6(黄褐色土)が粒子状に7%混入	
	4	10YR2/2	黒褐色土	HC	なし	かなりあり	10YR5/6(黄褐色土)が粒子状に7%混入	
	5	10YR4/6	褐色土	HC	なし	かなりあり	10YR5/6(黄褐色土)が粒子状に3%混入	
S B05新炉 旧炉	1		焼土					
	1		焼土					
S B06	1	10YR2/1	黒色土	HC	なし	かなりあり		
	2	10YR1.7/1	黒色土		なし	かなりあり		
	3	10YR3/2	黒褐色土					
	4	10YR4/4	褐色土					
	新炉 旧炉	1		焼土				
1			焼土					

遺構名	層	JIS 標準色票	土 壤 色	土 性	しまり	粘 性	備 考
S B07 炉	1	10YR3/2	黒褐色土				焼土粒3%混入
S B08 炉	1		焼土				
S B09 炉	1		焼土・炭				
S B10 炉	1	10YR2/3	黒褐色土				焼土混入
	2		焼土				
	3	10YR4/6	褐色土				
	4	10YR4/2	灰黄褐色土				
S B11	1	10YR3/4	暗褐色土				10YR5/6(黄褐色土)がブロック状に混入 10YR5/6(黄褐色土)がブロック状に混入 10YR5/6(黄褐色土)がブロック状に混入
	2	10YR2/2	黒褐色土				
	3	10YR6/6	明黄褐色土				
	4	10YR2/1	黒色土				
	5	10YR3/1	黒褐色土				
	6	10YR4/2	灰黄褐色土				
	7	10YR5/6	黄褐色土				
	8	10YR3/3	暗褐色土				
S B12	1	10YR3/1	黒褐色土				10YR5/6(黄褐色土)がブロック状に混入 焼土混入
	2	10YR4/1	褐灰色土				
	3	10YR4/2	灰黄褐色土				
	4	10YR2/1	黒色土				
	5	10YR3/3	暗褐色土				
S B13 炉	1		焼土				
	2	10YR3/4	暗褐色土				
S B14	1	10YR4/3	鈍い黄褐色土				10YR5/6(黄褐色土)が粒子状に5%混入
	2	10YR2/1	黒色土				10YR5/6(黄褐色土)が粒子状に2%混入
	3	10YR4/4	褐色土				
SD05	1	10YR3/2	黒褐色土				砂φ3~5mmの礫わずか混入
	2	10YR4/1	褐灰色土				
	3	10YR3/4	暗褐色土				
	4						
SM02	1	10YR2/3	黒褐色土	SiCL		ややあり	
	2	10YR4/1	褐灰色土	SiCL		ややあり	
	3	10YR3/3	暗褐色土	SiCL		ややあり	
SM03	1	10YR1.7/1	黒色土		なし	かなりあり	10YR5/6(黄褐色土)が粒子状に1%混入
	2	10YR3/3	暗褐色土		なし	かなりあり	10YR5/6(黄褐色土)が粒子状に3%混入
	3	10YR3/1	黒褐色土		なし	かなりあり	10YR5/6(黄褐色土)が粒子状に3%混入

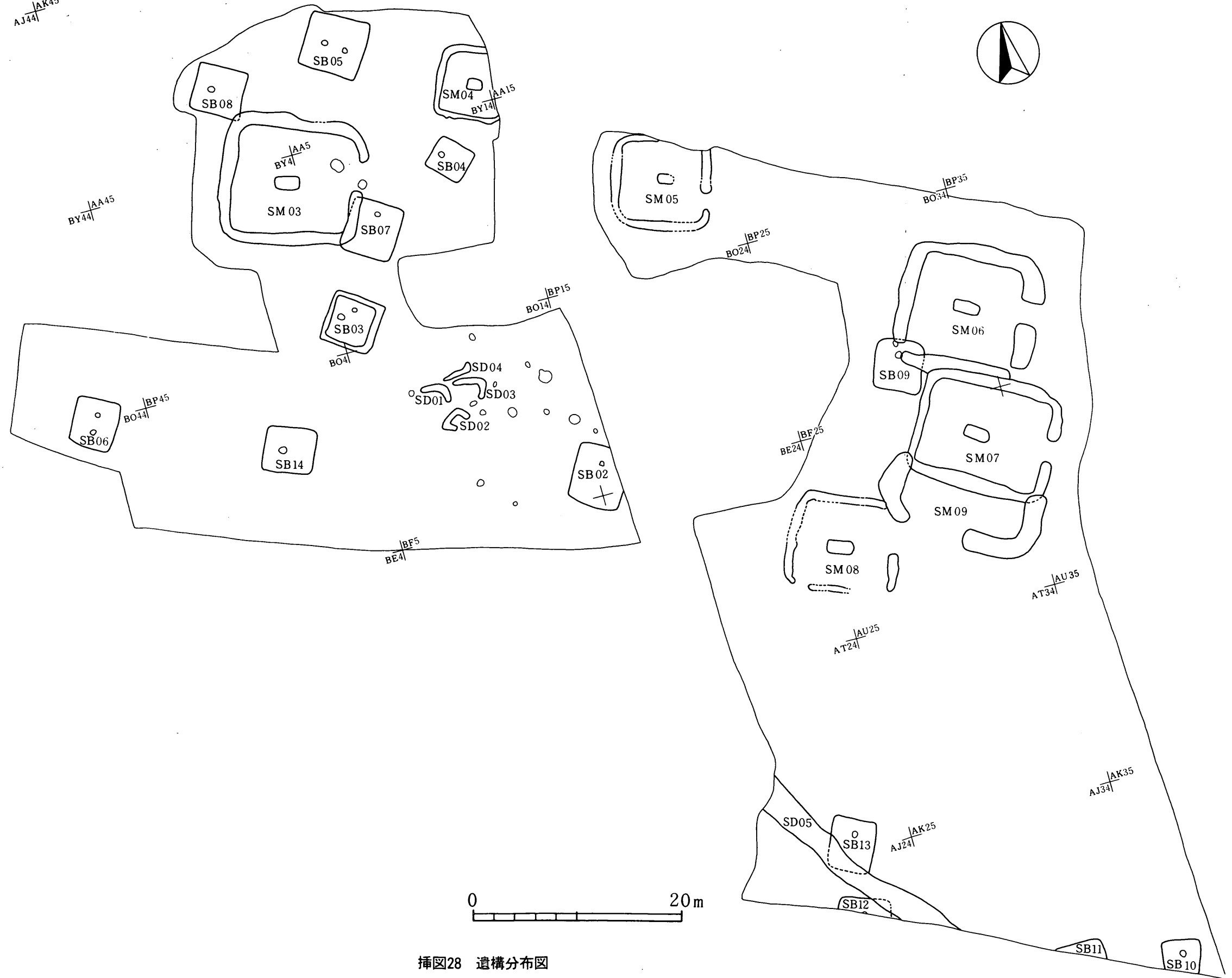
遺構名	層	JIS 標準色票	土 壤 色	土 性	しまり	粘 性	備 考
S M03	4	10YR5/6	黒褐色土		なし	かなりあり	10YR1.7/1(黒色土)がマーブル状に混入
	5	10YR5/6	黄褐色土		なし	かなりあり	10YR1.7/1(黒色土)がマーブル状に2%混入
	6	10YR3/1	黒褐色土		なし	かなりあり	10YR5/6(黄褐色土)が粒子状に10%混入
	7	10YR1.7/1	黒色土		なし	かなりあり	
	8	10YR2/1	黒色土	HC	なし	かなりあり	
	9	10YR3/2	黒褐色土	HC	なし	かなりあり	10YR5/6(黄褐色土)が粒子状に2%混入
	10	10YR3/4	暗褐色土	HC	なし	かなりあり	
	11	10YR4/4	褐色土	HC	なし	かなりあり	
S M04	1	10YR1.7/1	黒色土		なし	かなりあり	10YR5/6(黄褐色土)が粒子状に1%混入
	2	10YR5/6	黄褐色土		なし	かなりあり	10YR1.7/1(黒色土)がマーブル状に混入
S M05	1	10YR4/3	鈍い黄褐色土	HC	なし	かなりあり	10YR5/6(黄褐色土)が粒子状に5%混入
	2	10YR3/1	黒褐色土	HC	なし	かなりあり	10YR5/6(黄褐色土)が粒子状に2%混入
	3	10YR3/1	黒褐色土	HC	なし	かなりあり	10YR5/6(黄褐色土)が粒子状に5%混入
	4	10YR3/4	暗褐色土	HC	なし	かなりあり	10YR5/6(黄褐色土)がマーブル状に混入
	5	10YR4/4	褐色土	HC	なし	かなりあり	
	6	10YR2/1	黒色土	HC	なし	かなりあり	10YR5/6(黄褐色土)が粒子状に2%混入
	7	10YR1.7/1	黒色土	HC	なし	かなりあり	10YR5/6(黄褐色土)が粒子状に2%混入
	8	10YR3/1	黒褐色土	HC	なし	かなりあり	10YR5/6(黄褐色土)が粒子状に7%混入
	9	10YR5/6	黄褐色土	HC	なし	かなりあり	10YR3/1がマーブル状に少々混入
	10	10YR5/6	黄褐色土	HC	なし	かなりあり	
	11	10YR4/2	灰黄褐色土	HC	あり	かなりあり	
	12	10YR5/6	黄褐色土	HC	なし	かなりあり	10YR3/1(黒褐色土)がマーブル及び粒子状に30%混入
S M06	1	10YR3/3	暗褐色土				
	2	10YR4/3	鈍い黄褐色土				
	3	10YR4/2	灰黄褐色土				
	4	10YR4/6	褐色土				
	5	10YR4/4	褐色土				10YR5/6(黄褐色土)がブロック状に混入
	6	10YR3/1	黒褐色土				
	7	10YR2/3	黒褐色土				
	8	10YR3/4	黒褐色土				
	9	10YR4/3	鈍い黄褐色土				10YR5/6(黄褐色土)がブロック状に混入
	10	10YR3/2	黒褐色土				
S M07・09	1	10YR2/1	黒色土				
	2	10YR3/3	暗褐色土				
	3	10YR4/4	褐色土				
	4	10YR2/3	黒褐色土				



AJ44/AK45

AA45
BY44

AA35
BY34



挿図28 遺構分布図

IV ま と め

今次調査の結果は以上であるが、時間の制約等あり十分な分析・検討ができなかった。よって調査中及び報告書作成時に気付いた点を述べ、まとめとしたい。

1. 集落について

前次と今次調査結果を総合して本遺跡の性格をみると、弥生時代後期の集落址と位置付けられる。

集落は巨視的にみて「居住域」・「生産域」・「墓域」で構成されると考えられるが、本遺跡では如何であろうか。

居住域については興味深い点が指摘できる。検出住居址が14軒あるが、主軸という観点よりみると大きく2グループに分ける事ができる。主軸が北東方向（180° 逆の南西方向も含める）のS B 02・03改築前・06・07・09・10・12・13のグループ（Aグループとする）と、主軸が北西方向（180° 逆の南東方向も含める）にあるS B 01・03改築後・04・05・08・14のグループ（Bグループとする）である。なお、S B 11については遺構の多くが調査対象地外であったため、主軸不明ということで除いてある。また、各住居址の土器編年に於ける時間的位置については、出土遺物が全体的に少なく詳細は不明であるが、ほぼ後期中島式期前半に比定されると思われ、大きな時間的な差はない。そこでA・Bグループの関係を考察する際にポイントとなる点を以下に記す。

- 1 各住居址は大きな時間差はない。よってA・Bグループ間にも大きな時間差はない。
- 2 Aグループは調査区南東側に分布し、Bグループは北西側に分布する。
- 3 S B 03は改築された住居址で主軸を北東から北西に変更している。

これらから鑑みるに、本遺跡の居住域は、調査区南東側から調査区北西側に大きな時間差がなく移動したことが看取される。しかし、Aグループを構成する同一集団が調査区北西側に移動したという明確な根拠はないが、S B 03の両グループ間に於ける場所的位置や、土器編年に於ける時間差があまりないことから見れば、同一集団の移動という可能性も低くはない。

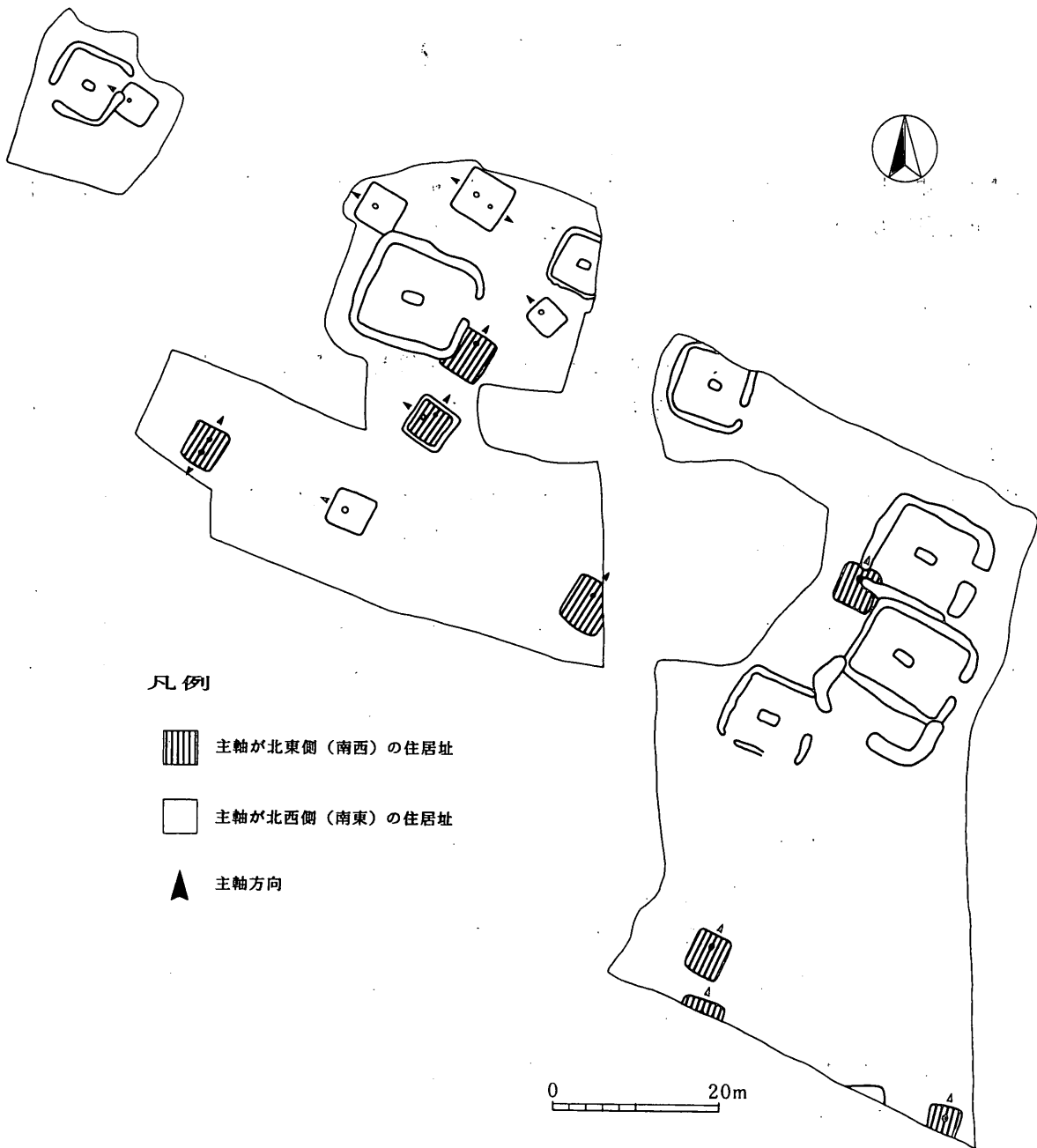
生産域についてはⅡ1「自然環境」に前述した如く、調査区北東～南西側に新川があり、その小規模な氾濫源が水田耕作に適した場所になると思われる。しかし当地域に於いては従来から論じられているように畑作を含めた陸耕の問題もあり、生産域の限定は困難である。

墓域を考察する上に於いて、興味深い点がある。それは住居址との切り合いについてすべて方形周溝墓が、住居址を切っている点である。即ち今次調査区に於いては居住域として機能していた後、墓域として利用されたということである。また、調査区南西側のS M 06～09の方形周溝墓間には切り合いが見られ、ある期間にわたり、墓域として機能していたことがわかる。しかし、他の周溝墓との位置的及び時間的關係の詳細は出土遺物が少ない事等より不明である。

以上のように「居住域」・「生産域」・「墓域」について述べた。以下、各域間の関係を総合し、集落として考察する上においての問題点を提起したい。

今次調査区に於ける「居住域」と「墓域」は同一集団によるものであるか否か、という問題である。

前述したように各方形周溝墓の土器編年の時間が明確でないため「居住域」と「墓域」の時間關係が不



挿図29 居住域変遷図

明である。遺構の重複関係から考えれば、「墓域」の方が新しい。合理的に考えれば、居住域として利用していた集団と墓域として利用していた集団は異なる、ということになる。これは調査区以外の遺跡及び周囲の遺跡の状況が明らかにならないと結論は出ない問題である。

2. 出土遺物について

遺物については出土量が少ないが、弥生時代後期の外来系土器が比較的多く検出された。壺（4-2・3-2）、甕（1-12・3-5）、高坏（4-1）、器種不明（2-9）がある。なお、2-9は器面に「お焦げ」が付着しているため、煮沸用として使用されている。

これらはいずれも2-9を除き、在来系の土器に使われている胎土ではないものが用いられており、その違いは明確である。しかし、それらの全ての出自は担当者の努力不足で断定できないが、4-1の

高坏は東海地方の山中式系のものと思われる。また、従来の「外来系は珍品」といった考えは今次調査の状況から当遺跡の場合は該当しない。また、当地方の外来系土器の研究はその出自と編年に終始している感があり、今後はその社会的背景を探る必要があると思われる。さらに現状では美濃・飛騨地方の状況が明確でないので、併せて考察する必要がある。

その他としては前述したように所謂「中島式土器」が出土しているが、壺・甕・台付甕・高坏とあり、その典型として特筆すべきものはない。

石器は、当地域の弥生時代後期の集落に見られる典型的な打製石斧・抉入打製石庖丁・有肩扇状形石器等が出土している。有肩扇状形石器の刃部に付着物があるもの（6-3）が見られるが、従来「ロー状光沢物」と呼ばれていたものである。しかし、この「ロー」とは蠟燭・蜜ろう等の「ろう」を指していると思われ、それならば国語表記で正しく「ロウ状光沢物」にしなければならない。今後は正しい表記を望む。

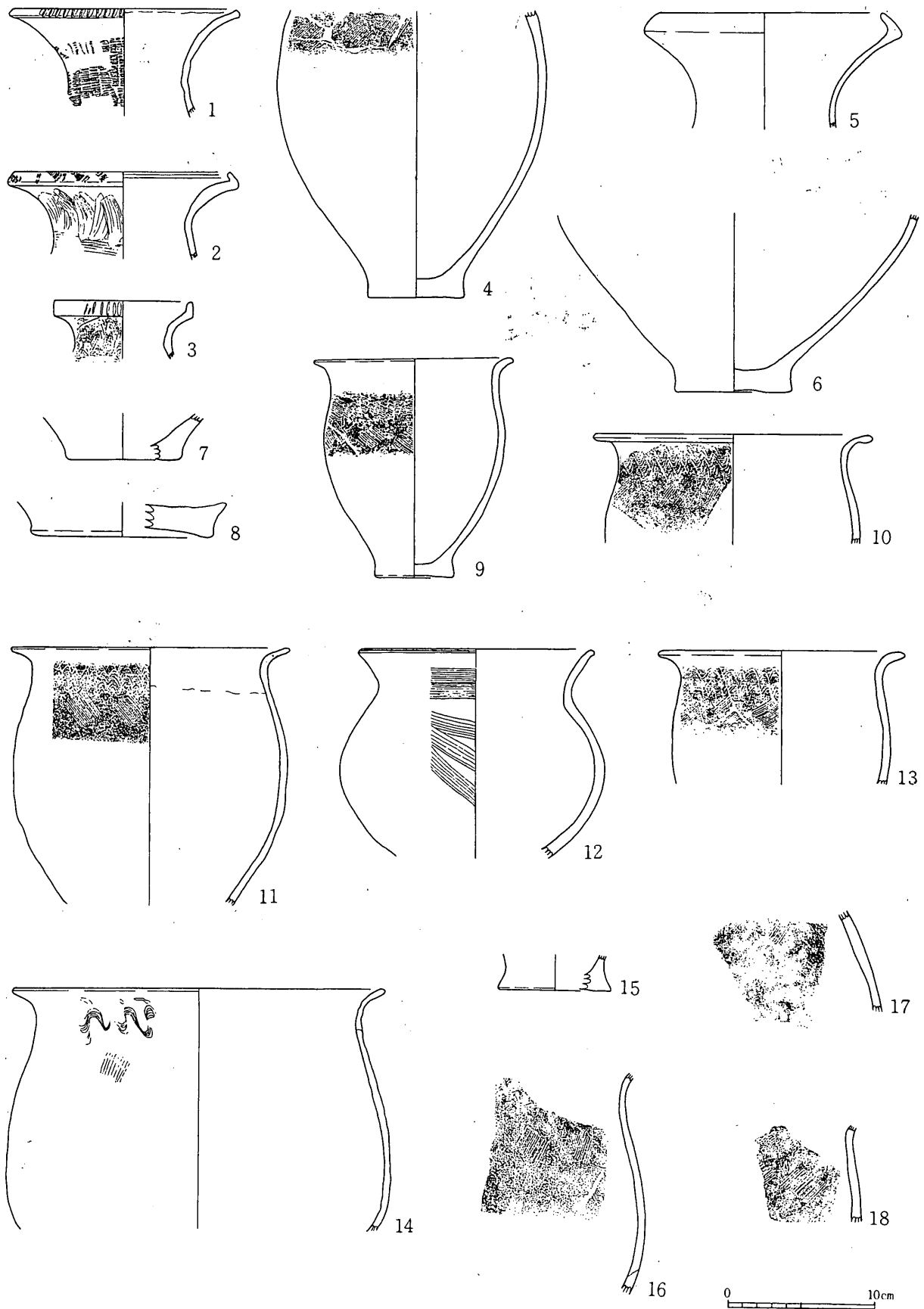
3. 出土遺構について

当地域の弥生時代後期の住居址に見られる炉址の形態は、多くが地床炉（入口側に炉縁石をもつ）・土器埋設炉（入口側に炉縁石をもつ）であるが、今次調査に於いて石囲炉及び石囲土器埋設炉がS B09とS B13で確認された。前述した如く、S B13は検出時には三方の石囲いであったが、四方を囲ってあった可能性も高く、いずれにしても石囲炉である。他の遺跡に於いて管見に上がったのは、飯田市中村中平遺跡34号住居址（飯田市教委1994）で、S B09と同様な入口の反対側が開く三方石囲（地床）炉である。飯田市美女遺跡S B13（飯田市教委1998刊行予定）も同様に入口の反対側が開く三方石囲（地床）炉である。この炉址の形態は上伊那北半部以北の後期前半から以前では普遍的に見られるようであり、時期差があるが、上伊那北半部以北との関連を考える必要もある。今後の資料増加を待ちたい。

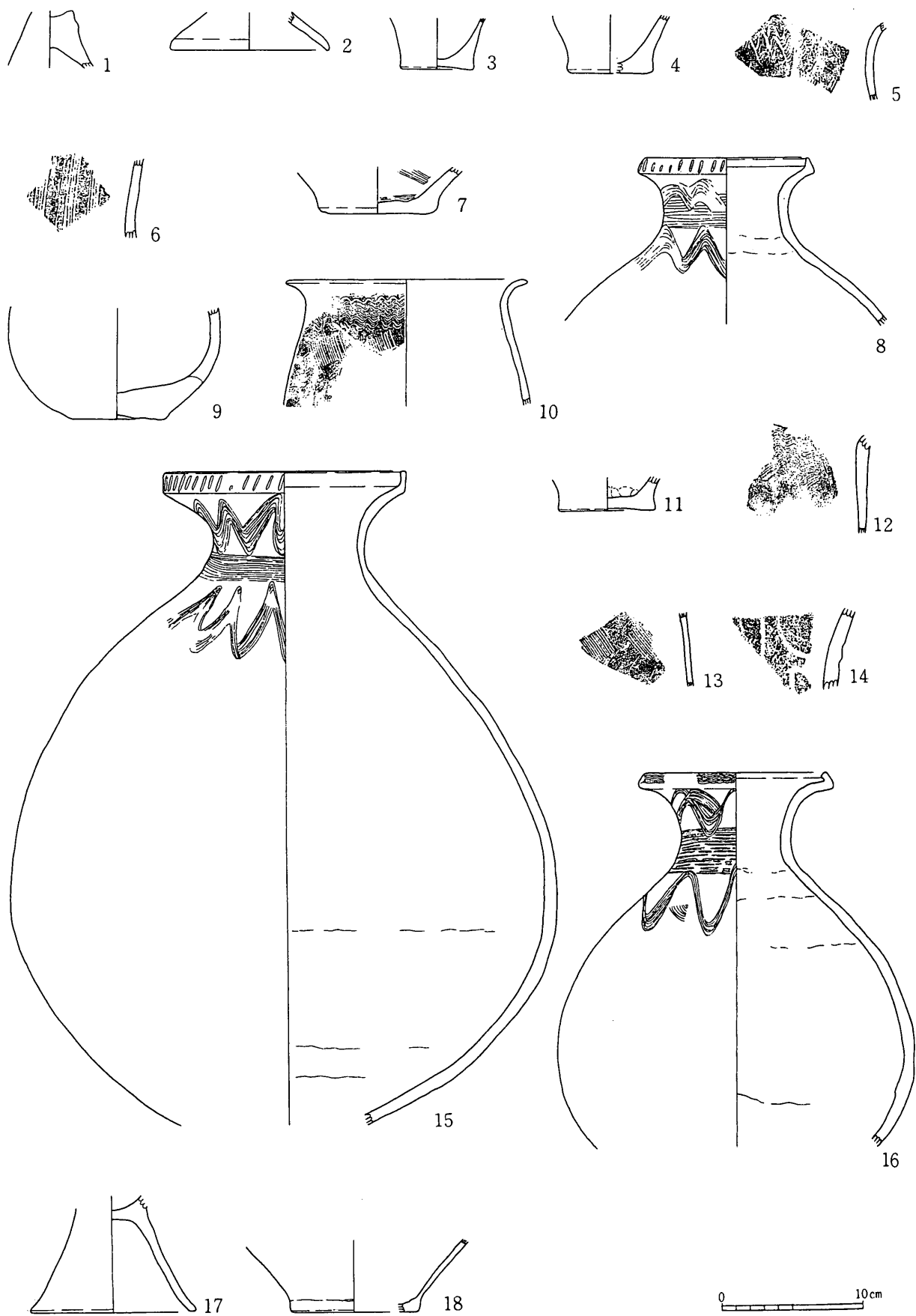
以上繁雑ではあるが気付いた点を述べてきた。当地域の弥生時代研究は比較的進んでいるように思われたが、詳細に分析するとまだまだ不明瞭な点が多い。今後に期待したい。また、当該遺跡は比較的耕作地が多く、遺跡の保存状態が良好である。しかし逆説的に言えば、今後開発が進む可能性が強いと言える。十分に注意していく必要がある。



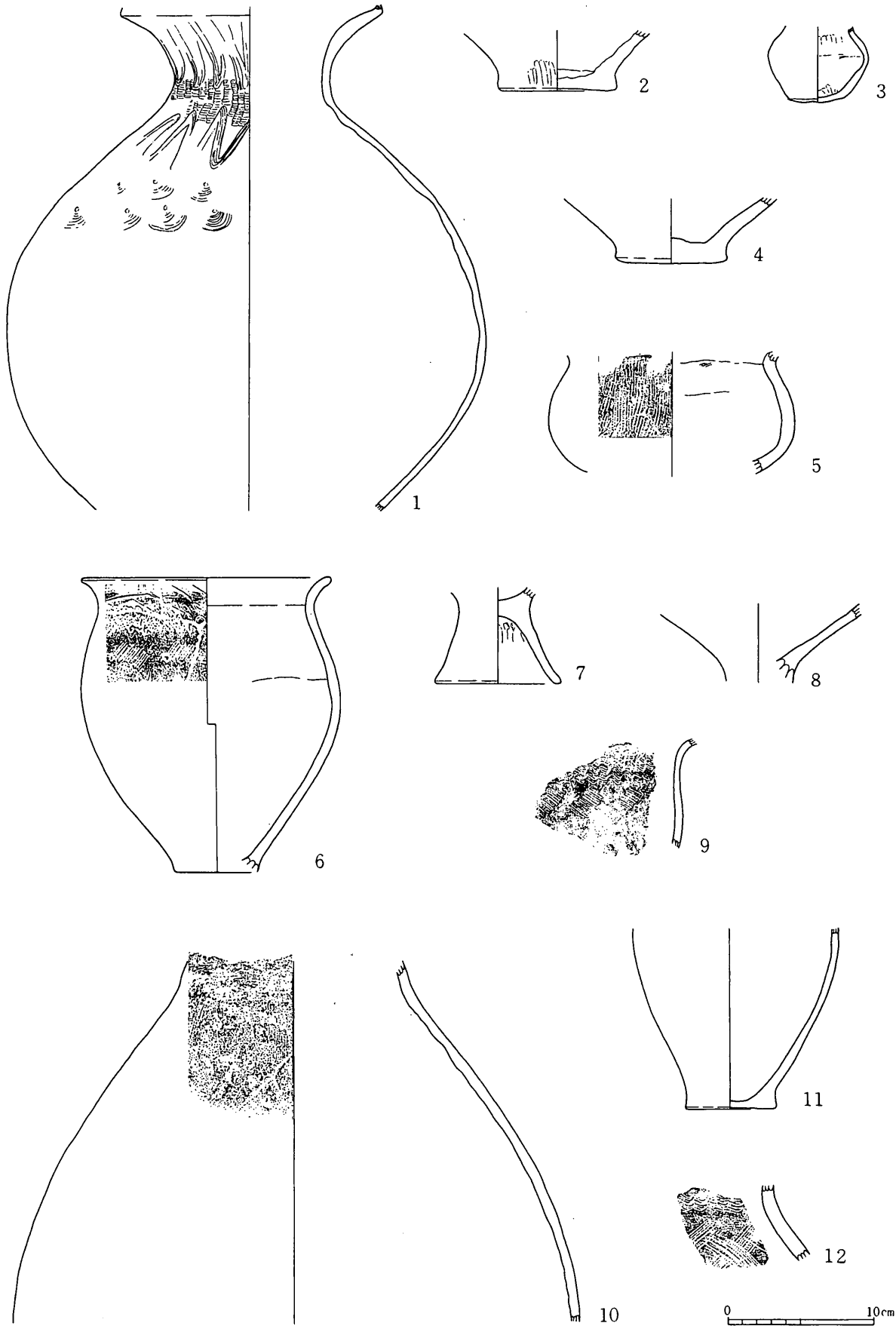
版



第1図 出土遺物 1~4 SB01
5~18 SB02



第2图 出土遺物 1·2 SB03 7 SB05 15~18 SB07
3~6 SB04 8~14 SB06

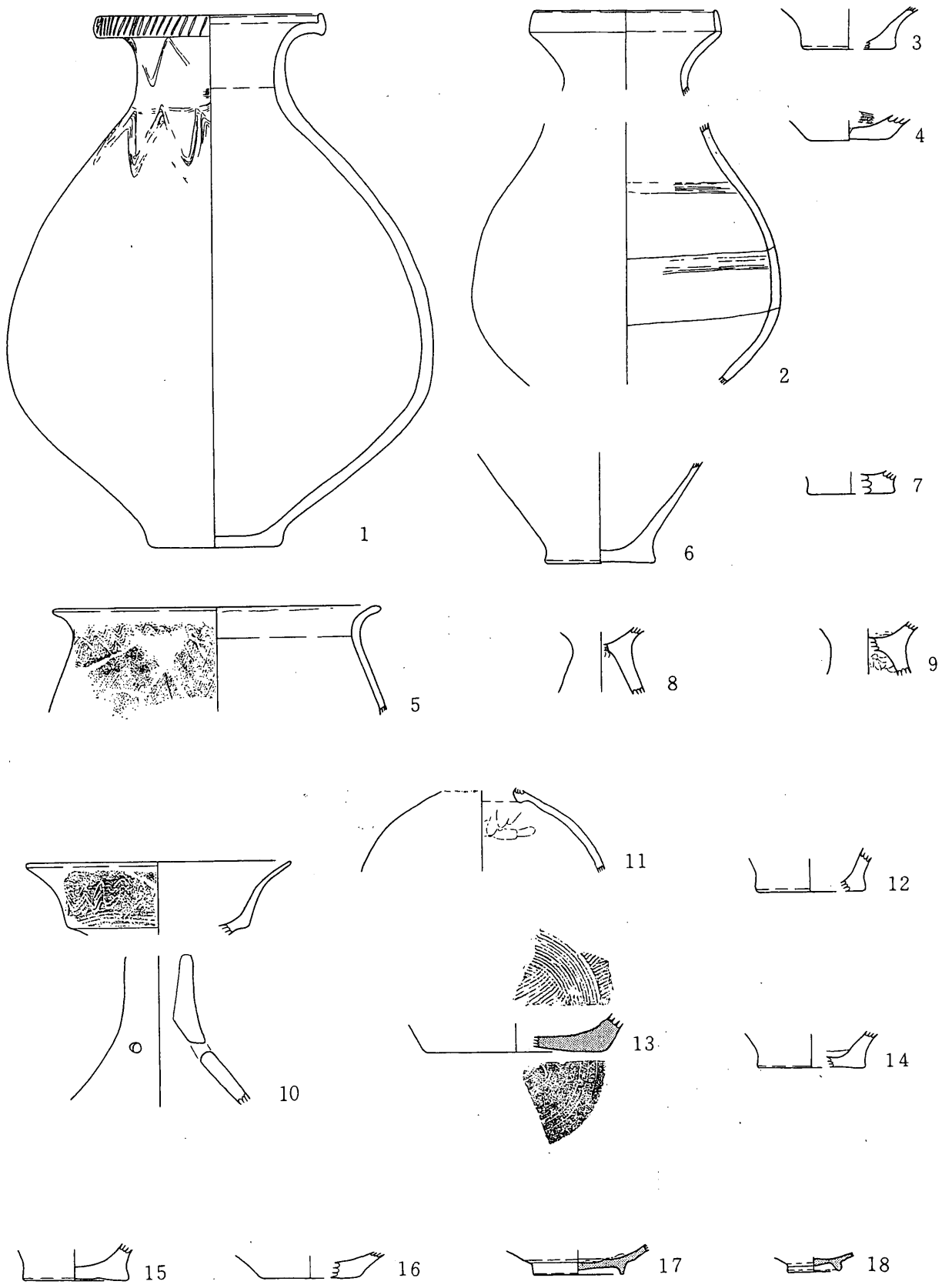


第3図 出土遺物

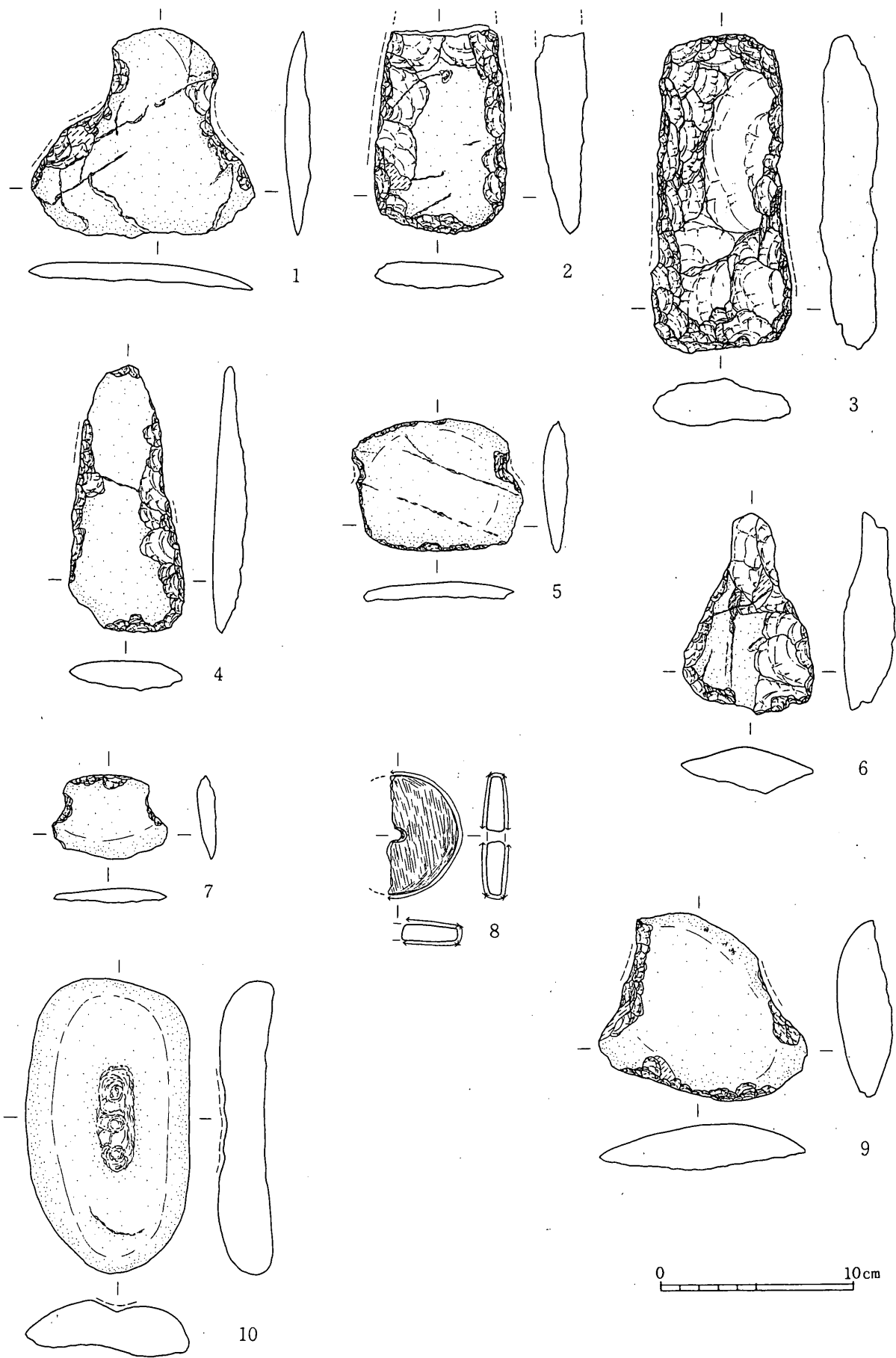
1・2・SB07
3~9 SB09

10 SB12
11 SB13

12 SB14



第4図 出土遺物 1~10 SM03 13 SM07 15~18 SD05
 11・12 SM06 14 SM09



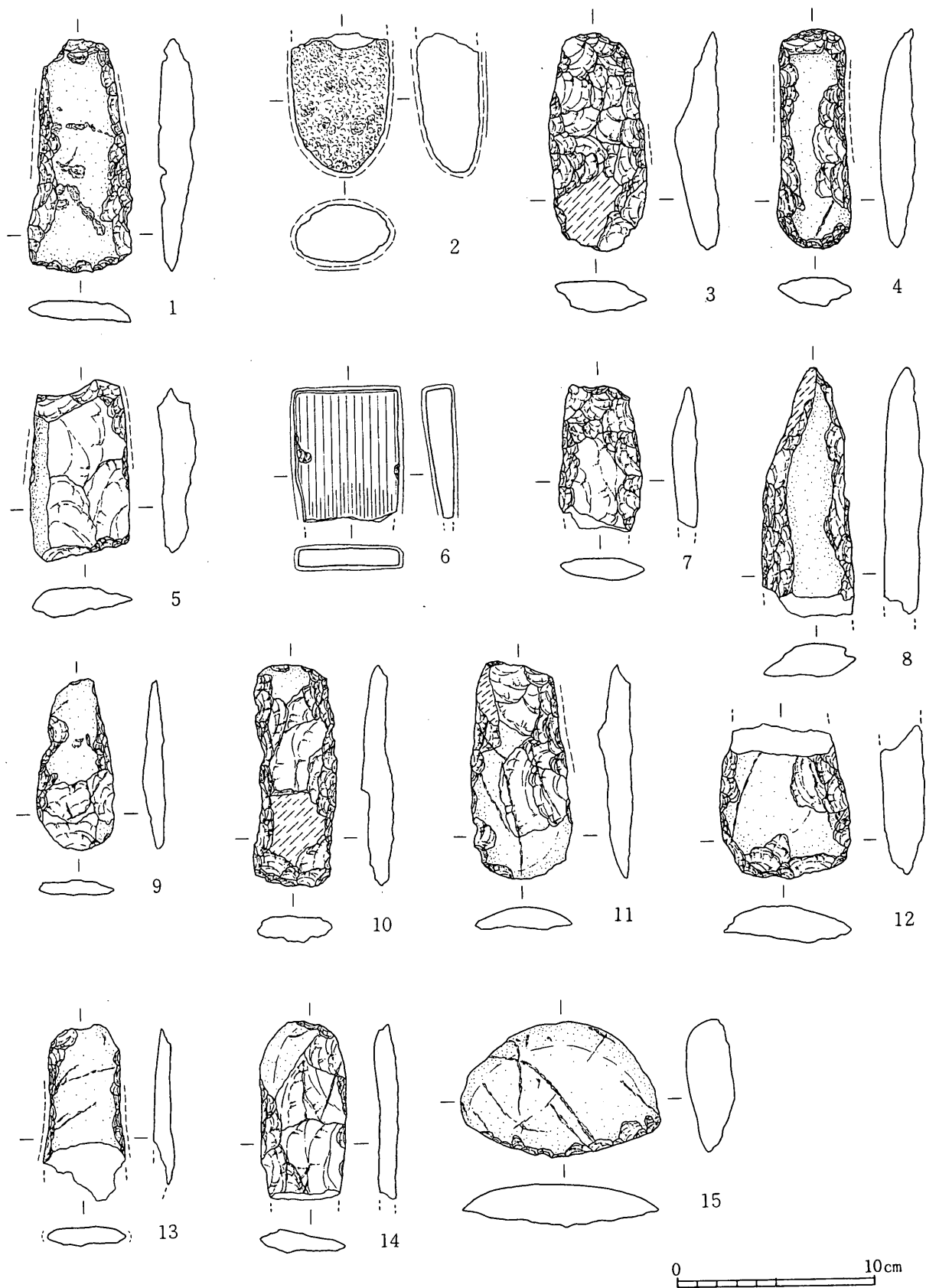
第5圖 出土遺物 1 SB01 4・5 SB03 7・8 SB06
 2・3 SB02 6 SB05 9・10 SB07



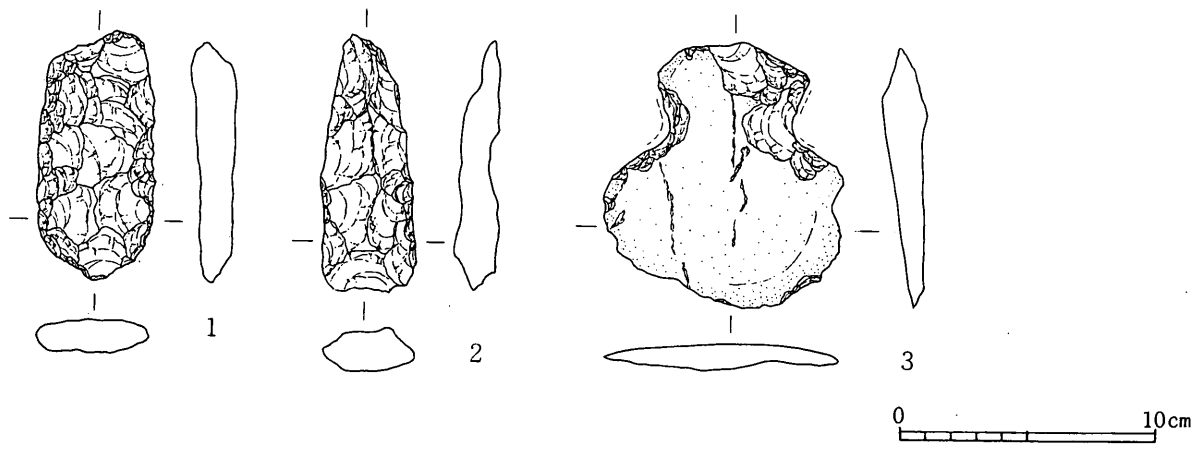
第6図 出土遺物 1~4 SB08
5~7 SB09

8 SB10
9 SB12

10~12 SB13



第7图 出土遺物 1・2 SM03 6~8 SM09
3~5 SM06 9~15 SD05



第8図 出土遺物 1～3遺構外

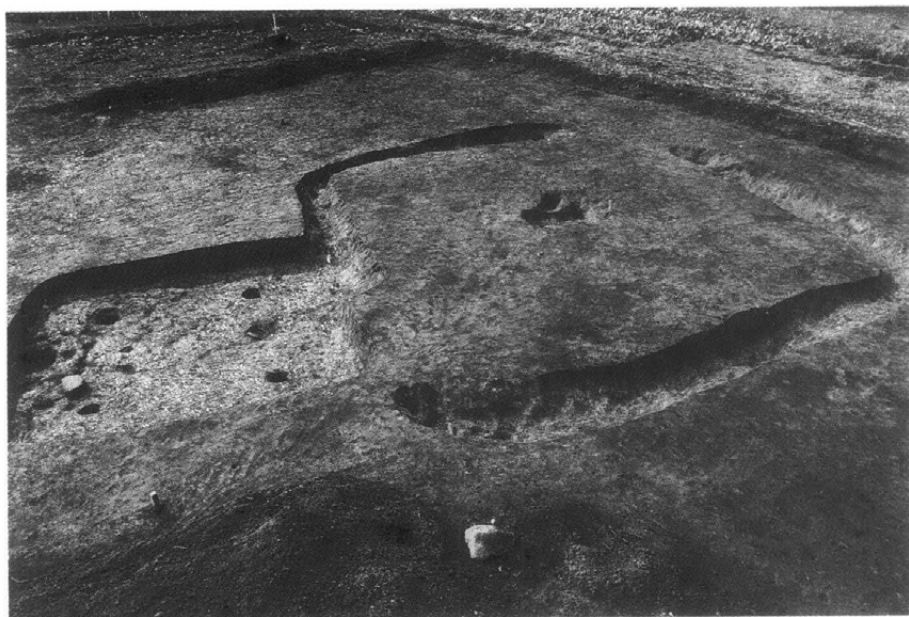
写 真 图 版



調査区全景



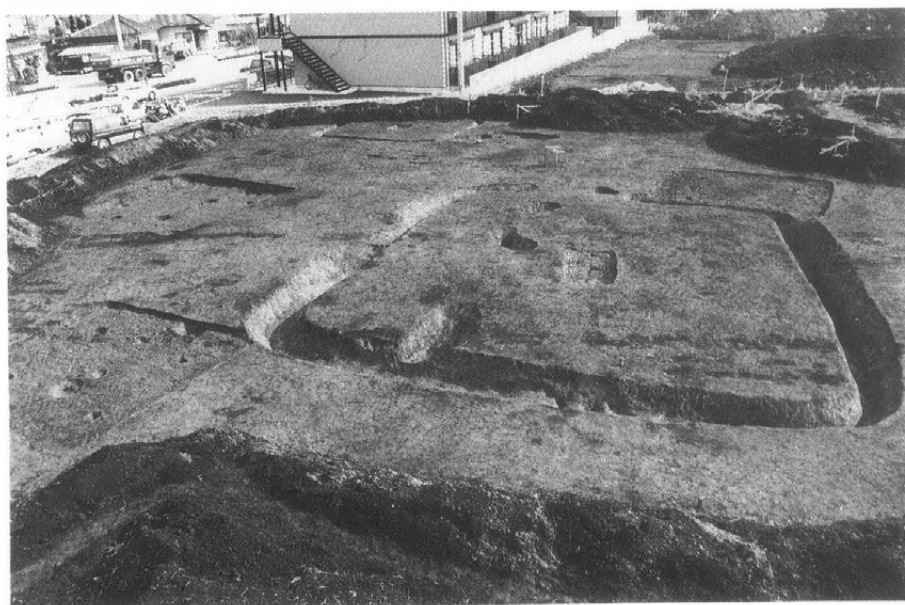
調査区全景(部分)



調査区全景（部分）



同 上



同 上



調査区全景（部分）



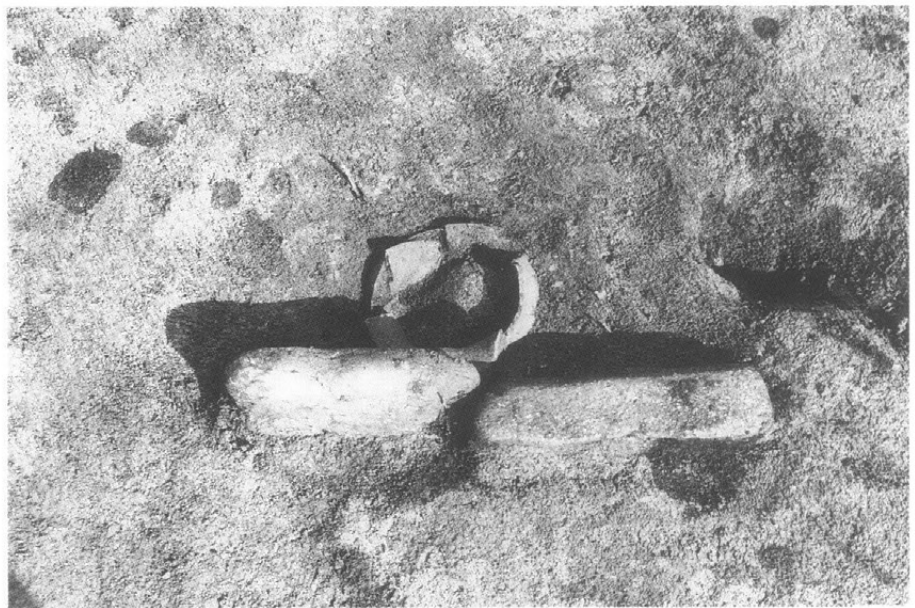
S B01



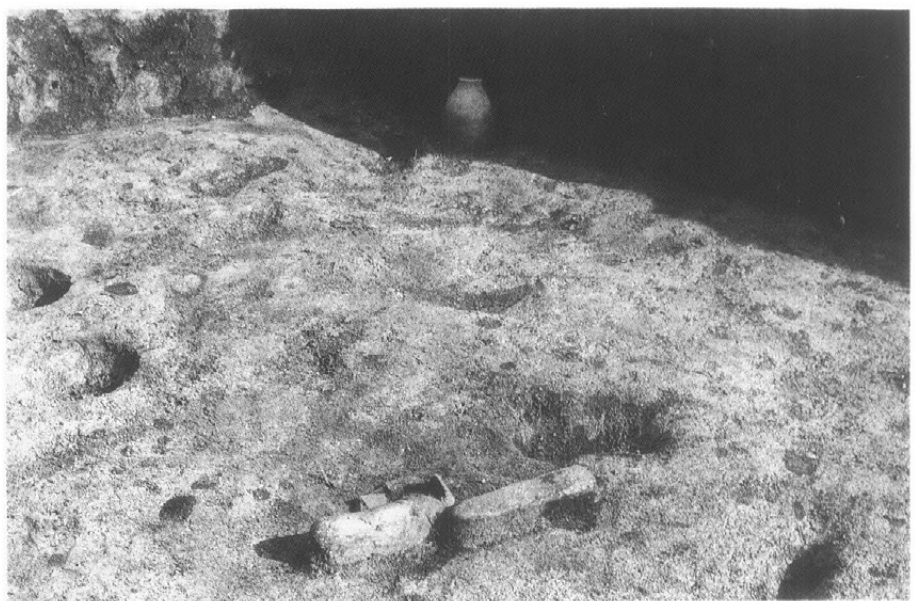
S B01 炉址



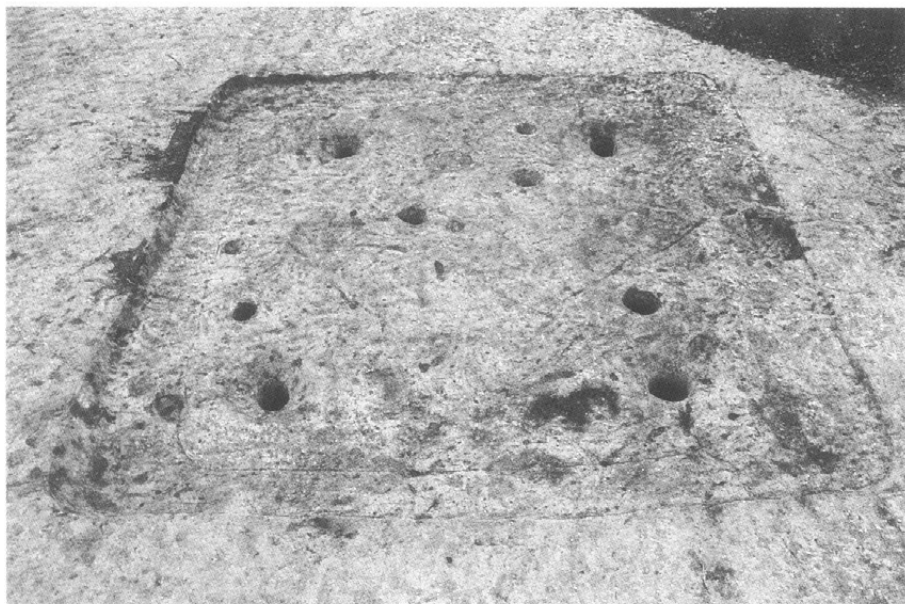
S B02



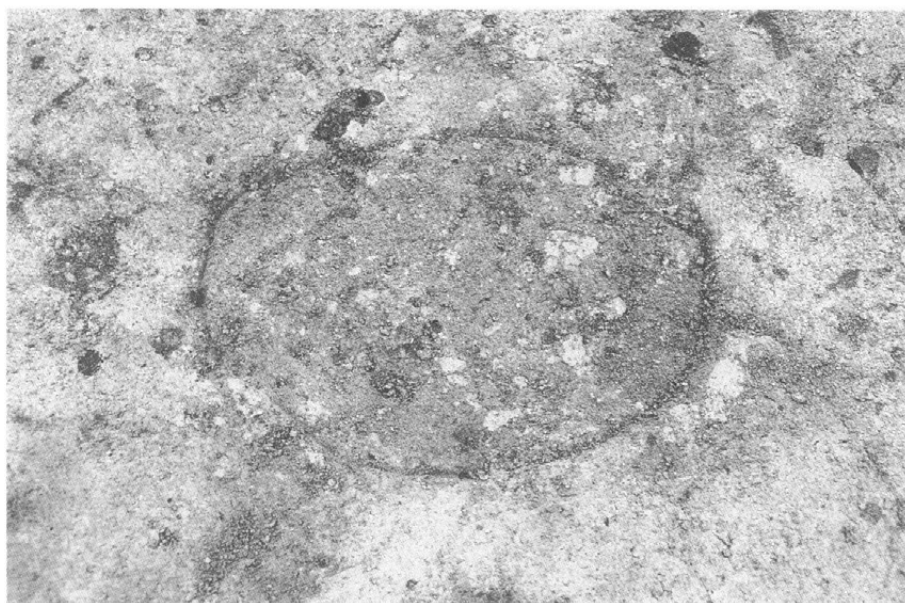
S B02 炉址



S B02 遺物出土状況



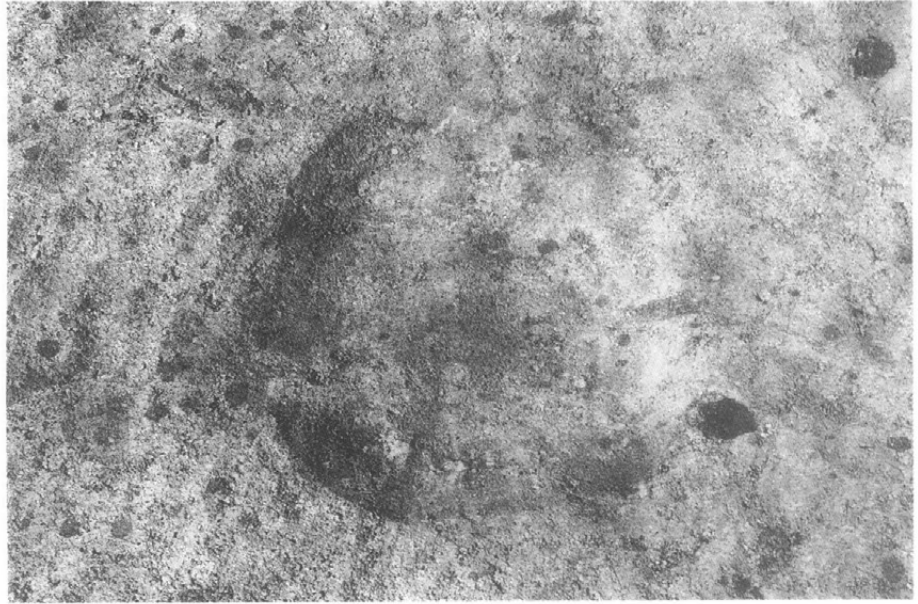
S B03 改築前



S B03 改築前 炉址



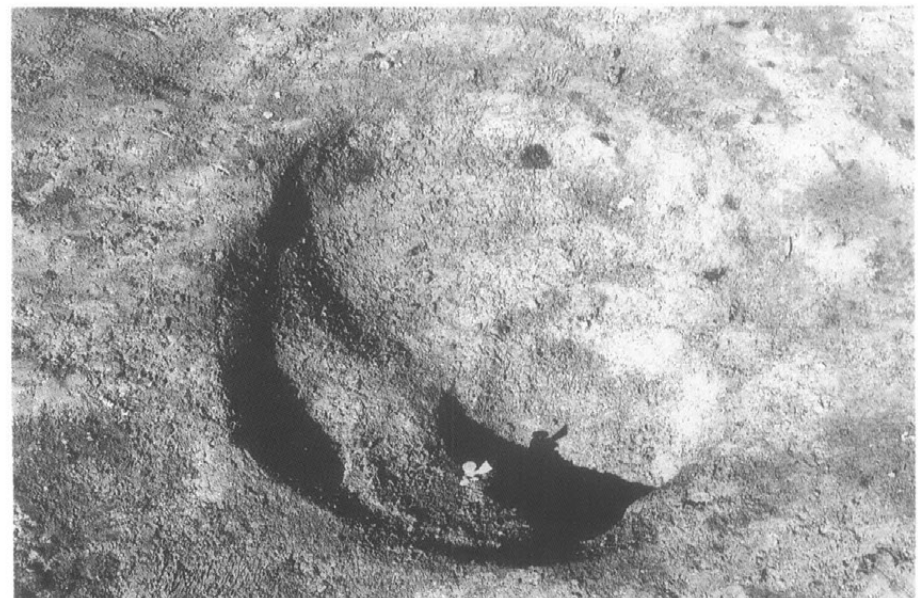
S B03 改築後



S B03 改築後 炉址



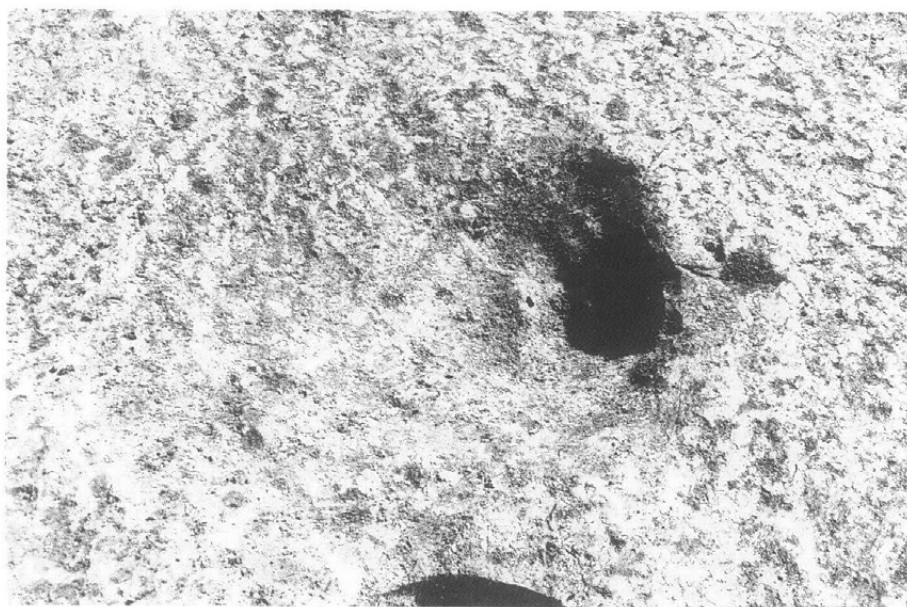
S B04



S B04 炉址



S B05



S B05 旧炉址



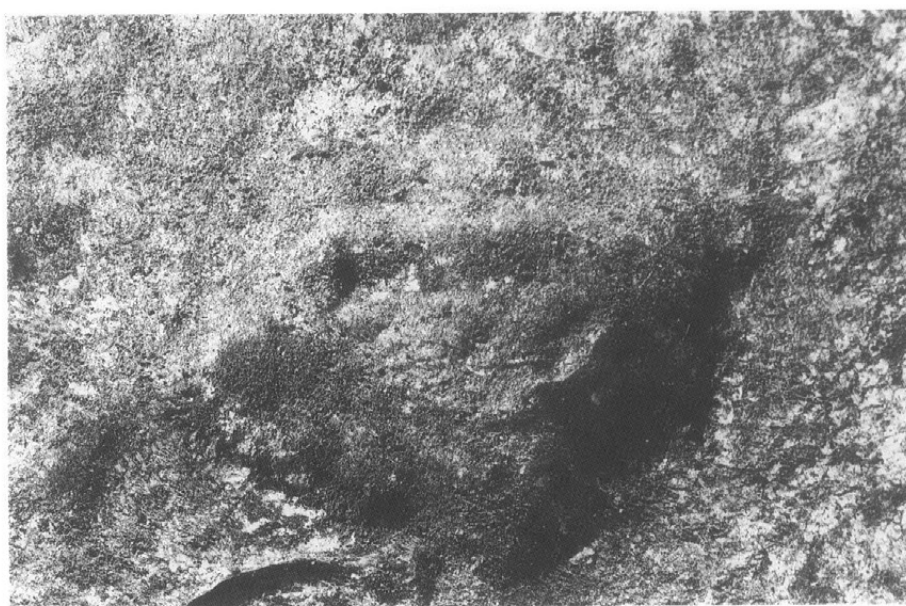
S B05 新炉址



S B06



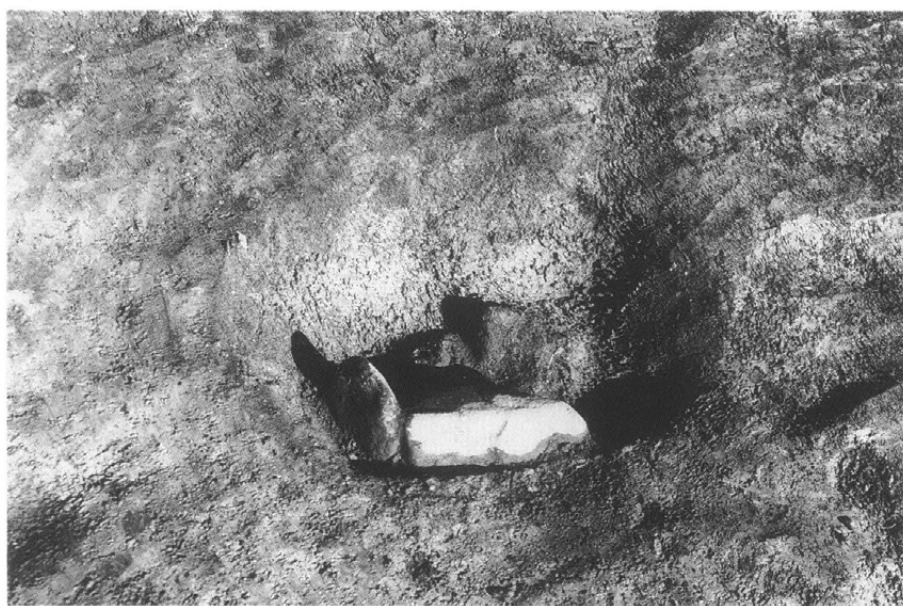
S B06 旧炉址



S B06 新炉址



S B07

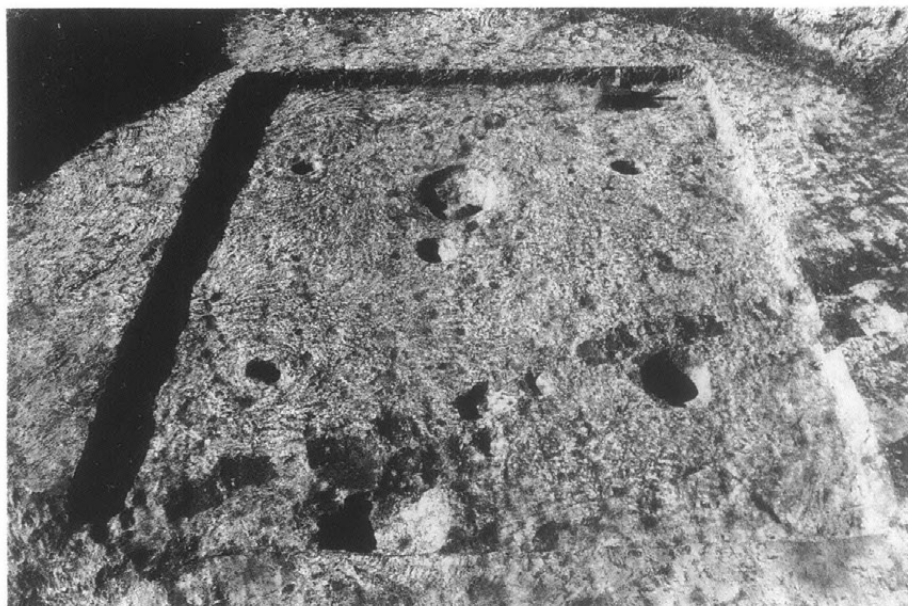


S B07 炉址



S B07 遺物出土狀況

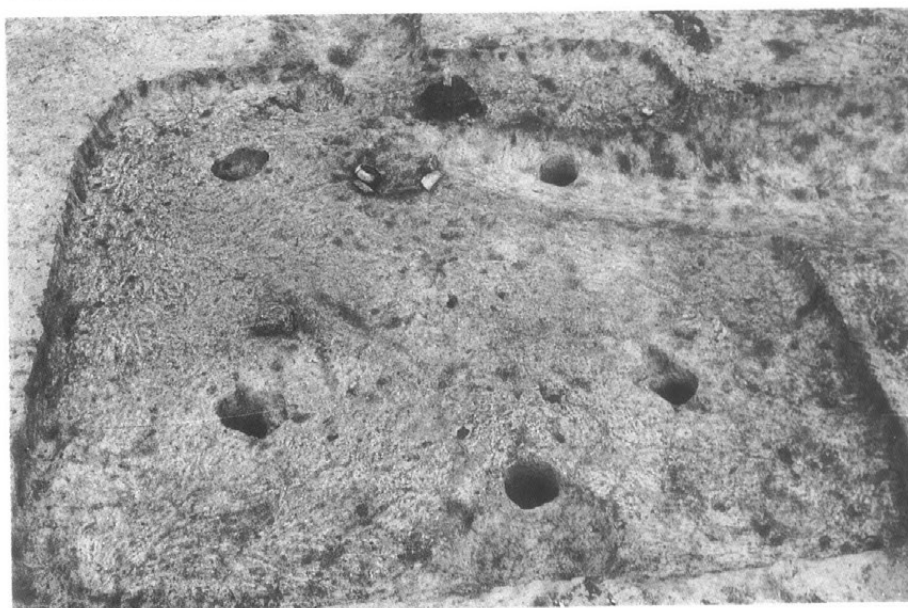
S B08



S B08 炉址



S B09





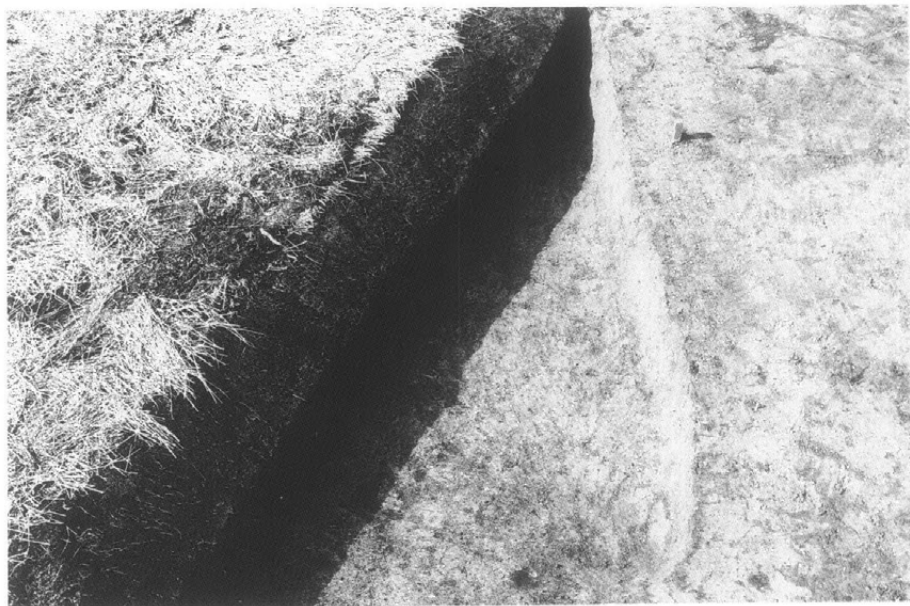
S B09 炉址



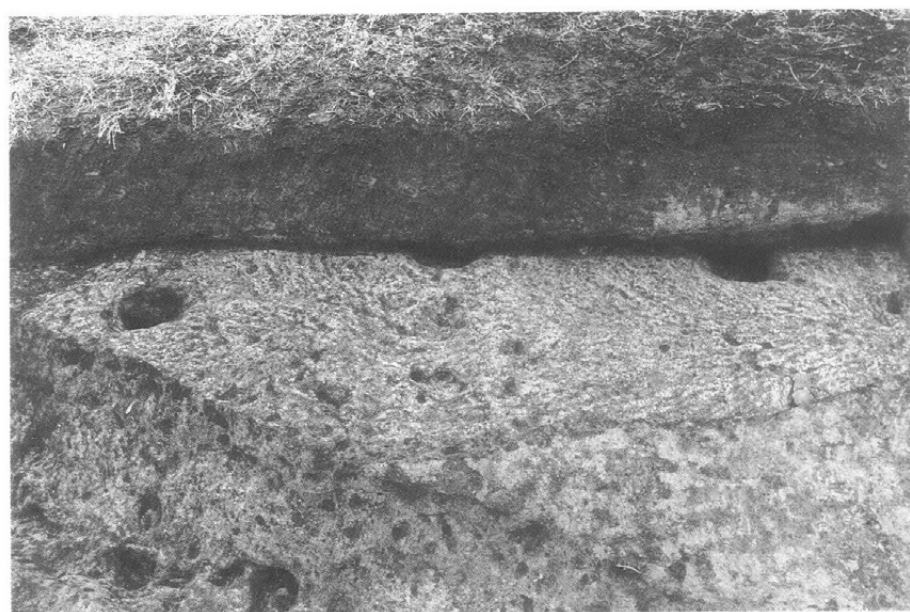
S B10



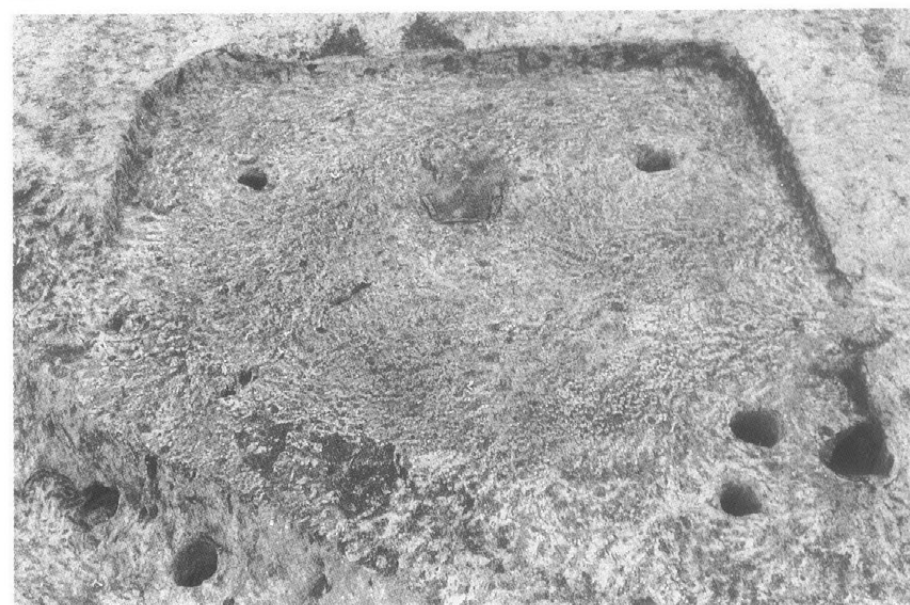
S B10 炉址



SB11



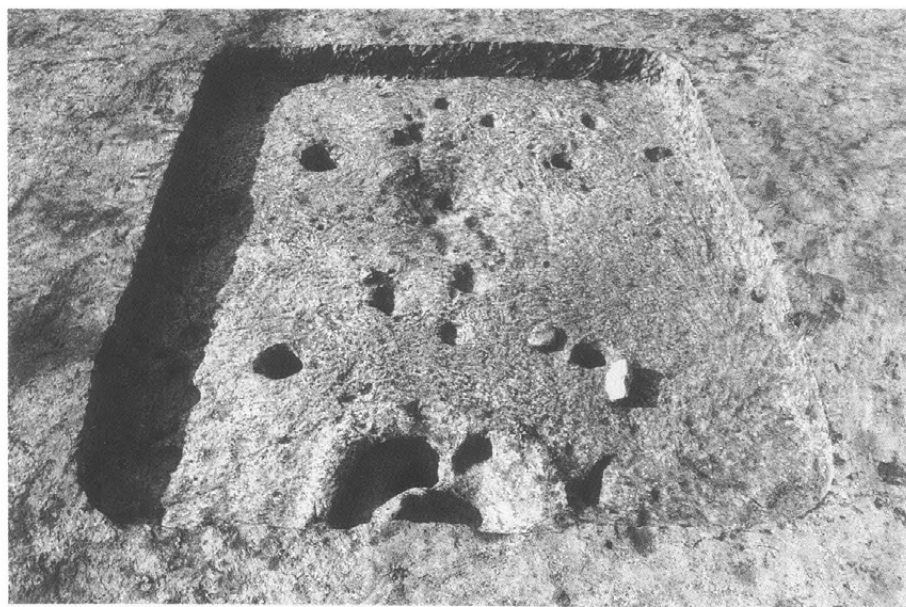
SB12



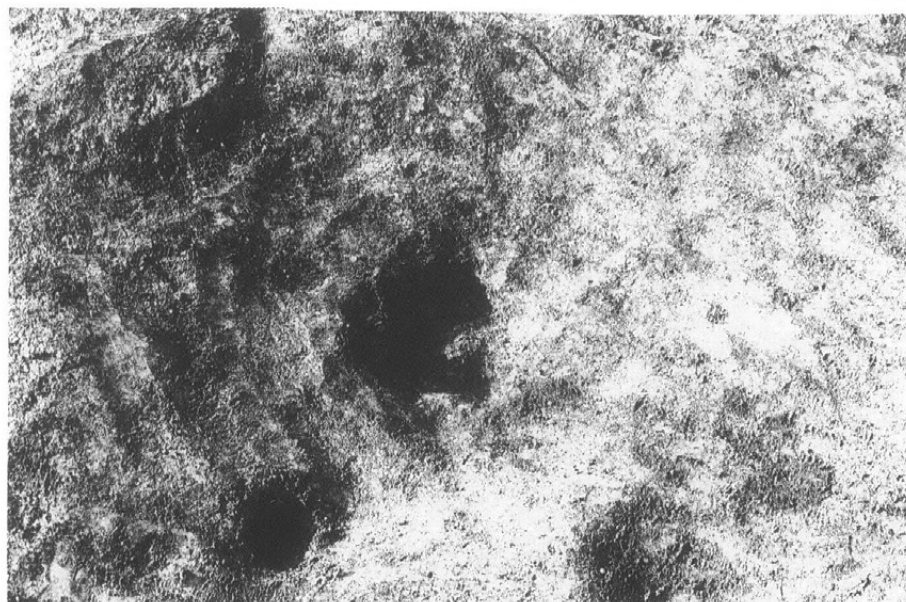
SB13



S B 13 炉址



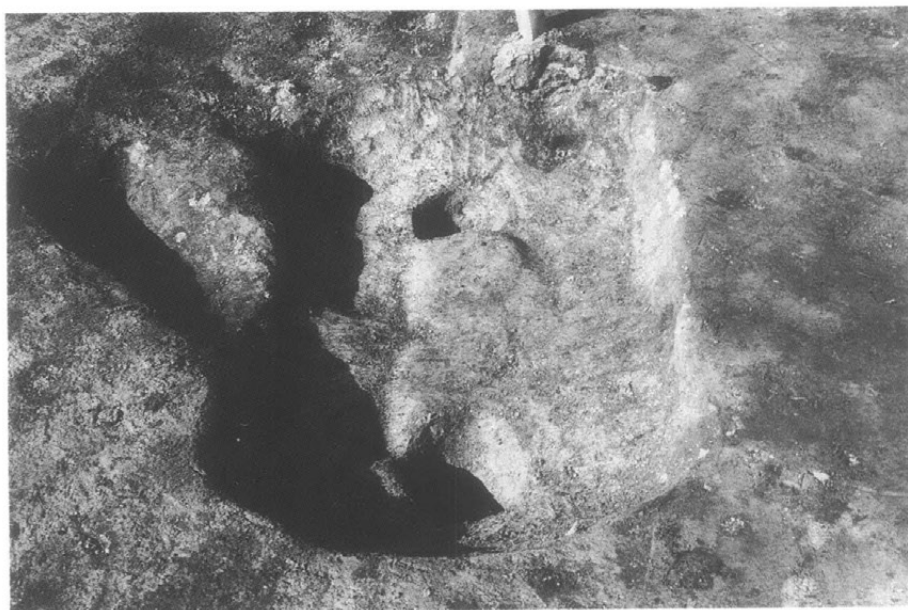
S B 14



S B 14 炉址



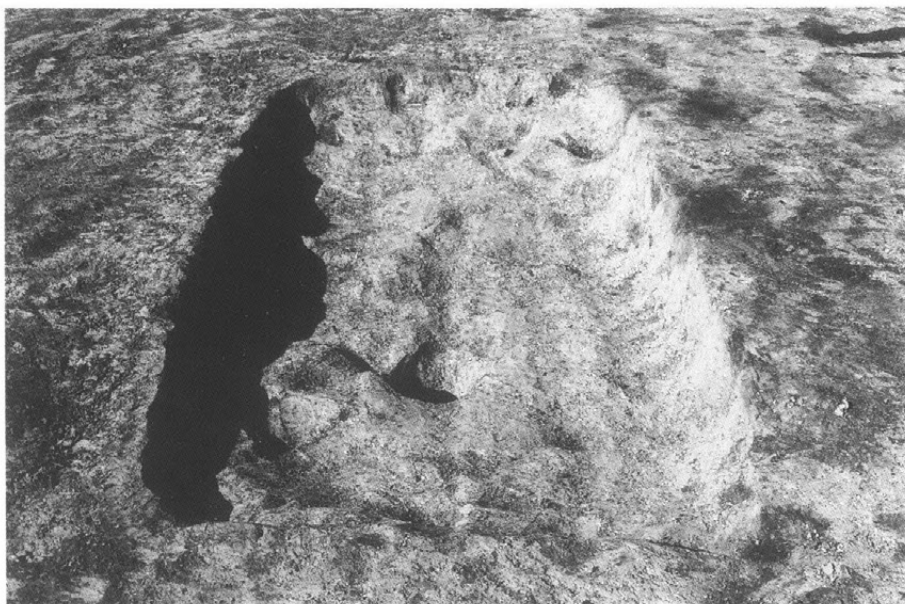
SM02



SM02 主体部



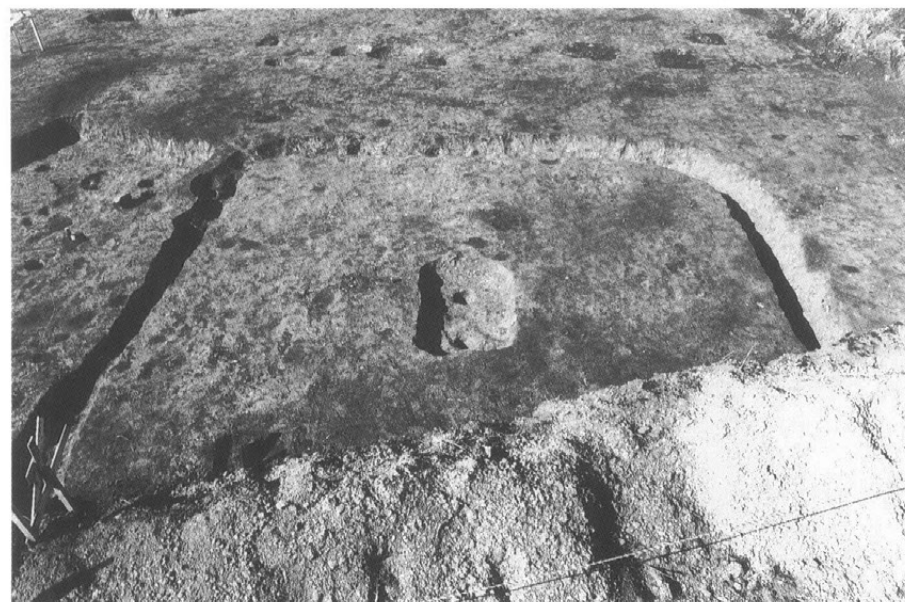
SM03



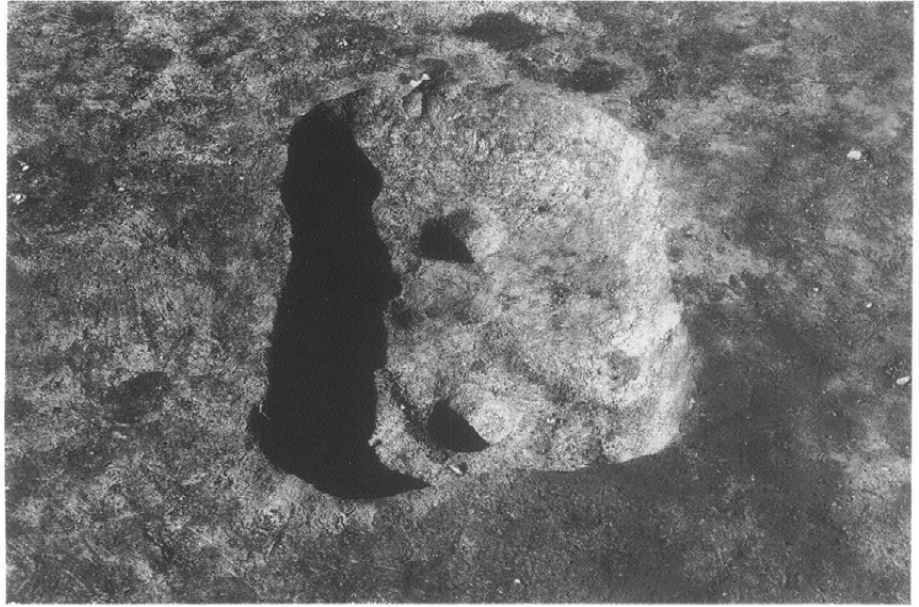
S M03 主体部



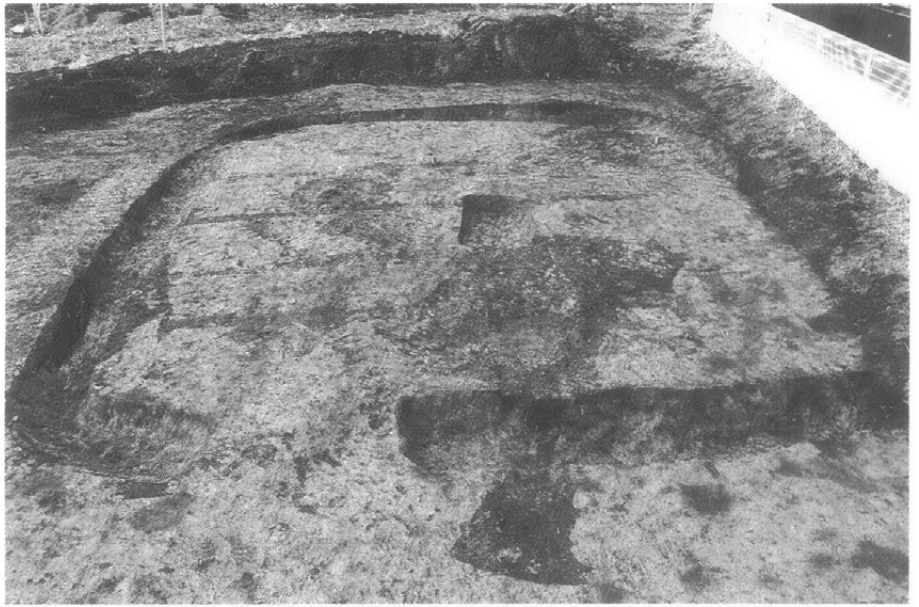
S M03 周溝土層
セクション



S M04



S M04 主体部



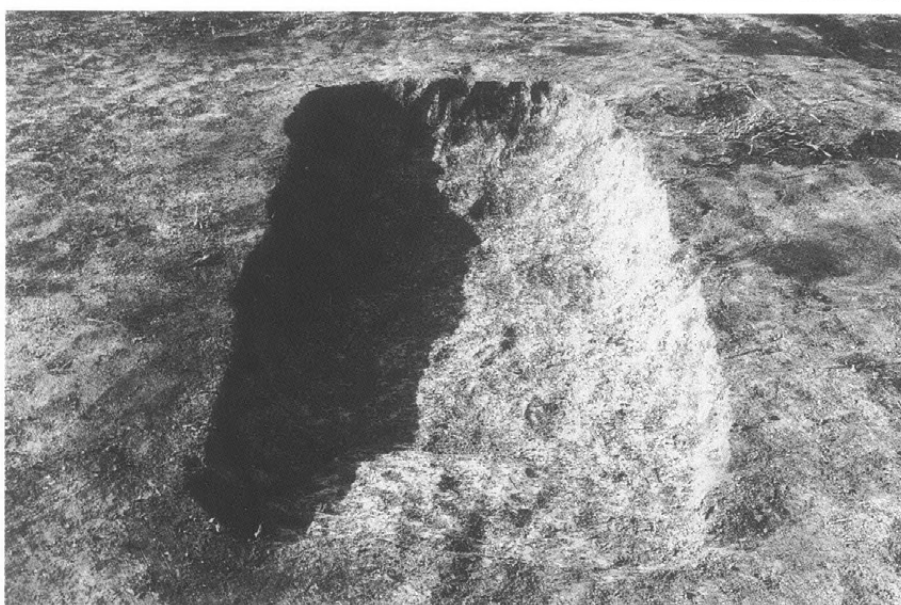
S M05



S M05 主体部



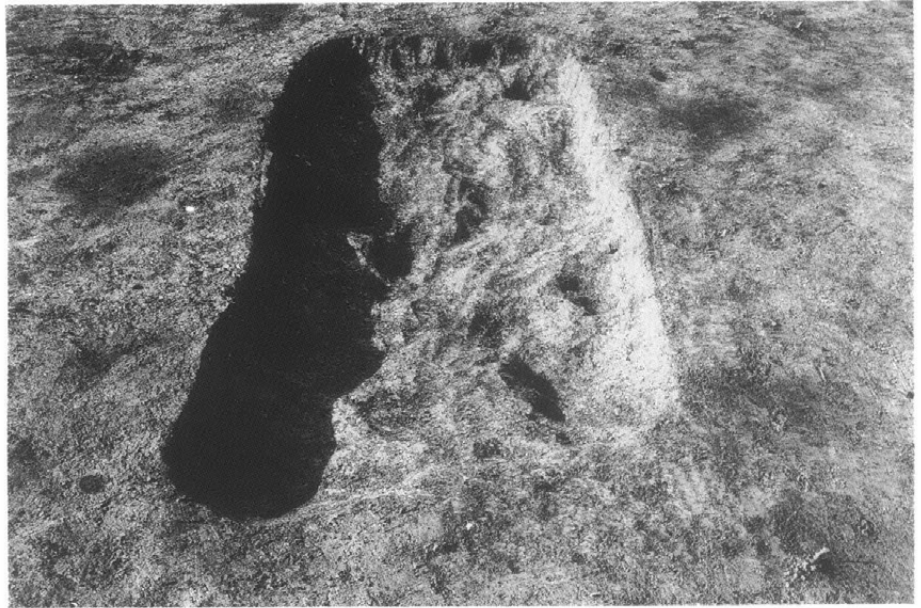
S M06



S M06 主体部



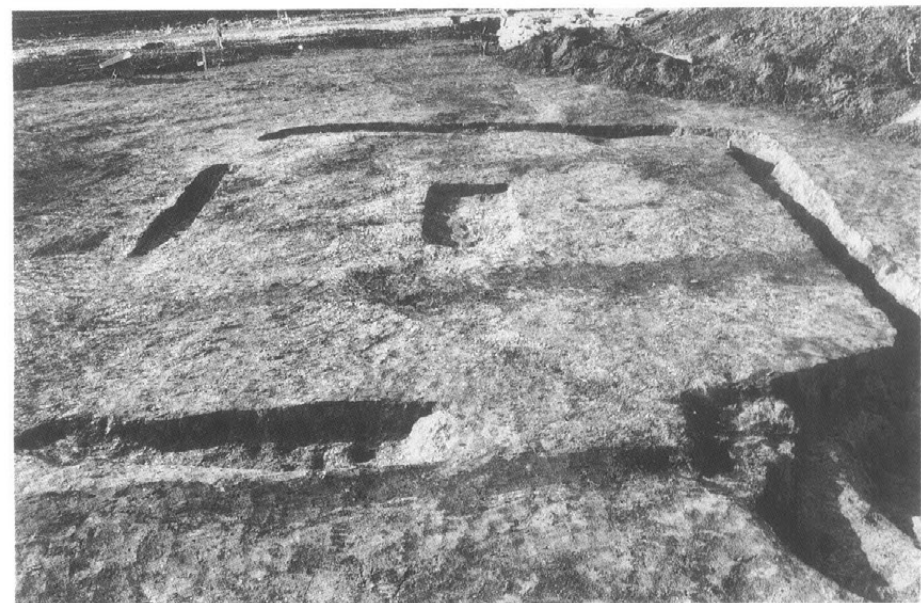
S M07



S M07



S M06・07
切りあいセクション



S M08



S M08 主体部



S M09



S D01・02・03・04

S D05



試掘調査
重機作業調査スナップ



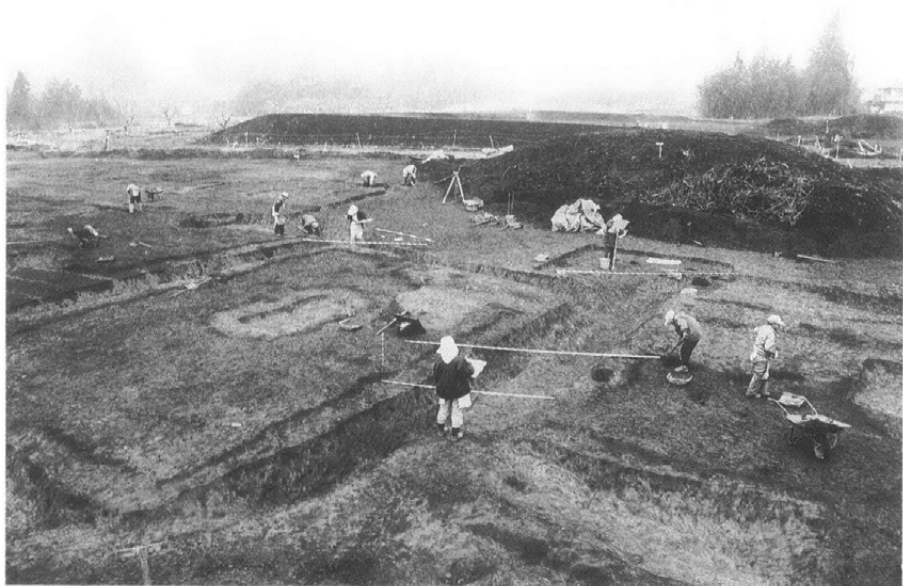
試掘調査
調査スナップ



基準点測量委託スナップ



空中写真委託スナップ



調査スナップ



調査スナップ



同 上



同 上



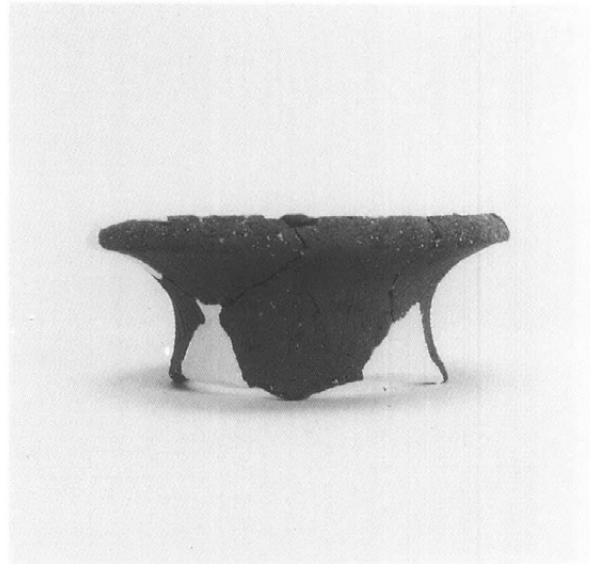
S B01 出土土器



S B01 出土土器



S B01 出土土器



S B02 出土土器



S B02 出土土器



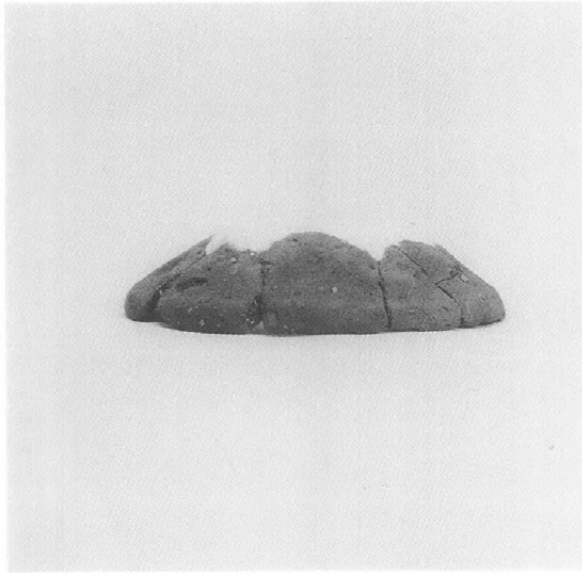
S B02 出土土器



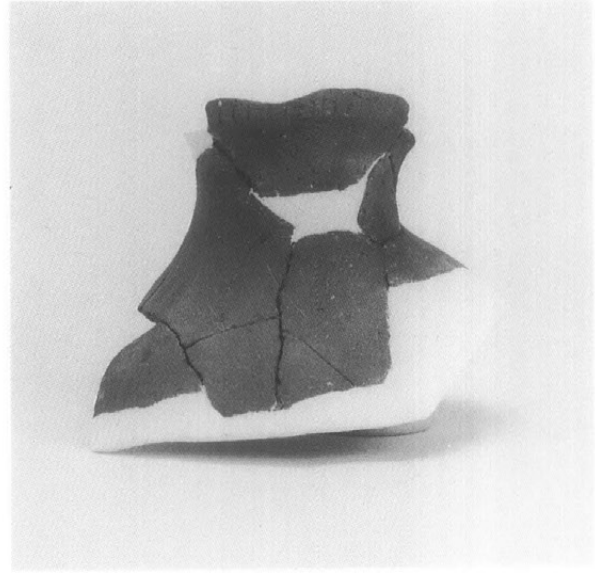
S B02 出土土器



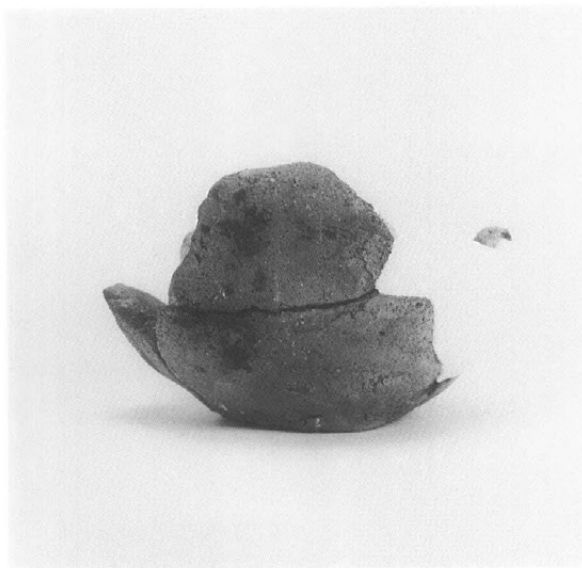
S B03 出土土器



S B03 出土土器



S B06 出土土器



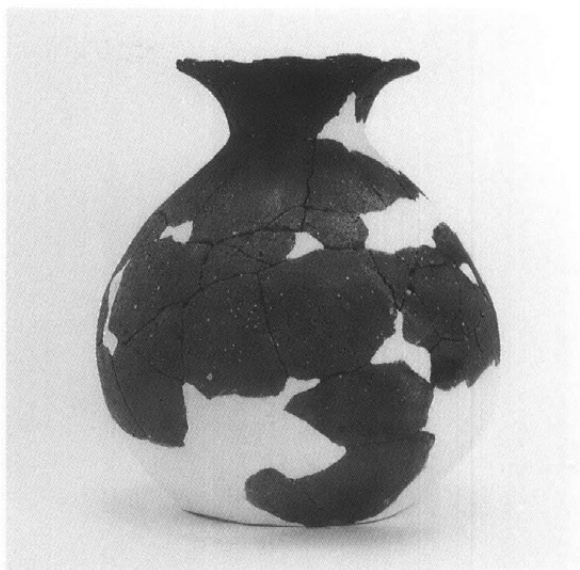
S B06 出土土器



S B07 出土土器



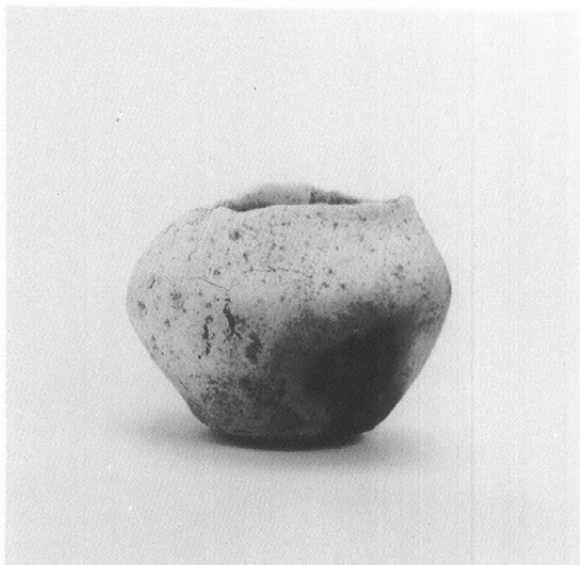
S B07 出土土器



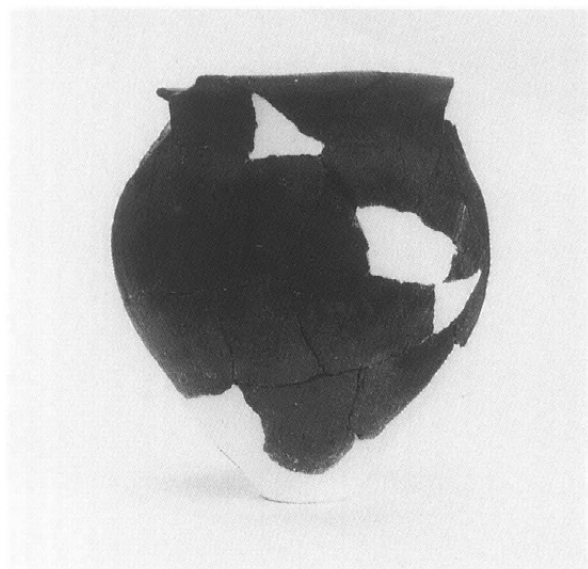
S B07 出土土器



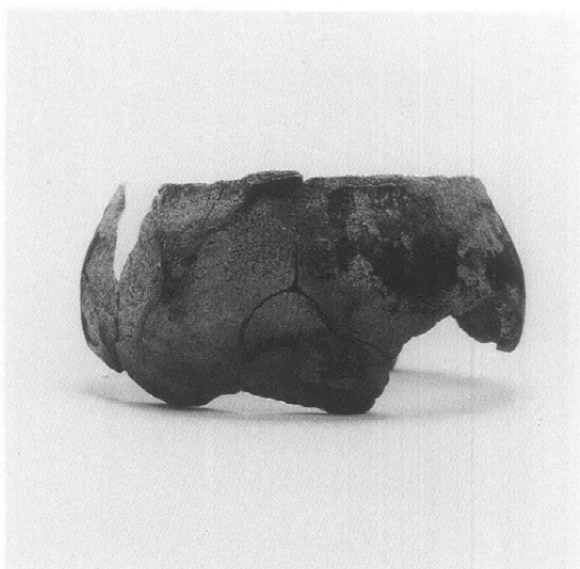
S B07 出土土器



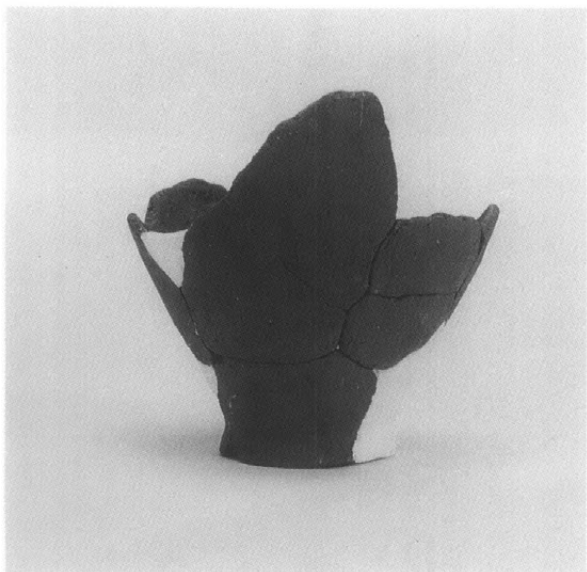
S B09 出土土器



S B09 出土土器



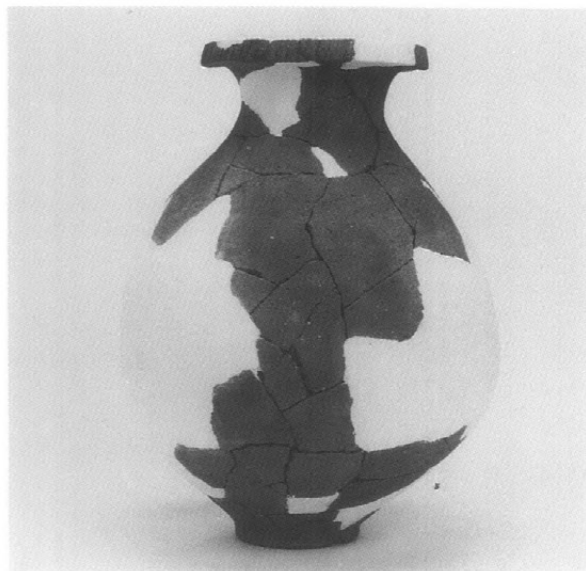
S B09 出土土器



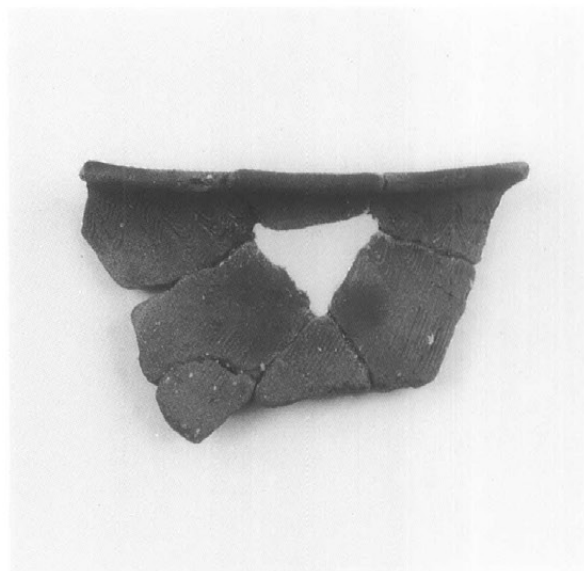
S B13 出土土器



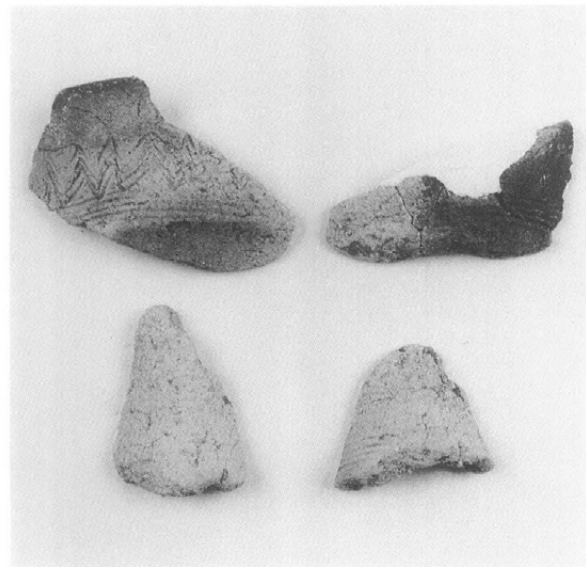
S B14 出土土器



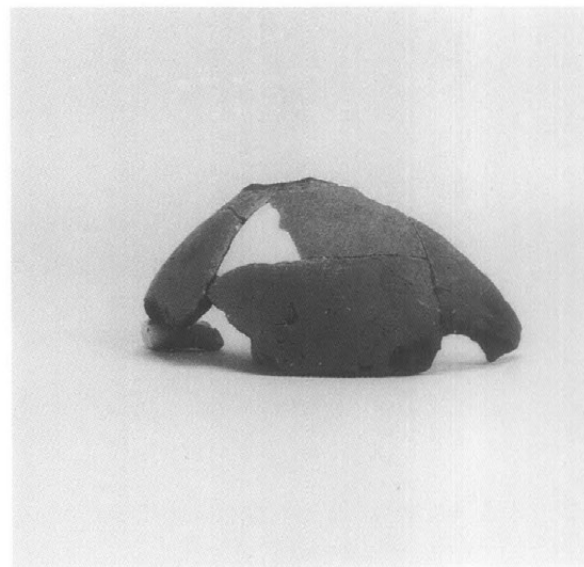
S M03 出土土器



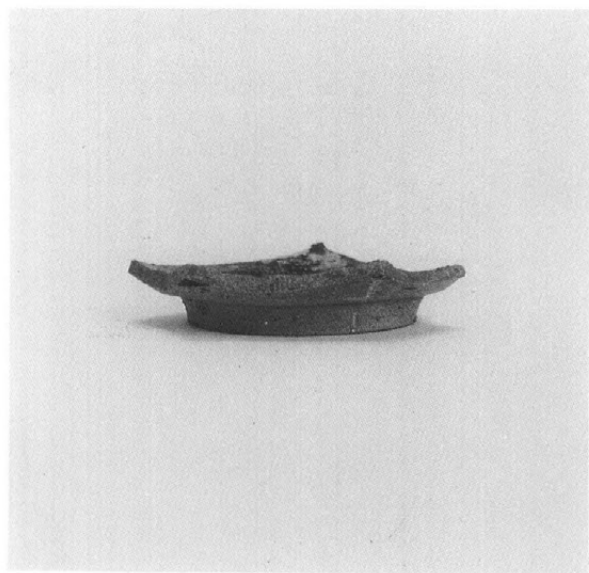
S M03 出土土器



S M03 出土土器



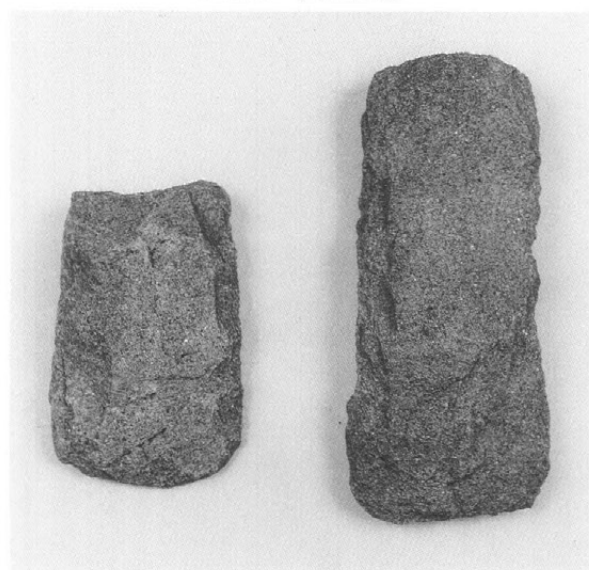
S M06 出土土器



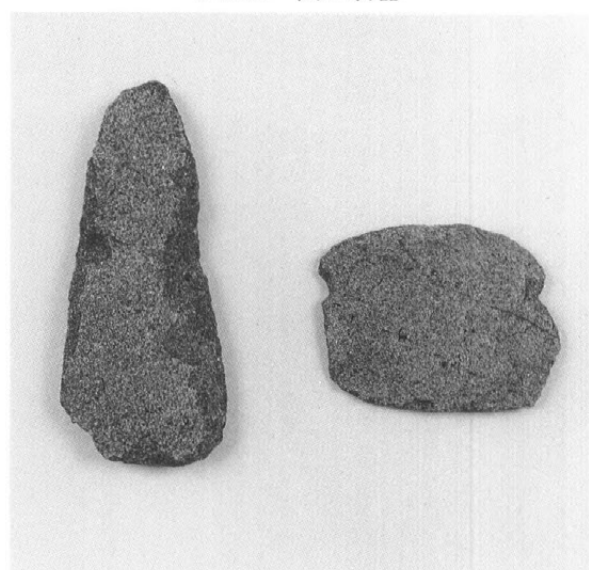
SD05 出土土器



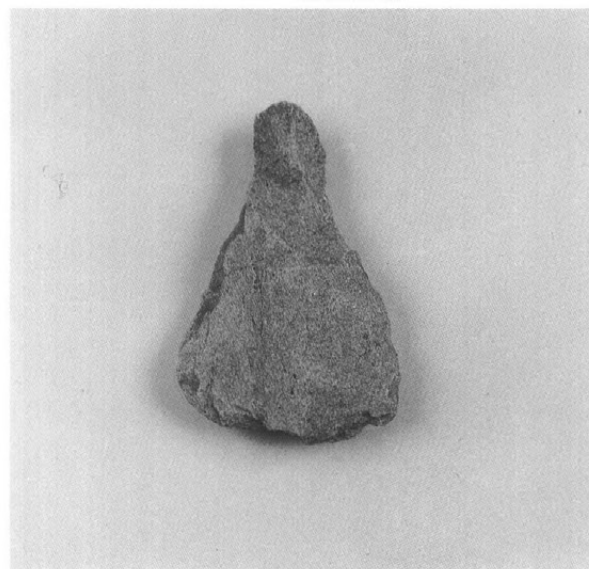
SB01 出土石器



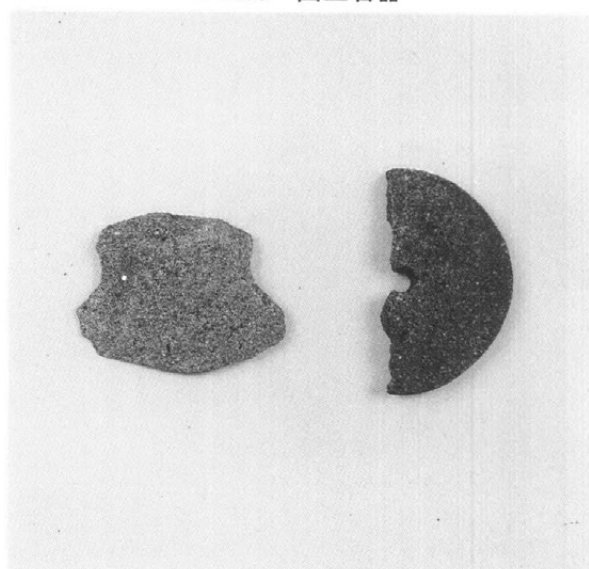
SB02 出土石器



SB03 出土石器



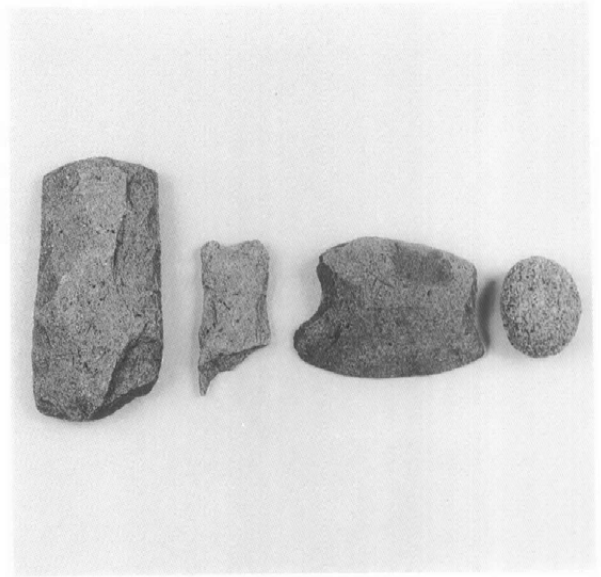
SB05 出土石器



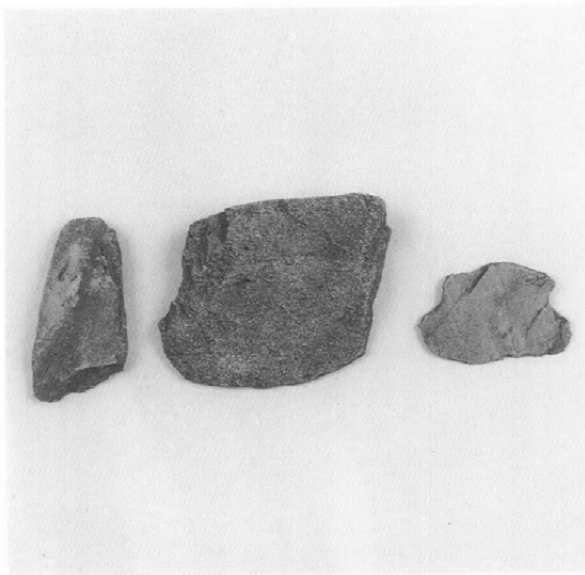
SB06 出土石器



S B07 出土石器



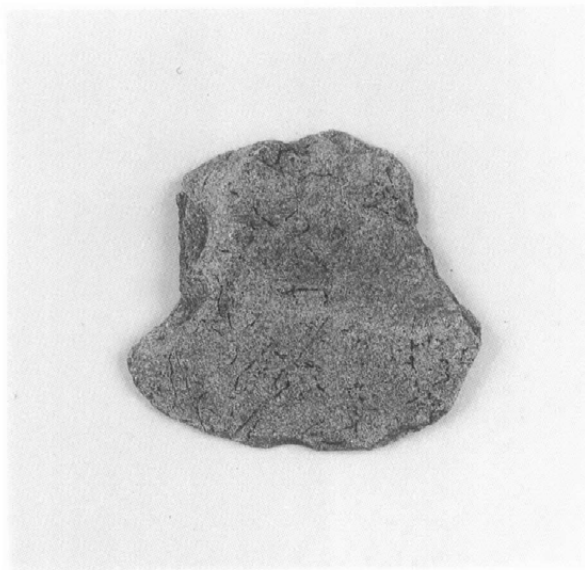
S B08 出土石器



S B09 出土石器



S B10 出土石器



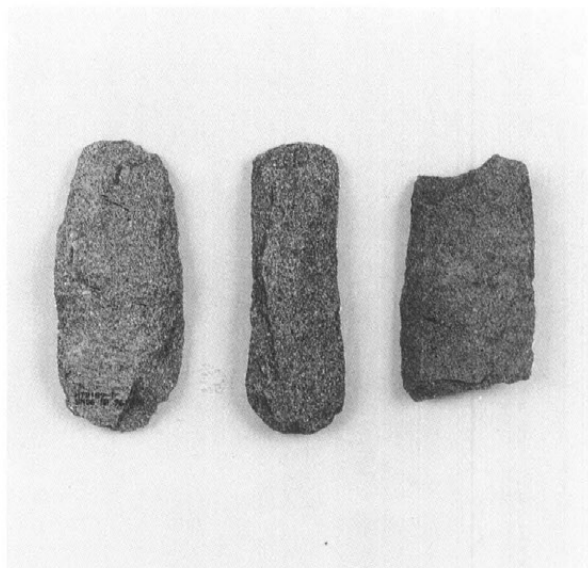
S B12 出土石器



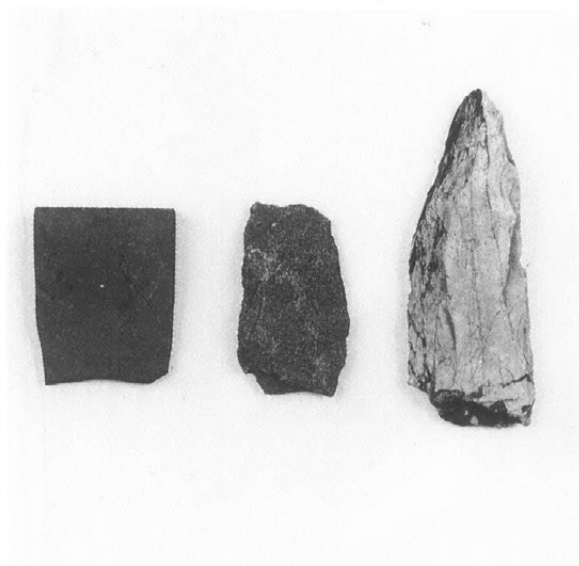
S B13 出土石器



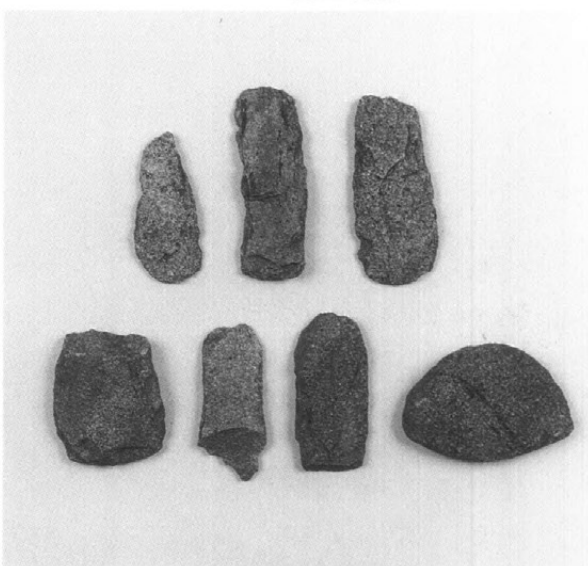
S M03 出土石器



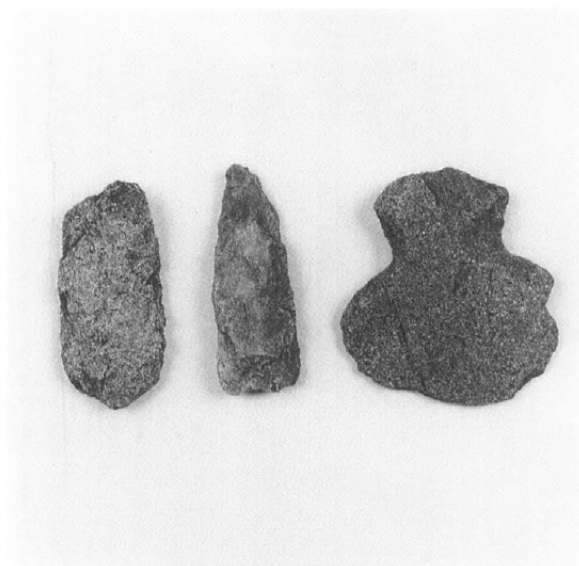
S M06 出土石器



S M09 出土石器



S D05 出土石器



遺構外出土石器



報 告 書 抄 録

ふりがな	はりつけばらいせきⅡ							
書名	はりつけ原遺跡Ⅱ							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	吉川金利							
編集機関	長野県飯田市教育委員会							
所在地	〒395 長野県飯田市上郷飯沼3145番地0265-(53)-4545							
発行年月日	西暦1998年3月 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ 市町村	ド 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
はりつけばら はりつけ原	いだし 飯田市 おおせぎ 大瀬木	2053		35° 29' 32"	137° 48' 5"	平成8年11月15日 から 平成8年12月17日	4876	倉庫及び 事務所 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
はりつけ原	散布地	弥生時代 中世	竪穴住居址 方形周溝簿 溝址	14軒 8基 5条	弥生土器 弥生石器 山茶碗			

は り つ け 原 遺 跡 II

調査報告書

1998年3月 発行

編集・発行 長野県飯田市上郷飯沼3145番地

長野県飯田市教育委員会

印刷 飯田共同印刷(株)
